

Institute for Advanced Studies on Asia

第2期
中期目標期間の
外部評価に係る
活動報告書
《専任教員編》

2010年度～2015年度



東京大学東洋文化研究所

目 次

○汎アジア部門	池本 幸生 教授	・ ・ ・ ・	1
	田中 明彦 教授	・ ・ ・ ・	9
	松田 康博 教授	・ ・ ・ ・	15
	名和 克郎 教授	・ ・ ・ ・	23
○東アジア部門 (第一)	高見澤 磨 教授	・ ・ ・ ・	33
	安富 歩 教授	・ ・ ・ ・	38
	黒田 明伸 教授	・ ・ ・ ・	52
	真鍋 祐子 教授	・ ・ ・ ・	58
	平勢 隆郎 教授	・ ・ ・ ・	63
	小寺 敦 准教授	・ ・ ・ ・	68
○東アジア部門 (第二)	中島 隆博 教授	・ ・ ・ ・	73
	大木 康 教授	・ ・ ・ ・	79
	板倉 聖哲 教授	・ ・ ・ ・	85
	塚本 磨充 准教授	・ ・ ・ ・	91
○南アジア部門	高橋 昭雄 教授	・ ・ ・ ・	96
	青山 和佳 准教授	・ ・ ・ ・	102
	古井 龍介 准教授	・ ・ ・ ・	106
	馬場 紀寿 准教授	・ ・ ・ ・	111
○西アジア部門	長澤 榮治 教授	・ ・ ・ ・	114
	羽田 正 教授	・ ・ ・ ・	120
	榭屋 友子 教授	・ ・ ・ ・	128
	鎌田 繁 教授	・ ・ ・ ・	134
	森本 一夫 准教授	・ ・ ・ ・	137
○新世代アジア部門	菅 豊 教授	・ ・ ・ ・	142
	佐藤 仁 教授	・ ・ ・ ・	154
	園田 茂人 教授	・ ・ ・ ・	162

※2016年3月31日現在の専任教員

汎アジア部門

池本幸生 IKEMOTO, Yukio

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ アジアにおける貧困と不平等

個人ホームページ : <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ikemoto>



I. 略歴

【学歴】

1980年 京都大学経済学部経済学科卒業

1993年 博士（経済学）（京都大学）

【職歴】

1980年～90年 アジア経済研究所 研究員

1990年～98年 京都大学東南アジア研究センター 助教授

1998年～2002年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2002年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2010年～現在 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク 副ネットワーク長

2011～2013年 東京大学東洋文化研究所 副所長

II. 取り組んでいるテーマ

アマルティア・センのケイパビリティ・アプローチの応用に関する研究：人の暮らしの良さは所得だけでは測れない。人が「何をできるか」「どんな状態になれるか」に着目するのが「ケイパビリティ・アプローチ」である。それを様々な分野で応用し、その有効性を示すことが現在の中心的な研究課題である。

応用分野：発展途上国の貧困問題、日本の不平等問題、貧困対策としての観光開発、サステナブル・コーヒーに関する研究

III. 班研究

- ・ アジアの貧困と不平等の再検討
- ・ アジアの食文化と開発と地域

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (C) 「貧困削減における社会的企業のグローバルな役割：理論と実証」(2010～2012年度)

- ・ JSPS『アジア・アフリカ学術基盤形成事業』「ケイパビリティ・アプローチによる貧困の学際的研究」(コーディネーター)(2011~2013年度)
- ・ グレーター東大塾『新しいアジアの形を構想する』(副塾長)

V. 学外活動(学会、委員、社会活動等)

- ・ 国立民族学博物館 共同研究員(表象のポリティックス) 2013~2015年度
- ・ 立命館大学先端総合学術研究科(論文審査委員) 2012年度
- ・ 大阪府教育委員会(府立三国丘高等学校グローバルハイスクール運営指導委員会委員) 2014~2017年度
- ・ 西大和学園中学校高等学校(グローバルハイスクール事業の事業協力委員) 2014~2018年度
- ・ 高校生のためのオープンキャンパス 2012「コーヒーを通して世界を見よう!」 2012年8月7日
- ・ 「学生向けコーヒーセミナー」 2013年8月6日
- ・ 「東大の研究室をのぞいてみよう!~多様な学生を東大に~」 2013年8月7日「アジアの経済と文化」、2013年12月21日 模擬講義担当
- ・ 高校生のためのオープンキャンパス 2013「コーヒーを通して世界を見よう!」 2013年8月8日
- ・ 高校生のための東京大学オープンキャンパス 2014「ベトナム・コーヒーを飲もう!」 2014年8月6日
- ・ コーヒーサロン: サステナブル・コーヒーを普及させるための一般向け講演会。2005年3月に開始し、10年目を迎え、42回開催した。この間、東大の他、福岡、神戸、金沢、各務原市(岐阜県)、名古屋、静岡市、札幌でも開催した。

(<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ikemoto/sub3.htm>)

2012年度から2014年度までの開催は以下の通りである。

第28回「インスタントコーヒー —製造技術の秘密—」 2012年6月16日 東京大学東洋文化研究所

第29回「ドリップの世界」 2012年8月22日 中部学院大学 各務原キャンパス 大講義室

第30回「アフリカ産の認証コーヒーの話」 2012年9月24日 東京大学東洋文化研究所

第31回「手焙煎:「こつ」の科学」 2012年12月2日 文京区 アカデミー向丘

第32回「ルワンダ・コーヒー: 涙を越えて」 2013年5月30日 JICA 関西講堂

第33回「ルワンダ・コーヒー: 涙を越えて」 2013年7月27日 JICA 東京国際センター講堂

第34回「コーヒーで世界は変えられる」 2013年8月21日 中部学院大学 各務原キャンパス 大講義室

第35回「ルワンダ・コーヒー: 涙を越えて」 2013年10月5日 JICA 中部/名古屋地球ひ

ろば

- 第 36 回「コーヒーの残留農薬問題から見える日本の課題」2014 年 2 月 22 日 東京大学東洋文化研究所
- 第 37 回「コーヒーサロン in 福岡 一杯のコーヒーをサステイナブルに」2014 年 3 月 30 日 メディカルシティ天神ビル
- 第 38 回「コーヒーの遺伝子からみる Seed to Cup」2014 年 3 月 28 日 東京大学東洋文化研究所
- 第 39 回「タイのコーヒーをもっとおいしくしたい！」2014 年 6 月 28 日 東京大学東洋文化研究所
- 第 40 回「進化するコーヒーを語ろう ～ From Seed to Cup」2014 年 8 月 20 日 中部学院大学 各務原キャンパス 大講義室
- 第 41 回「ルワンダ・コーヒー：涙を越えて」2014 年 10 月 4 日 アゴラ静岡 7 階 大会議室
- 第 42 回「みんなが知りたい、本当に美味しいコーヒー その真髄」2015 年 2 月 18 日 金沢市アートホール
- 第 43 回「コーヒーサロン in 北海道～ルワンダ・コーヒー、涙を越えて～」2015 年 3 月 21 日 札幌市教育文化会館

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ (協力講座) 農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻
- ・ (協力講座) 新領域創成科学研究科 国際協力学専攻
- ・ 「汎アジア経済論」(農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻) (夏冬)
- ・ 「地域間連関・交流論」(新領域創成科学研究科 国際協力学専攻) (夏)
- ・ 「開発経済学」(農学部) (冬)
- ・ 「アジアの経済開発」(工学部) (冬)
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	8	7	9
博士課程	8	9	8
博士号取得者数			2

2. 本学以外での教育活動

- ・ 立命館大学文学部 (2009～2013 年度) 「東南アジア特殊講義 I」(夏)

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- Rahman, Pk. Md. Motiur, Noriatsu Matsui and Ikemoto Yukio. *Dynamics of Poverty in Rural Bangladesh*: Springer, 2013.2.
 - アマルティア・セン 『正義のアイデア』 池本幸生 訳 明石書店、2011.12.
-

編著

- 池本幸生 松井範惇 編 『連帯経済とソーシャル・ビジネス—貧困削減、富の再分配のためのケイパビリティ・アプローチ』 明石書店、2015.4.
 - Matsui, Noriatsu and Yukio Ikemoto, eds. *Solidarity Economy and Social Business New Models for a New Society*: Springer, 2015.3.
 - Ikemoto, Yukio, Koji Domon and Tran Dinh Lam, eds. *Small and Medium-sized Enterprises: The Way to Success*: VNU-HCM Publishing House, 2014.6.
-

報告書

- 池本幸生 『日本の開発援助と現地社会』 平成20-22年度科学研究費補助金（基盤研究（B））課題番号20310145 研究成果報告書『ASEAN新規加盟国の「中進国」ベトナムと地域統合』（代表者 古田元夫）、2011.
-

学術論文

- 國分圭介 池本幸生 「東アジアのグローバル化と国内格差、国家間格差」 『Int'lecowk』 第1060号 国際経済労働研究所（2016.5）、7-13.
 - 池本幸生 「認証コーヒーと連帯」 『連帯経済とソーシャル・ビジネス—貧困削減、富の再分配のためのケイパビリティ・アプローチ』 明石書店、2015.4、163-184.
 - 池本幸生 松井範惇 「連帯とソーシャル・ビジネス—理論的背景」 『連帯経済とソーシャル・ビジネス—貧困削減、富の再分配のためのケイパビリティ・アプローチ』 明石書店、2015.4、12-28.
 - 金氣興 池本幸生 「有機農業における連帯の役割」 『連帯経済とソーシャル・ビジネス—貧困削減、富の再分配のためのケイパビリティ・アプローチ』 明石書店、2015.4、148-162.
-

-
- Yukio, Ikemoto and Matsui Noriatsu. "Solidarity and Social Business: theoretical Background." *Solidarity Economy and Social Business New Models for a New Society, Springer Briefs in Economics*: Springer, 2015.3 : 1-11.
 - Yukio, Ikemoto. "Certified Coffee and Solidarity." *Solidarity Economy and Social Business New Models for a New Society, Springer Briefs in Economics*: Springer, 2015.3 : 81-94.
 - Kim Ki-Hueng, and Ikemoto Yukio. "Role of Solidarity in Organic Agriculture." *Solidarity Economy and Social Business New Models for a New Society, Springer Briefs in Economics*: Springer, 2015.3 : 73-80.
 - 國分圭介・倉田正充・池本幸生 「世界の所得格差：国家間格差と国内格差」 『統計』 第66巻 第2号 (2015.2)、17-25.
 - Yukio, Ikemoto and Yuka Matsumoto. "The Role of Democracy in Local Autonomy: Transcendental Institutionalism vs. Comparative Approach." *Public Affairs in ASEAN Community; 1st Khon Kaen University International Conference on Public Administration 2014 Proceeding*. Thailand: Khon Kaen University, 2014.8 : 3-20.
 - Ponluksanapimol, R., & Y. Ikemoto. "The Effectiveness of Thailand's 7 Greens Initiative for Tourism Sustainability in Nan Province." *Journal of Tourism, Hospitality and Culinary Arts* 5, no. 2 2014.6.
 - Ikemoto, Yukio. "Roles of the SMEs in Japanese Development." *Small and Medium-sized Enterprises: The Way to Success*. Edited by Yukio Ikemoto, Koji Domon and Tran Dinh Lam: VNU-HCM Publishing House, 2014.6 : 84-101.
 - Ponluksanapimol, R. & Y. Ikemoto. "Development toward Sustainable Tourism: A Case Study of Nan Province, Thailand." *The International Journal of Social Sustainability in Economic, Social, and Cultural Context* 9, no. 4 2014.3.
 - 池本幸生 「ASEAN バロメーターと地域研究—総特集「ASEAN 諸国における健康と環境—草の根からの共同体実現にむけて」を読んで」 『地域研究 総特集グローバル・スタディーズ』 第14巻 第1号 京都大学地域研究統合情報センター (2014.3)、264-268.
 - Charoenphandhu, N., Ikemoto, Y. "Income Inequality and Sustainability: A Case Study in the Northeast of Thailand." *The International Journal of Environmental, Cultural, Economic, and Social Sustainability* 2014.1.
 - Charoenphandhu, N., Ikemoto, Y. "Income Distribution and Political Conflicts." *International Journal of Thai Studies* 2013.12.
 - Yukio, Ikemoto. "Japan's Crisis from the Perspective of Amartya Sen's Idea of Justice." *East Asia in the Context of World/Global History* (2012.12): 439-440.
 - 池本幸生 「アマルティア・センの『正義のアイデア』から見る日本の危機」『世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア』 (2012.12)、262-271.
 - 池本幸生 「从阿玛蒂亚·森的《正义的理念》看到的日本的危机」『世界史/全球史视野中的东亚』 (2012.12)、159-167. (中国語)
-

-
- Charoenphandhu, N., Ikemoto, Y. "Income Distribution in Thailand: Decomposition Analysis of Regional Income Disparity." *Journal of Rural Economics* 2012.12: 387-394.
 - Kurata, Masamitsu and Yukio Ikemoto. "Decentralization and Economic Development in Thailand: Regional Disparity in Fiscal Capacity and Educational Decentralization." *Fiscal Decentralization and Development; Experiences of Three Developing Countries in Southeast Asia*. Edited by Hiroko Utimura: palgrave macmillan, 2012.5 : 171-201.
 - Pk.Md.Motiur Rahman, 松井範惇 池本幸生 「Inter-Temporal Mobility of Poverty Status in Rural Bangladesh」『帝京経済学研究』 第45巻 第2号 (2012.3)、67-83. (英語) [\[Link\]](#)
 - 倉田正充 松井惇範 Rahman, Pk. Md. Motiur 池本幸生 「バングラデシュ農村における多元的貧困の動態」『アジア経済』 第53巻 第2号 (2012.2)、2-20.
 - 池本幸生 「生産者と消費者をつなぐもの——ベトナム・コーヒーにみる生業と生産の社会的布置」 松井健 編 『グローバリゼーションと〈生きる世界〉—生業からみた人類学的現在』 昭和堂、2011.4.
 - 池本幸生 「日本の開発援助と現地社会」 『平成20-22年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）課題番号20310145 研究成果報告書『ASEAN新規加盟国の「中進国」ベトナムと地域統合』（代表者 古田元夫）』（2011.3）、117-123.
 - 池本幸生 「豊かさとは何か」『毎日新聞』（2011.）.
 - 池本幸生 「少数民族の社会的地位と観光の役割——ケイパビリティ・アプローチの観点から」 江口信清、藤巻正己 編 『貧困の超克とツーリズム』 明石書店、2010.4.
-

書評論文・書誌紹介

- 池本幸生 「書評：小塩隆士著『「幸せ」の決まり方——主観的厚生と経済学』」 『経済研究』 第67巻 第1号 (2016.1)、90-92.
-

口頭発表

- Ikemoto, Yukio. "The Role of Democracy in Local Autonomy: Transcendental Institutionalism vs. Comparative Approach." Presented at the *1st International Conference on Public Administration Khon Kaen University (KKU-ICPA)*, Khon Kaen University, Thailand, August 28 2014.
 - Yukio, Ikemoto. "Inequality in Japanese society." Presented at the *UTokyo Forum 2013 Brazil*, University of Sao Paulo, November 11 2013.
 - Yukio, Ikemoto. "Economic Development and Conflicts in East Asia." Presented at the *UTokyo Forum 2013 Chile*, Pontificia Universidad Catolica de Chile, November 8 2013. [\[Link\]](#)
-

-
- Ikemoto, Yukio. "ASEAN Economic Community (AEC) in a Wider Perspective." Presented at the *The Bank of Thailand, Northeastern Region Office, and Faculty of Humanities and Social Sciences, Khon Kaen University*, Khon Kaen, Thailand, June 13 2013.
 - 池本幸生 「コメント：小野寺史郎「近代中国における国恥概念」 東洋文化研究所、京都大学人文科学研究所、成均館大学校 東アジア学院 『アジアの「記憶」』 東洋文化研究所 2013年1月25日.
-

新聞記事

- 横井一隆 インタビュー：池本幸生 「研究室散歩 @生産者の貧困問題」 『東京大学新聞』 2015年2月10日、3、東京大学出版社.
 - 池本幸生 「文匯学人：理性民主的討論是使社会趋近正义的有效手段」 『文匯報』 2013年2月18日、文匯新民聯合报业集团. (中国語) [\[Link\]](#)
-

事典等項目

- 池本幸生 「連帯経済」 国立民族学博物館 編 『世界民族百科事典』 丸善出版、(2014. 7)、606-607.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

研究業績に関しては、当該期間で単著書1冊(英語)、訳書1冊、編著3冊(うち英語2件)、学術論文26件(うち、英語13件、中国語1件)、口頭発表5件(うち英語4件)を発表した。

ノーベル経済学賞を受賞したアマルティア・センが主導するケイパビリティ・アプローチに関する理論研究、さらにその理論をフィールドで応用した実践研究を継続している。学術的意義としては、経済学が利己主義的な個人を想定して組み立てられているのに対して、利他的な動機も含み、さらに非経済的な価値をも対象に含めようとするものであり、現実的な経済的アプローチを模索している。それは、どのような社会が望ましいかという議論をも可能にする(経済学では所得が高いほど望ましい社会とされる)。

社会的意義としては、実際に様々な分野で行なわれている連帯経済的な活動を広く知らせ、そのような活動を促進する可能性がある。*Solidarity Economy and Social Business New Models for a New Society* (2015) は教科書であり、世界的に利用される可能性がある。また、その日本語版も出ており、大学の教科書として利用されている。これらのことから、社会的なインパクトも大きいものと想定される。

教育面では新領域創成科学研究科国際協力学専攻(協力講座)、農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻(協力講座)、農学部、工学部等の教育活動に積極的に関わった。

組織運営では、ASNET 副ネットワーク長として機構の運営を主導した。さらに、所内の情報・広報委員長を務め、「東大の研究室をのぞいてみよう!」、SGH（スーパーグローバルハイスクールへの協力）、コーヒーに関する一般向け講演会「コーヒーサロン」の開催など社会貢献事業を多数企画・実施した。

(注)「Ⅷ. 当該6年間の活動報告」の記述は池本教授から提供された業績等に基づき菅教授が取りまとめて作成しています。

田中明彦 TANAKA, Akihiko

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ 東アジアをめぐる主要国間の国際政治

個人ホームページ : <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1977年 東京大学教養学部教養学科卒業

1981年 マサチューセッツ工科大学政治学部大学院博士課程修了

【職歴】

1981年 平和・安全保障研究所研究員

1983年 東京大学教養学部 助手

1984年 東京大学教養学部 助教授

1986年～1987年 ルール大学ボーフム客員教授

1990年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1994年～1995年 オックスフォード大学セントアントニーズカレッジ客員研究員

1998年 東京大学東洋文化研究所 教授

2000年～2002年 東京大学大学院情報学環 教授（本研究所教授兼任）

2002年～2006年 東京大学東洋文化研究所長

2006年～2012年 東京大学大学院情報学環 教授（本研究所教授兼任）

2008年～2010年 東京大学国際連携本部長

2009年～2011年 東京大学理事・副学長

2011年～2012年 東京大学副学長

2012年～2015年 独立行政法人国際協力機構理事長

2012年～2015年 東京大学東洋文化研究所 教授（委嘱）

2015年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

1996年 サントリー学芸賞受賞 『新しい「中世」』日本経済新聞社

2001年 読売・吉野作造賞受賞 『ワード・ポリティクス』筑摩書房

2012年 紫綬褒章受章

II. 取り組んでいるテーマ

世界システムについての理論的・実証的な分析、現代東アジアの国際政治の分析、及び国

際政治分析のためのデータベース作成ならびにコンピュータによる分析手法の開発を行っている。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (A) 「中国の台頭と東アジアにおける地域協力枠組み発展の政治過程」 (2012～2014 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

・	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程	3	3	2
博士号取得者数			1

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該 6 年間の研究業績

著書

- ・ ジョセフ・S・ナイ デイヴィッド・A・ウェルチ 『国際紛争：理論と歴史 [原書第9版]』 田中明彦 村田晃嗣 訳 有斐閣、2013. 4.
- ・ ジョセフ・S・ナイ デイヴィッド・A・ウェルチ 『国際紛争：理論と歴史 [原書第8版]』 田中明彦 村田晃嗣 訳 有斐閣、2011. 5.

学術論文

- ・ 田中明彦 「「パリ協定」と日本の課題」 『アジア研 ワールド・トレンド』 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究支援部、2016. 3、1.
- ・ 田中明彦 「世界システムと日本 第6回 (最終回) 「グローバルな脅威への対応」」 『書齋の窓』 第644号 有斐閣 (2016. 3)、2-3.

-
- 田中明彦 「世界システムと日本 第5回「日本のアジア政策」」 『書齋の窓』 第643号 有斐閣 (2016.1)、2-3.
 - 田中明彦 「思想・歴史部門 受賞者・奈良岡聰智『対華二十一カ条とは何だったのか—第一次世界大戦と日中対立の原点』 (名古屋大学出版会)」 『第37回サントリー学芸賞 選評』 公益財団法人サントリー文化財団 (2015.12)、23-24.
 - 田中明彦 「『第27回アジア・太平洋賞』受賞作の講評」 『アジア時報』 11月号 アジア調査会 (2015.11)、8-9.
 - 田中明彦 「世界システムと日本 第4回「新興国の不安定化という課題」」 『書齋の窓』 第642号 有斐閣 (2015.11)、2-3.
 - 田中明彦 「基調講演 世界平和と国際協力」 『「平和の創造とは - 平和研究の過去・現在・未来 -」 講義録』 広島市立大学広島平和研究所 (2015.10)、1-13.
 - 田中明彦 「世界システムと日本 第3回「国家の役割と重要性」」 『書齋の窓』 第641号 有斐閣 (2015.9)、2-3.
 - 田中明彦 「世界システムと日本 第2回「脆弱国支援の必要性」」 『書齋の窓』 第640号 有斐閣 (2015.7)、2-3.
 - 田中明彦 「二一世紀の世界システムと国際協力」 『學士會会報』 第912号 (2015.5)、29-38.
 - 田中明彦 「世界システムと日本 第1回「インド・パシフィックの時代」」 『書齋の窓』 第639号 有斐閣 (2015.5)、2-3.
 - 田中明彦 「世界システムの変化と民主主義」 第20巻 『学術の動向』 「グローバル化時代における民主的統治とは」 日本学術協力財団、2015.3、66-72.
 - 田中明彦 「「民間外交」の役割とは何か」 工藤泰志 編 『言論外交 誰が東アジアの危機を解決するのか』 日中出版、2014.4、115-118.
 - 田中明彦 「安全保障 - 人間・国家・国際社会」 大芝亮 編 『日本の外交 第5巻 対外政策 課題編』 岩波書店、2013.7、47-70.
 - 田中明彦 「世界の中の日本 —日本の目指す国際協力—」 『立教ビジネスレビュー』 Vol.6 有斐閣 (2013.6)、2-15.
 - 田中明彦 「東西南北 アフリカの成長と日本」 『青淵』 第771号 公益財団法人 渋沢栄一記念財団 (2013.6)、20-22.
 - 田中明彦 「アフリカー日本外交についての課題」 『外交』 Vol.19 (2013.5)、10-16.
 - 田中明彦 「「仕切り直し」で東アジア安定を」 『読売クォーター』 冬号 (2013.1)、50-55.
 - 田中明彦 「世界の中の日本 日本の目指す国際協力」 『J2TOP』 2月号 (2013.1)、27-29.
 - 田中明彦 「JICAの使命と役割、広がる支援の可能性 - 田中明彦・新理事長に聞く」 『読売クォーター』 中央公論新社 (2012.7)、42-49.
-

-
- Tanaka, Akihiko. "Pakistan's Potential and JICA's Contribution." *CONCORDIA: Embassy of Pakistan in Japan* 2012.7: 22-23.
 - 田中明彦 「21世紀の世界システムと日本のODA」 『国際問題』 第616号（2012年11月） 日本国際問題研究所（2012.11）、1-5.
 - 田中明彦 「TPP参加の是非 貿易国日本は重要な経済交渉に参加が当然」 『エコノミスト』 2011年11月29日号 毎日新聞社（2011.11）、94-95.
 - 田中明彦 「迷走する日本—その針路を考える」 『日本証券経済倶楽部 レポート』 No. 523（2011.11）、1-15.
 - 田中明彦 「外交と防衛 日本外交の存在を示すために - 短期的、中長期的課題から」 『朝日ジャーナル』 緊急増刊 週刊朝日（2011.10）、97-99.
 - 田中明彦 「そして世界は元に戻った - 9.11後の国際政治構造と日本外交」 『外交』 Vol. 09 外務省（2011.9）、34-43.
 - 田中明彦 「パワートランジションと国際政治の変容 中国台頭の影響」 『国際問題』 日本国際問題研究所、2011.9、30-39.
 - 田中明彦 「日米同盟プラスの新たな安保戦略を」 『週刊東洋経済』 第6368号 東洋経済新報社（2010.6）、124-126.
 - 田中明彦 「日本外交におけるアジア太平洋」 渡邊昭夫 編 『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』 千倉書房、2010.4.
-

口頭発表

- Tanaka, Akihiko. "Japan in Search of Foreign Policy Equilibrium: Post-Cold War Dynamics." Presented at the *Japan-America Society of the State of Washington*, Hilton Seattle Downtown, March 31 2016.
 - Tanaka, Akihiko. "Japan in Search of Foreign Policy Equilibrium: Post-Cold War Dynamics." Presented at the *Columbia University, Weatherhead East Asian Institute*, Columbia University, March 29 2016.
 - Tanaka, Akihiko. "The Evolving Roles of the US-Japan Alliance in East Asian Power Shift." Presented at the *Global Asia Research Cluster*, Ngee Ann Auditorium, Asian Civilisations Museum, Singapore, March 11 2016.
 - Tanaka, Akihiko. "Japan in Asia: 20th to 21st Century." Presented at the *MIRAI Program*, Keio University, December 17 2015.
 - 田中明彦 「日本の国際協力とアジア外交」 東京外国語大学国際関係研究所 東京外国語大学 2015年12月14日.
-

-
- Tanaka, Akihiko. "Japan's Foreign Policy: Between the United States and Asia, Between Past and Future." Presented at the *Council on Foreign Relations*, Council on Foreign Relations, Washington D.C., December 2 2015.
 - 田中明彦 「アジア太平洋のガバナンスと日本の国際協力」 上智大学国際関係研究所 上智大学 2015年11月25日.
 - Tanaka, Akihiko. "South Korea as a Global and Regional Power." Presented at the *Korea Nation Diplomatic Academy*, Korea National Diplomatic Academy, Seoul, October 23 2015.
 - 田中明彦 「世界平和と国際協力」 広島市立大学 広島平和研究所 広島市立大学サテライトキャンパス 2015年9月4日.
 - 田中明彦 「【共通論題】 世界戦争100年、地域紛争・戦争と国際政治 - 比較国際政治の視点から」 日本国際政治学会 福岡国際会議場(福岡県・福岡市) 2014年11月.
 - TANAKA, Akihiko. "Keynote Address, U.S.- Japan Development Summit." Presented at the *Center for Strategies & International Studies*, Washington D.C. (USA), February 2014.
 - TANAKA, Akihiko. "Re-Emerging the ASEAN-Japan Partnership (Luncheon Talk 2)Evolving ASEAN-JAPAN-Relation New Dimension of ASEAN-JAPAN Partnership." Presented at the *The 27th Asia-Pacific Roundtable*, Kuala Lumpur (Malaysia), June 2013.
 - TANAKA, Akihiko. "India-Japan Relationship in Global Trend." Presented at the *Jawaharlal Nehru University*, Delhi (India), June 2013.
 - 田中明彦 「権力移行論--理論と21世紀の現実」 日本国際政治学会 2011年11月.
-

新聞記事

- 田中明彦 「参院選で争点 当然」 『読売新聞』 2016年3月17日、7.
 - 田中明彦 「第10回安全保障シンポジウム」 混迷世界における国家戦略を考える 『読売新聞』 2016年3月14日 朝刊、9.
 - 田中明彦 「経済教室：分断危機を越えて 統治空白、超域テロを生む」 『日本経済新聞』 2016年1月6日 朝刊、28.
 - 田中明彦 「日中韓賢人会議：日中韓、FTAへ加速 3カ国協力実践の時 分科会 主な発言」 『日本経済新聞』 2015年12月13日 朝刊、9.
 - Tanaka, Akihiko. "Opinion & Analysis: Abe well-suited to uplift Japan's Asia diplomacy." *The Japan News* October 26 2015, 5.
 - 田中明彦 「地球を読む：日本外交 混迷の15年間」 『読売新聞』 2015年10月25日 朝刊、1, 2.
 - 田中明彦 「戦後70年 これまで・これから「協調路線こそ力」」 『毎日新聞』 2015年8月15日 朝刊.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

2009年4月から2011年3月までは、本学理事・副学長、2011年4月から2012年3月までは、本学副学長を務め、おもに全学の国際交流や総務などを担当した。2012年4月から2015年9月末までは、独立行政法人国際協力機構理事長として日本の国際協力の実施にあたった。その間、本学では委嘱教授として、東洋文化研究所における研究と学際情報学府における大学院教育を一部担当した。2015年10月から2016年3月までは、本学に復職し、研究教育に専念した。2011年から2014年9月までは、本学の経営と独立行政法人の経営に関する責任あるポストにあったこともあり、それまでと比べると研究活動は制限されざるをえなかったし、教育活動も学際情報学府の必修授業（ITASIA101/102）の担当のみであった。この間、学術論文としては、世界システムの分析として、「パワー・トランジションと国際政治の変容」『国際問題』（604号、2011年9月）、「世界システムの変化と民主主義」『学術の動向』（20号、2015年3月）、日本の安全保障政策の研究として「安全保障—人間・国家・国際社会」（大芝亮編『日本の外交 第5巻』岩波書店、2013年7月）を書いたのみであるが、国際協力機構理事長として、内外の関係機関で、日本のODA(政府開発援助)や日本外交、世界システムなどに関して、数多くの講演を行った。研究室で維持管理してきた「データベース世界と日本」は、この間も、継続的に文書数を増加させ、2010年4月から2016年3月の間に3,005文書を新たに公開し、総公開文書数は7,383文書となった。この間、ほぼ平均して月15万件程度のアクセスがあり、研究者のみならずジャーナリストや学生などにも頻繁に利用されている。2012年には、これまでの研究業績に対して紫綬褒章を受章した。

松田康博 MATSUDA, Yasuhiro

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ 中国と台湾の政治・外交研究、中台関係論

個人ホームページ：<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ymatsuda/jp/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1988年 麗澤大学外国語学部中国語学科卒業

1990年 東京外国語大学大学院地域研究研究科地域研究専攻修士課程修了

1997年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学

2003年 博士（法学）（慶應義塾大学）

【職歴】

1992年 防衛庁防衛研究所助手

1999年 防衛庁防衛研究所主任研究官

1994年～1996年 在香港日本国総領事館専門調査員（香港）

2000年1月～6月 アジア太平洋安全保障研究センター客員研究員（米国ホノルル）

2000年6月～9月 ヘンリー・L・スティムソン・センター客員研究員（米国ワシントンDC）

2001年6月～8月 台湾綜合研究院第4（戦略・国際関係）研究所客員研究員（台湾台北）

2005年7月～8月 銘伝大学伝播学院にて共同研究（台湾台北）

2006年8月～9月 米国アジア協会にて客員研究（米国ワシントンDC）

2007年 防衛省防衛研究所主任研究官

2007年7月 復旦大学国際関係研究院日本研究センターにて訪問学者（中国上海）

2008年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2010年8月～2011年8月 米国・コネティカット州：イェール大学にて客員研究（**Todai-Yale Initiative** 派遣教員）

2011年12月～2012年3月 東京大学東洋文化研究所 教授

2012年4月～2015年3月 東京大学大学院情報学環 教授（本研究所教授兼任）

2015年3月～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

2007年 「発展途上国研究奨励賞」（日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所）
（受賞対象：『台湾における一党独裁体制の成立』、慶應義塾大学出版会、2006年）

2007年 第2回「樫山純三賞」（樫山奨学財団）（受賞対象：同上）

2011年6月 第7回「中曾根康弘賞優秀賞」受賞

II. 取り組んでいるテーマ

アジア政治外交史研究、中国および台湾の政治・外交・安全保障、中台関係論、日本の外交・安全保障政策

III. 班研究

- ・ 中台関係の総合的研究
- ・ 東アジアの安全保障研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B) 「和解なき安定—民主成熟期台湾の国際政治経済学—」 (2013～2015 年度)
- ・ 基盤研究 (B) 「繁栄と自立のディレンマ - ポスト民主化台湾の国際政治経済学」 (2010～2012 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ アジア政経学会
- ・ 華僑華人学会
- ・ 慶應法学会
- ・ 国際安全保障学会
- ・ 東方学会
- ・ 日本現代中国学会
- ・ 日本国際政治学会
- ・ 日本台湾学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ アジア政治外交史特殊研究 (Cross-Strait Relations)
- ・ 情報学環アジア情報社会コース (ITASIA101) Introduction to Asian Studies (アジア研究入門)
- ・ 情報学環アジア情報社会コース (ITASIA142) Cross-Strait Relations (中台関係) (講義・セミナー)
- ・ 法学政治学研究科 「アジア政治外交史特殊研究 XI (近現代中国政治史)」 (セミナー)
- ・ 法学政治学研究科 「アジア政治外交史研究 XI (近現代中国政治史)」 (セミナー)
- ・ 全学自由研究ゼミナール 「古典と原典で読み解く現代中国」 (講義)
- ・ 教養学部 「特殊研究演習 XI (中国) (米中関係)」 (講義・セミナー)
- ・ 教養学部 「特殊研究演習 XI (中国) (台湾政治研究)」 (講義・セミナー)

- ・ 教養学部 「アジア太平洋地域文化演習Ⅲ（東アジア地域研究演習）」「現代の日中関係」（講義・セミナー）
- ・ 教養学部 「アジア太平洋地域文化演習Ⅲ（東アジア地域研究演習）」「現代日台関係史」（講義・セミナー）
- ・ 教養学部 「アジア太平洋地域文化演習Ⅱ（日本研究・特殊研究演習Ⅸ）」「現代日中関係史」（講義・セミナー）
- ・ 教養学部 International Relations in East Asia, Programs in English at Komaba (PEAK)
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	1	4	4
博士課程		1	2
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 上智大学外国語学部
- ・ 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科
- ・ 放送大学

VII. 当該6年間の研究業績

編著

- ・ 松田康博・蔡増家 編 『台湾民主化下の兩岸関係與台日関係』 国立政治大学当代日本研究中心、2013. 3. (中国語) [\[Link\]](#)
- ・ 家近亮子・松田康博・段瑞聡 編 『【改訂版】岐路に立つ日中関係—過去との対話・未来への模索—』 晃洋書房、2012. 6. [\[Link\]](#)

学術論文

- ・ Matsuda, Yasuhiro. "Cross-Strait Relations under the Ma Ying-jeou Administration: From Economic to Political Dependence?" *The Journal of Contemporary China Studies: Center for Strategic & International Studies (CSIS)*, 4, no. 2 2015.9: P3-P35. [\[Link\]](#)
- ・ 松田康博 「習近平政権の外交政策—大国外交・周辺外交・地域構想の成果と矛盾—」 『国際問題』 第640号 日本国際問題研究所 (2015.4)、37-47. [\[Link\]](#)
- ・ Matsuda, Yasuhiro. "How to Understand China's Assertiveness since 2009: Hypotheses and Policy Implications." *Strategic Japan: New Approaches to Foreign Policy and the U.S.-Japan Alliance*,

Edited by Michael J. Green and Zack Cooper: Maryland: Rowman & Littlefield, 2014.10 : 7-

33. [\[Link\]](#)

- 松田康博 「日台関係の新展開—東アジアの安全保障への影響—」 任耀庭主 編 『2014 亜
洲新情勢』 翰蘆図書出版有限公司、2014. 6、pp. 95-121.
 - Matsuda, Yasuhiro. "How to Understand China's Assertiveness since 2009: Hypotheses and Policy
Implications." *Working Paper for Strategic Japan Project: Center for Strategic & International Studies*
(CSIS) 2014.4. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「馬英九政権下の中台関係（2008-2013）—経済的依存から政治的依存へ？—（特
集 繁栄と自立のディレンマ—ポスト民主化台湾の国際政治経済学）」 『東洋文化』 第 94
号（2014. 3 ）、205-233.
 - 松田康博 「台湾をめぐる米中関係の変動要因とは何か？」 『東亜』 一般財団法人 霞山
会、2013. 10、92-100.
 - 松田康博 「中国と台湾の『共生』は可能か？」 今村弘子 編 『東アジア分断国家—中台・
南北朝鮮の共生は可能か—』 原書房、2013. 5、25-57. [\[Link\]](#)
 - Matsuda, Yasuhiro. "'Japan-Taiwan Relations under DPJ and KMT Administrations in International
Context,'" "Summary and Conclusion: Japanese Papers,"," *Ocean Policy Research Foundation and
Prospect Foundation, Japan and Taiwan in a New Era: Possible Effects and Influences towards Its
Relationship: Ocean Policy Research Foundation,, 2013.: 118-136.*
 - 松田康博 「蒋介石と『大陸反攻』—1960 年代の対共産党軍事闘争の展開と終焉—」 山田
辰雄・松重充浩 編 『蒋介石研究—政治・戦争・日本—』 東方書店、2013. 4、337-
361. [\[Link\]](#)
 - Matsuda, Yasuhiro. "Understanding Japan's Strategy toward China." *China's Domestic Politics and
Foreign Policies and Major Countries' Strategies toward China*. Edited by Jung-Ho Bae and Jae H. Ku
eds: Seoul: Korea Institute for National Unification (KINU), 2012.12 : 365-391. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「台湾における憲政の展開過程概論—独裁か民主か？ 中華民国か台湾か？—」
『現代中国研究』 第 31 号 中国現代史研究会（2012. 10 ）、42-55. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「「胡錦濤政権の回顧と中国 18 全大会の注目点—外交・国防の領域に関して—」
『東京財団現代中国プロジェクト』（2012. 9 ）。 [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「中国対台政策的戦略調整—胡錦濤的『交往與避險』政策如何被継承？—」 陳德
昇主 編 『中共「十八大」菁英甄補—人事、政策與挑戰—』 台北、INK 印刻文学生活雜誌
出版有限公司、2012. 9、271-288. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「第 7 章 馬英九政権下の米台関係」 小笠原欣幸・佐藤幸人 編 『馬英九再選
—2012 年台湾総統選挙の結果とその影響—』 日本貿易振興機構アジア経済研究所、
2012. 5、109-123. [\[Link\]](#)
 - Matsuda, Yasuhiro. "Engagement and Hedging: Japan's Strategy toward China." *SAIS Review XXXII*,
no. 2 2012.: 109-119.
-

-
- Matsuda, Yasuhiro "Taiwan's Partisan Politics and Its Impact on U.S.-Taiwanese Relations", 『社會科學研究 (東京大学社会科学研究所紀要)』 第 63 卷 3・4 (2011. 12), 73-94. (英語) [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「中台における政治・軍事関係」 和田春樹ほか 編 『東アジア近現代通史 (第 10 卷) —和解と協力の未来へ・1990 年以降—』 岩波書店、2011. 8、254-264. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「米中国交正常化に対する台湾の内部政策決定—情報統制の継続と政治改革の停滞—」 加茂具樹・飯田将史・神保謙 編 『中国 改革開放への転換—「一九七八年」を越えて—』 慶應義塾大学出版会、2011. 7、175-198. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「第 12 章 中国の国連 PKO 政策—積極参与政策に転換した要因の分析—」 添谷芳秀 編 『現代中国外交の六十年—変化と持続—』 慶應義塾大学出版会、2011. 4、105-124. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「第 5 章 日米中関係における台湾」 王緝思、ジェラルド・カーティス、国分良成 編 『日米中トライアングル—三カ国協調への道—』 岩波書店、2010. 11、105-124. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「「不確実性」としての中国に向き合う—問われる相互依存関係の中の戦略 (特集 巨大な隣人・中国とともに生きる)」 『世界』 第 808 号 岩波書店 (2010. 9)、146-153. [\[Link\]](#)
-

書評論文・書誌紹介

- 松田康博 「丹念に政権の戦略追う—『習近平の強権政治で中国はどこへ向かうのか』 濱本良一・著—」、 『秋田さきがけ』 (2015. 4).
 - 松田康博 「日本の『開国』熱く論じる—『境界国家』論 小原雅博著—」 『徳島新聞 (共同通信社提供原稿)』 (2012. 10).
 - 菅野敦志 「台湾の国家と文化—「脱日本化」・「中国化」・「本土化」」 『現代中国』 第 86 卷 (2012. 9), 177-181.
 - 松田康博 「龍應台著、天野健太郎訳『台湾海峡一九四九』(白水社) —外省人 2 世 悲劇の記憶—」 『富山新聞(共同通信社提供原稿)』 (2012. 7).
 - 松田康博 「秋山昌廣・朱鋒編著『日中安全保障・防衛交流の歴史・現状・展望』(亜紀書房、2011 年 11 月、448 頁)」 『国際安全保障』 第 40 卷 第 1 号 (2012. 6), 66-70.
 - 松田康博 「若林正丈著『台湾の政治—中華民国台湾化の戦後史』(東京大学出版会、2008 年)」、 『國家學會雑誌』 第 124 卷 1・2 東京大学出版会 (2011. 2), 190-192. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「東大教師が新入生にすすめる本 2010・松田康博 (東洋文化研究所准教授/アジア政治外交史・中台関係論)」、 『UP』 第 450 号 (2010. 4), 5-6. [\[Link\]](#)
-

口頭発表

- 松田康博 「中国の海洋進出とオバマ政権の対応」 オバマ政権の外交・安全保障政策再考 国際安全保障学会 2015 年度年次大会・部会④セッションVI 2015 年 12 月 6 日.
- 松田康博 「「日本と台湾の 120 年—『二重構造』の特徴と変遷—」 第 5 回日台アジア未来フォーラム「日本研究から見た日台交流 120 年」 台湾大学文学院 2015 年 5 月 8 日.
- 松田康博 「『尼克森衝撃』與蔣経国新政：輿論控制和『政治革新』」 中華民國關鍵的二十年（1971—1990） 學術研討会、国史館、台北 2015 年 3 月 7 日.
- 松田康博 「「蒋介石の『大陸反攻』政策と冷戦期の東アジア国際秩序」 共通論題 2 蒋介石と戦後東アジア国際秩序の形成 2014 年度アジア政経学会全国大会 2014 年 5 月 31 日.
- 松田康博 「「日本の国家安全保障会議（NSC）はどうあるべきか？」」（報告記録：「日本の国家安全保障会議（NSC）はどうあるべきか？」、『防衛額研究』第 50 号、2014 年 3 月、pp. 48-61）。日本防衛学会 2013 年度秋季研究大会・共通論題部会 2013 年 11 月 26 日.
- 松田康博 「「日本の対華戦略一面向穩定的日中関係—」 2013・中国太平洋論壇、北京 2013 年 10 月 24 日.
- Matsuda, Yasuhiro. "Foreign Relations of the Chinese People's Liberation Army: An Analysis Based on Series of China's Defense White Paper." Presented at the *Paper Presented for An Off-the Record Workshop on China's Foreign Relations and Role in Regional Security*, Brookings Institution, Washington, D.C., February 11 2013.
- 松田康博 「馬英九政府的兩岸關係—自立與繁榮的困境—」 『2012 台日論壇：台湾民主化下兩岸關係與台日關係—台日學者台灣研討会—』 政治大学国際事務学院日本研究硕士学位学程・政治大学国際関係研究中心当代日本研究中心 2012 年 9 月 17 日.
- 松田康博 「中共対台政策—回顧與展望—」 『中共「十八大」精英甄補與政治繼承—変遷、政策與挑戰国際研討会論文集—』 政治大学国際関係研究中心 2012 年 4 月 21 日.
- 松田康博 「中国人民解放军の対外関係—『中国の国防』の記述を手がかりに—」 日本国際政治学会 2011 年度研究大会 2011 年.
- 松田康博 「中台関係（1958-1965）—『大陸反攻』対『応戦と統一戦線工作』—」 日本台湾学会第 12 回学術大会） 2010 年 5 月 29 日.

新聞記事

- 松田康博 「日学者建議加強與台湾新政府之間的經濟關係」 『自由時報』 2016 年 2 月 18 日. (中国語) [\[Link\]](#)
- 松田康博 「日学者建議日本與台湾新政府加強經濟關係」 『VOA Chinese (美国之音)』 2016 年 2 月 17 日. (中国語) [\[Link\]](#)

-
- Matsuda, Yasuhiro "Japan-Taiwan Relations in the New DPP Era" *Asia Pacific Bulletin (East West Center)* 2016.2.11, No. 334. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「從東京看台湾政權交替」 『聯合早報』 2016年2月2日. (中国語) [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「松田康博：蔡英文有強大民意做後盾」 『中央通訊社』 2016年1月16日. (中国語) [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「日本人学者、台湾と中国大陸の“反日連携”への懸念否定」 『中央通訊社』 2015年12月2日. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「日学者肯定馬總統提東海和平倡議」 『中央通訊社』 2015年12月2日. (中国語) [\[Link\]](#)
 - Clavel, Teru. "In an Age of Global Terrorism, What Do We Tell the Children." *The Japan Times* November 26 2015. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「[識者時評] 中台首脳会談—選挙介入の政治和解劇—」 『下野新聞 (共同通信提供原稿)』 2015年11月11日.
 - 松田康博 「[識者評論] 東アジアの首脳会談—日米も台湾と関係強めよ—」 『中國新聞 (共同通信提供原稿)』 2015年11月11日.
 - 松田康博 「日学者：馬習会確認九二共識為和平基礎」 『中央通訊社』 2015年11月8日. (中国語) [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「国民党巻き返し困難」 『讀賣新聞』 2015年11月8日.
 - 松田康博 「国民党 中国に接近し自滅」 『宮崎日日新聞 (共同通信提供原稿)』 2015年11月8日.
 - 松田康博 「中国、落としどころ探る段階」 『朝日新聞』 2015年11月8日.
 - 松田康博 「民進党、長期政権の可能性」 『毎日新聞』 2015年11月8日. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「台湾総統、南沙諸島を訪問」 『日本経済新聞』 2015年11月8日. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「次期台湾総統に圧力」 『時事ドットコム』 2015年11月7日. [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「日学者：馬習会確認九二共識為和平基礎」 『中央通訊社』 2015年11月7日. (中国語) [\[Link\]](#)
 - 松田康博 「中国、総統選の介入狙う」 『北海道新聞』 2015年11月6日.
 - 松田康博 「中台会談 “選挙介入”は逆効果」 『産経新聞』 2015年11月5日 朝刊、9、産業経済新聞社.
 - 松田康博 「考論：会談の影響は「両刃の剣」」 『朝日新聞』 2015年11月5日 朝刊、13、朝日新聞社.
 - 松田康博 「識者の見識：「一つの中国」打ち出す」 『日本経済新聞』 2015年11月5日 朝刊、7、日本経済新聞社.
 - 松田康博 「会談の影響は『諸刃の剣』」 『朝日新聞』 2015年11月5日.
 - 松田康博 「習馬会』可提高蔡英文的門檻」 『日経中文網』 2015年11月5日. (中国語) [\[Link\]](#)
-

事典等項目

- 松田康博 「「尖閣諸島」、「台湾海峡危機（1950年代）」、「台湾海峡危機（1996年）」、「台湾関係法」、「台湾独立運動」、「天安門事件（1989年）」、「日華平和条約」、「東アジア共同体」、「東アジア経済協議体」、「東アジア首脳会議」 小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一 編 『『国際関係・安全保障用語辞典』』 ミネルヴァ書房、（2013. 4）、170, 196, 197, 222, 240, 256, 257. [\[Link\]](#)
-

VIII. 当該6年間の活動報告

激変を続ける東アジア地域の国際政治と安全保障について、丹念な文献の解読と、精力的なインタビューを重ねた実証研究を行った。東アジアの国際政治と安全保障に関する先駆的研究として、大別すると以下の3つのテーマがある。第1は、陳水扁政権期から馬英九政権期にかけての米中台関係の構造変化である。第2は、中国の外交・安全保障政策であり、中国の国連PKO政策の転換を分析した論文は、日本国際問題研究所「調査研究機関間知的アセット共有事業」の、中国に関する優秀論文として選定され、英文に翻訳された。第3は、中台関係史であり、蒋介石政権期の台湾がどのように大陸反攻政策を推進していたかを、檔案資料を使って実証的に明らかにした。

これらの研究は独創的であり、東アジア地域の関係を実証的、客観的に分析し、日本と近隣諸国との関係や、そこで果たす日本の役割について提言を与えるものである。これらの業績を含め、東アジア地域の安定と発展に結びつくとして高く評価され、2011年に第7回「中曽根康弘賞優秀賞」を受賞した。

教育に関しては、大学院法学政治学研究科総合法制専攻でアジア政治外交史、大学院情報学環アジア情報社会コースで、英語による授業としてアジア研究入門および中台関係、そして総合文化研究科地域研究専攻で東アジア地域研究の授業を担当した。大学院で指導した学生は、博士課程2名、修士課程4名である。博士学位論文審査としては、4名の副査を担当した。受け入れた訪問研究員は13名である。

組織運営に関しては、大学院情報学環への流動中にアジア社会情報コースの教務委員を務め、コース運営に携わった。所内では、東洋学研究情報センターの委員を務め、共同利用・共同研究拠点の運営に携わった。

社会貢献では、総理大臣の私的諮問懇談会である「新たな時代の安全保障と防衛力に関する懇談会」委員を務め、報告書の起草等を担当した。

名和克郎 NAWA, Katsuo

所属部門 汎アジア部門

研究テーマ ネパール、ヒマラヤ地域、および南アジアの人類学



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1990年 東京大学教養学部教養学科卒業

1992年 東京大学大学院総合文化研究科文化人類学専攻修士課程修了

1999年 東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻博士課程修了

1999年 博士（学術）（東京大学）

【職歴】

1992年11月～1995年3月 Research Scholar, Centre for Nepal and Asian Studies, Tribhuvan University, Nepal

1996年4月～1998年3月 日本学術振興会特別研究員（DC2）

2000年1月～2000年3月 日本学術振興会特別研究員（PD）

2000年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2002年9月～2003年8月 Visiting Fellow, Clare Hall, University of Cambridge

2007年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2013年8月～2014年6月 Visiting Scholar, Harvard-Yenching Institute

2013年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

2004年 第30回澁澤賞（公益信託澁澤民族学振興基金）

（受賞対象：『ネパール、ビャンスおよび周辺地域における儀礼と社会範疇に関する民族誌的研究-もう一つの＜近代＞の布置』、2002年、東京、三元社）

II. 取り組んでいるテーマ

学問的には（社会・文化）人類学、地域的にはネパールを中心とする南アジア及びヒマラヤ地域が専門。具体的には、極西部ネパール高地に位置するビャンス及び周辺地域におけるフィールドワークの成果を主たる基盤として、社会範疇（主に「民族」、「カースト」といった用語で論じられてきたもの）の構成、儀礼の変容過程とそれに対する慣習的行為や語られる規範の関係、多言語使用、翻訳、言語イデオロギーといった言語使用に関する問題系、等について、民族誌的、理論的な研究を行ってきた。抽象度を上げれば、主たる関心は規範と行為の関係性を巡る問題にある。

近年取り組んでいる具体的な課題は、(1)ビヤンス及び周辺地域の生業と生産の変容に関する歴史的再構成、(2)主に 1990 年以降における、ネパール国家及び国内の様々なアクターによる、「グローバル」に流通する諸概念（例えば「人権」「民主主義」）の翻訳と受容の過程及びそうした概念の使用のもたらした影響、(3)1996 年以降マオイスト運動及びそれに関わる様々な動きがもたらしたネパール村落社会への影響、等である。

III. 班研究

- ・ 南アジア北部における人類学的研究の再検討
- ・ アジアにおける多言語状況と言語政策史の比較研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B)「体制転換期ネパールにおける「包摂」を巡る社会動態の展開に関する比較民族誌的研究」(2012～2014 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本文化人類学会 (理事 2008～2011 年度, 2014 年度～)
- ・ 日本南アジア学会 (理事 2004 年 10 月～2008 年 9 月, 2010 年 10 月～2014 年 9 月, 常務理事 2010 年 10 月～2012 年 9 月)
- ・ The Royal Anthropological Institute of Great Britain and Ireland
- ・ American Anthropological Association
- ・ 国立民族学博物館共同研究員 (2004 年度, 2006 年 10 月～2010 年 3 月, 2011 年 10 月～)
- ・ Editorial Board Member, *International Journal of South Asian Studies* (2007～2012 年度)
- ・ Editorial Board Member, *Japanese Review of Cultural Anthropology* (2010～2013 年度)
- ・ Editorial Board Member, *HAU: Journal of Ethnographic Theory* (2011 年度～)
- ・ Co-Editor, *Asian Anthropology* (2012 年度～)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 総合文化研究科超域文化科学専攻文化人類学コース (2000 年度～)
- ・ 教養学部教養学科超域文化科学科文化人類学分科 (非常勤講師, 2001 年度～)
- ・ 教養学部教養学科地域文化研究学科アジア地域文化研究分科 (非常勤講師, 2005～2009, 2011 年度～)

・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程	3	4	4
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科（2007, 2008, 2010, 2012年度）
- ・ 慶應義塾大学文学部（2010～2013年度）

VII. 当該6年間の研究業績

編著

- ・ 名和克郎 編 『東京大学東洋文化研究所蔵 社団法人ネパール協会旧蔵資料目録』 東洋学研究情報センター叢刊 15 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、2013. 2
- ・ 松井健 野林厚志 名和克郎 編 『生業と生産の社会的布置-グローバリゼーションの民族誌のために』 国立民族学博物館論集 1 岩田書院、2012. 3
- ・ 松井健 名和克郎 野林厚志 編 『グローバリゼーションと〈生きる世界〉-生業からみた人類学的現在』 東洋文化研究所叢刊第 25 輯 東京大学東洋文化研究所／昭和堂、2011. 4

学術論文

- ・ Nawa, Katsuo. "Triangulating the Nation State through Translation: Some Reflections on "Nation", "Ethnicity", "Religion", and "Language" in Modern Japan, Germany and Nepal." *Internationales Asienforum/ International Quarterly for Asian Studies* 47, no. 1+2 2016.: 11-31.
- ・ Nawa, Katsuo. "Pollution, Ontological Equality, or Unthinkable Series? Notes on Theorizations of South Asian Societies by Three Japanese Anthropologists." *International Journal of South Asian Studies: Manohar* 7 2015.: 31-57.
- ・ 名和克郎 「ネパール領ビャンスにおける「政治」の変遷-村、パンチャーヤト、議会政党、マオイスト」 南真木人 石井溥 編 世界人権問題叢書 92 『現代ネパールの政治と社会-民主化とマオイストの影響の拡大』 明石書店、2015.、175-206.
- ・ 名和克郎 「ネパールの「デモクラシー」を巡って-用語・歴史・現状」 『現代インド研究』 第5巻 (2015.)、69-87. [\[Link\]](#)

-
- Nawa, Katsuo. "A Personal Account on the Status Quo of Sociocultural Anthropology in Japanese Language." *Alternative voices of anthropology: golden jubilee symposium*. Edited by Ajit K. Danda and Rajat K. Das. Kolkata: Indian Anthropological Society, 2012.: 152-177.
 - 名和克郎 「チャングリヤール達の百年～ネパール、ビャンスにおける生業と生産の展開と変容」 松井健 野林厚志 名和克郎 編 国立民族学博物館論集1 『生業と生産の社会的布置—グローバル化の民族誌のために』 岩田書院、2012.、29-56.
 - 名和克郎 「ネパール領ビャンスのランを巡る言語状況の変遷と文字使用」 砂野幸稔 編 『多言語主義再考—多言語状況の比較研究』 三元社、2012.、379-406.
 - 名和克郎 「ランの葬送儀礼における時空間の構成とその変化に関する試論」 西井涼子 編 『時間的人类学—情動・自然・社会空間』 世界思想社、2011.、358-382.
 - 名和克郎 「ヒマラヤ交易民から成功した先住民族へ～ランの「生業」と「生産」を巡って」 松井健 名和克郎 野林厚志 編 東洋文化研究所叢刊第25輯 『グローバル化と〈生きる世界〉—生業からみた人類学的現在』 東京大学東洋文化研究所／昭和堂、2011.、97-134.
 - 名和克郎 「「生業」を／から見直す—「〈生きる世界〉」から「グローバル化」まで」 松井健 名和克郎 野林厚志 編 東洋文化研究所叢刊第25輯 『グローバル化と〈生きる世界〉—生業からみた人類学的現在』 東京大学東洋文化研究所／昭和堂、2011.、451-472.
 - 中上淳貴 名和克郎 「ヒマラヤにおける伝承とその記録—「口承テキスト」研究と現地の文字化をめぐる」 『明日の東洋学』 第22巻 (2010.12)、6-10. [\[Link\]](#)
-

書評論文・書誌紹介

- 名和克郎 「近刊短評 (ネपालको संविधान, २०७२ प्रारम्भिक मस्यौदा (संविधान मस्यौदा समिति, संविधानसभा सचिवालय), 斎藤純夫・田口善久・西村義樹編 『明解言語学辞典』, www.alanmacfarlane.com/ancestors/Jack_Goody.htm)」 『ことばと社会—多言語社会研究』 第17号 (2015.10)、238.
 - Nawa, Katsuo. "Review of Judith Pettigrew, 2013, Maoists at the Hearth: Everyday Life in Nepal's Civil War." *International Journal of Asian Studies*: Cambridge University Press 12, no. 2 (2015.: 239-241.
 - 名和克郎 「20世紀中葉のネパールの変容を読む—社団法人日本ネパール協会旧蔵資料から」 『明日の東洋学』 第31巻 (2015.)、5-10. [\[Link\]](#)
 - 名和克郎 「近刊短評 (Journal of Linguistic Anthropology 23(2) Special Issue in Honor of John J. Gumperz, 1922-2013, 高田博行 『ヒトラー演説—熱狂の真実』, Judith Pettigrew Maoists at the Hearth: Everyday Life in Nepal's Civil War)」 『ことばと社会—多言語社会研究』 第16号 (2014.10)、266-7.
-

-
- 名和克郎 「鈴木晋介、『つながりのジャーティヤースリランカの民族とカースト』」 『文化人類学』 79(2) (2014.)、179-182.
 - Nawa, Katsuo. "Review of The Politics of Belonging in the Himalayas: Local Attachments and Boundary Dynamics Joanna Pfaff-Czarnecka and Gerard Toffin (eds.), Hindu Kingship, Ethnic Revival and Maoist Rebellion in Nepal, Marie Lecomte-Tilouine." *Contributions to Indian Sociology*: Sage 48, no. 2 (2014.): 296-300.
 - 名和克郎 「山本達也『舞台の上の難民——チベット難民芸能集団の民族誌』」 『地域研究』 14(2) (2014.)、254-257.
 - 名和克郎 「梶丸岳『山歌の民族誌—歌で詞藻を交わす』」 『コンタクト・ゾーン』 第6号 (2014.)、206-212. [\[Link\]](#)
 - 名和克郎 「近刊短評 (ニコラス・エヴァンズ『危機言語—言語の消滅でわれわれは何を失うのか』, K. デイヴィッド ハリソン『亡びゆく言語を話す最後の人々』, 梶丸岳『山歌の民族誌—歌で詞藻を交わす』)」 『ことばと社会—多言語社会研究』 第15号 (2013. 10)、235.
 - 名和克郎 「近刊短評 (小山亘『コミュニケーション論のまなざし』, ダニエル・L・エヴェレット『ピダハン』, 荻谷康太『イスラームの宗教的・知的連関網』)」 『ことばと社会—多言語社会研究』 第14号 (2012. 10)、345.
 - Nawa, Katsuo. Review of *Hyoushou no Minzokushi: Nepâru Senjuumin 'Chepan' no Mikuro Sonzairon (An Ethnography of Representations: The Micro-Ontology of the Chepan, a Nepali Indigenous People)*, by Ken'ichi Tachibana. *Studies in Nepali History and Society*, Kathmandu: Mandala Book Point 17, no. 1 (2012.): 191-198.
 - 名和克郎 「近刊短評 (मिडिया अध्ययन, Jack Goody, Myth, Ritual and the Oral)」 『ことばと社会—多言語社会研究』 第13号 (2011. 10)、288.
 - 名和克郎 「森山幹弘・塩原朝子 (編)『多言語社会インドネシア—変わりゆく国語、地方語、外国語の諸相』、梶茂樹・砂野幸稔 (編)『アフリカのことばと社会—多言語状況を生きるということ』書評」 『ことばと社会—多言語社会研究—』 第12号 (2010. 12)、191-204.
 - 名和克郎 「書評: 宮崎広和 希望という方法」 『文化人類学』 第75巻 第2号 (2010. 12)、291-294.
-

口頭発表

- Nawa, Katsuo. "Imagining "We Rung mung" in the United States: Social Categories, Networks and Nostalgia among the People from Byans, Far Western Nepal and Adjacent Regions." Presented at the *4th ANHS Himalayan Studies Conference*, The University of Texas at Austin, February 27 2016. [\[Link\]](#)
-

-
- 名和克郎 「近現代ネパールにおける戦争・軍・国家—「統一/征服」から「内戦」まで」
成均館大学校・京都大学人文科学研究所・東京大学東洋文化研究所 合同シンポジウム 2015
「アジアの戦争」 東京大学東洋文化研究所 2016年1月22日.
 - 名和克郎 「ランにおける伝統服を巡る実践と語りの変遷」 国立民族学博物館共同研究「表
象のポリティックス——グローバル世界における先住民/少数者を焦点に」研究会 国立民
族学博物館 2015年12月6日.
 - 名和克郎 「書評 三尾稔・杉本良男編『現代インド6 環流する文化と宗教』 『現代イン
ド』全6巻 全体書評会 京都大学稲盛財団記念館 2015年11月1日.
 - Nawa, Katsuo. "On 'thumcharu': the concept of 'tradition' in Byans, far western Nepal." Presented at
the *The Annual Kathmandu Conference on Nepal and the Himalaya 2015, co-organized by ANHS,
BNAC, and Social Science Baha*, Hotel Shanker, Kathmandu, July 24 2015. [[Link](#)]
 - Nawa, Katsuo. "Roads to Bikas: Notes on 'Development' and 'Politics' in Byans and Nepal in the
Panchayat Era." Presented at the *IUAES Inter-Congress 2015*, Thammasat University, Bangkok, July
17 2015.
 - 名和克郎 「ネパール、ランにおける自己表象の近年の展開—民族運動から写真展まで」 国
立民族学博物館共同研究「表象のポリティックス——グローバル世界における先住民/少数
者を焦点に」研究会 国立民族学博物館 2014年12月.
 - Nawa, Katsuo. "Triangulating the Nation-State through Translation: Some Observations by a Japanese
Anthropologist Working on Nepal." Presented at the *Symposium "Scaling the Nation-State: Religion,
Language and Ethnicity in Contemporary Japan and Germany"*, Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin,
Berlin, October 10 2014.
 - Nawa, Katsuo 「識字者が標準規範なしに母語で書く時—ネパール、ビヤンス及び周辺地域の
ランを事例に/ Writing in one's mother tongue without orthography: the case of Rang in Byans,
Nepal and adjacent regions」 Symposium "Standard Norms in Written Languages: Historical and
Comparative Studies between East and west" Inner Mongolia University, Huhhot 2014年9月5日.
 - Nawa, Katsuo. "On three basic "ritual" gestures in Byans, Far Western Nepal." Presented at the *The
Annual Kathmandu Conference on Nepal and the Himalaya 2014, co-organized by ANHS, BNAC, and
Social Science Baha*, Hotel Shanker, Kathmandu, July 23 2014. [[Link](#)]
 - Nawa, Katsuo. "On "politics" in Byans, far western Nepal: rajniti, village, and individual." Presented
at the *IUAES Inter-Congress 2014 with JASCA*, Makuhari Messe, Chiba, May 16 2014. [[Link](#)]
 - Nawa, Katsuo. "How to do things with "rituals" in Byans, Far Western Nepal: actions, explanations,
theories." Presented at the *Harvard-Yenching Institute Lunch Talk Series*, Harvard-Yenching Institute,
Cambridge (Mass), April 16 2014.
 - Nawa, Katsuo. "On "baccho" in Byans, Far Western Nepal: Negative demarcation of communities in
rituals and its consequences." Presented at the *3rd ANHS Himalayan Studies Conference*, Yale
University, New Haven, March 15 2014. [[Link](#)]
-

-
- Nawa, Katsuo. "From a Himalayan Trading Community to a Successful Indigenous Nationality? Reconsidering the Modern History of Byans, Western Nepal." Presented at the *Cornell South Asia Program*, Cornell University, Ithaca, March 10 2014.
 - Nawa, Katsuo. "Nation, Scheduled Tribe, Janajati, and Indigeneity: Coping with Discourses on Minority Populations among Rangs in Far Western Nepal and Uttarakhand, India." Presented at the *American Anthropological Association 112th Annual Meeting "Future Publics, Current Engagements"*, Chicago Hilton, Chicago, November 20 2013.
 - Nawa, Katsuo. "Sociocultural Anthropology Written in Japanese Language: An Overview". "Forefront of Asian Studies." Presented at the *UTokyo Forum 2013 "Global Emergence of Frontier Knowledge"*, Universidade de São Paulo, November 11 2013.
 - Nawa, Katsuo. "On the Status Quo of Sociocultural Anthropology in Japanese." Presented at the *UTokyo Forum 2013 "Global Emergence of Frontier Knowledge"*, Pontificia Universidad Católica de Chile, November 8 2013.
 - Nawa, Katsuo. "Following Mountain Trails, Real or Imagined: Language, Walking, and Landscape in Byans, Far Western Nepal." Presented at the *IUAES 17th World Congress*, The University of Manchester, Manchester, August 8 2013.
 - 名和克郎 「時空間の民族誌的研究における言語情報の扱いについて-ネパール、ビャンスの事例から」 東京大学東洋文化研究所定例研究会 東京大学東洋文化研究所 2013年7月18日.
 - Nawa, Katsuo. "Preliminary Notes on Wood Carvings in Byans." Presented at the *Parcours d'objets, objets en transformation: Circulation et appropriations à travers l'Himalaya et au-delà*, Université Paris Ouest Nanterre La Défense, Paris, September 25 2012.
 - Nawa, Katsuo. "Between Gathering and Politics: Diversity and Change of Oratorical Discourse in Byans, Far Western Nepal." Presented at the *The First Annual Kathmandu Conference on Nepal and the Himalaya, co-organized by ANHS, BNAC, and Social Science Baha*, Hotel Shanker, Kathmandu, July 21 2012.
 - 名和克郎 「「包摂」の語でネパールについて何を論じ得るか? 来年度以降に向けて」 国立民族学博物館共同研究「ネパールにおける「包摂」をめぐる言説と社会動態に関する比較民族誌的研究」研究会 国立民族学博物館 2012年2月19日.
 - 名和克郎 「日本語による社会文化人類学に関する覚書」 第797回都立大学・首都大学東京社会人類学研究会 首都大学東京 2012年1月27日.
 - 名和克郎 「工芸化以前? ネパール、ビャンス地方の布、絨毯、木彫に関する予備的覚書」 東京大学東洋文化研究所附属東洋学情報センター共同研究「アジアの工芸の〈現在〉～工芸の人類学の基礎研究」研究会 岡山大学 2012年1月22日.
 - 名和克郎 「ネパールの交易語と言語政策」 科学研究費補助金「言語政策史の国際比較に関する総合的研究」成果発表会 東京大学東洋文化研究所 2011年12月3日.
-

-
- Nawa, Katsuo. "A Personal Account on the Status Quo of Sociocultural Anthropology in Japanese." Presented at the *The Golden Jubilee Symposium of the Indian Anthropological Society "Locating Alternative Voices in Anthropology"*, Ramakrishna Mission Institute of Culture, Kolkata, November 20 2011.
 - Nawa, Katsuo. "Methods, Literature, and “Being There” in Byans, Far Western Nepal: A Personal Account on Doing Ethnography." Presented at the *International Conference on Social Science Methodology: A Special Reference to Social Movement, organized by Policy Discourse on Contemporary Issues on Social Exclusion and Social Inclusion (PODCISESI), CNAS and SIRF*, Hotel Himalaya, Lalitpur, November 16 2011.
 - Nawa, Katsuo. "Writing and Reading in 'Mother Tongue' without Orthography: Literacy, Tradition, and Byansi Texts." Presented at the *The 17th Himalayan Language Symposium*, Kobe City University of Foreign Studies, September 6 2011.
 - Nawa, Katsuo. "Changing Aspects of 'Politics' in Byans, Far Western Nepal: Coping with the Panchayat System, Political Parties, Janajati Movements, and Maoists." Presented at the *International Conference "Changing Dynamics of Nepali Society and Politics" organised by Alliance for Social Dialogue, Association for Nepal and Himalayan Studies, and Social Science Baha*, Hotel Shanker, Kathmandu, August 18 2011.
 - Nawa, Katsuo. "ederalism, Ethnicity, and Inclusive Democracy for Small Janajatis in the Periphery: Some Preliminary Remarks and the Case of the 'Byansi' (Rang)." Presented at the *CNAS/HiPeC International Seminar "Federalism for Inclusive Democracy"*, Centre for Nepal and Asian Studies, Tribhuvan University, Kirtipur, July 5 2011.
 - Nawa, Katsuo. "Texts, Textuality, and the Emergence of Ethnographic Knowledge in the Local: The Case of Hindi and Nepali Texts by/on Rangs." Presented at the *IUAES/AAS/ASAANZ Conference "Knowledge and Value in a Globalising World: Disentangling Dichotomies, Querying Unities"*, The University of Western Australia, Perth, July 5 2011.
 - 名和克郎 「「政治」と「集まり」の間-体制変換期ネパールにおけるランの「公的」な語りの諸相」 日本文化人類学会第45回研究大会 法政大学 2011年6月12日.
 - 名和克郎 「ネパール、ビヤンスにおける婚姻を巡る公的な語りの諸相」 東洋文化研究所新分野開拓研究プログラム・シンポジウム「南アジアにおける結婚観について」 東京大学東洋文化研究所 2011年3月4日.
 - 名和克郎 「意味への収斂とその外部：ランの葬送儀礼の変容をめぐって」 東文研・ASNET 共催セミナー 東京大学東洋文化研究所 2011年1月20日.
 - 名和克郎 「ネパールにおける“多言語状況”の諸側面」 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究会「多言語状況の比較研究 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究会 2010年9月25日.
-

一般向け記事

- 名和克郎 「ネパール、「包摂」、人類学—共同研究を終える前に」 『民博通信』 第 148 号 (2015.)、18-19.
 - 名和克郎 「外から見なおした「我々」—海外在住ネパール人と「包摂」」 『民博通信』 第 144 号 (2014.)、14-15.
 - 名和克郎 「日本ネパール協会旧蔵資料について」 『日本ネパール協会 会報』 第 231 号 (2013.)、10-11.
 - 名和克郎 「「包摂」問題のネパール民族誌への包摂に向けて」 『民博通信』 第 140 号 (2013.)、16-17.
 - 名和克郎 「制憲議会解散後のネパールを「包摂」から考える」 『月刊みんぱく』 36(9) (2012.)、10-11.
 - 名和克郎 「「包摂」からネパールを、ネパールから「包摂」を再考する」 『民博通信』 第 136 号 (2012.)、24-25.
-

VIII. 当該 6 年間の活動報告

従来行ってきたネパール、ビャンス地方を主たる事例とした集団範疇、儀礼、言語使用に関する研究を発展させ、近現代ネパールにおける集団範疇の動態と概念の翻訳に関する歴史人類学的研究を行った。松井健名誉教授の主催する生業と生産に関する研究会（東洋文化研究所及び国立民族学博物館）の成果として二冊の共編著を刊行し、それらにビャンス地方のエスノヒストリーに関する論考を掲載すると共に、ビャンスにおける政治、言語状況、儀礼の変化に関する論文を発表した。また、附属東洋学研究所情報センター機関推進プロジェクトとして社団法人日本ネパール協会より寄贈された資料を整理しその目録を作成することで、ネパール研究の基盤整備に努めた。ネパール全体を論じたものとしては、カースト的秩序から国民統合路線を経て多民族多言語の連邦制国家に向かう近現代ネパールにおける「デモクラシー」の変遷を分析する論文を発表した。

以上は基本的に日本語での成果であるが、とりわけ 2013 年から 14 年にかけての Harvard-Yenching Institute 滞在後は、国際学会での発表を意図的に増やしており、とりわけ 2014 年にはベルリン日独センターでのシンポジウムにおける基調講演を行った。また、日本における人類学的南アジア研究を批判的に紹介する英文の論文や書評を手がけるとともに、Asian Anthropology 誌の共同編集者をはじめ、複数の国際学術誌の編集に関わっている。

教育面では、この間大学院総合文化研究科超域文化科学専攻文化人類学コースにおける大学院のセミナーを継続的に担当した他、学部後期課程でも、教養学部教養学科において、主に言語人類学及び集団範疇論の講義を担当した。さらに、複数の博士学位論文の審査（主査 2、副査学内 11、学外 2）を行った。

学外では、国立民族学博物館において、2011 年度から 2014 年度に共同研究「ネパールにお

ける「包摂」をめぐる言説と社会動態に関する比較民族誌的研究」を主催した。

東アジア部門（第一）

高見澤磨 TAKAMIZAWA, Osamu

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 現代中国の法と社会



I. 略歴

【学歴】

1982年 東京大学法学部第一類卒業

1984年 東京大学大学院法学政治学研究科基礎法学専攻修士課程修了

1991年 東京大学大学院法学政治学研究科基礎法学専攻博士課程退学

1994年 博士（法学）（東京大学）

【職歴】

1993年 東京大学教養学部 助手

1994年 立命館大学国際関係学部 助教授

1997年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1998年 海外研修（北京外国語大学北京日本学研究センター主任教授補佐）

1999年 帰国

2003年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 所長

II. 取り組んでいるテーマ

中華人民共和国における紛争と紛争解決、中華人民共和国における法源、中国法研究の作法、清末以降中華民国に至る中国近代法史を研究してきた。現在は、中国近代法史の通史的記述、中国近代における紛争解決、中華人民共和国刑法の動向、同民法の動向などを研究しつつ、本研究所内の未整理資料（多くは中国近現代に関係するもの）の整理を行っている。

III. 班研究

- ・ 中国法研究における固有法史研究、近代法史研究及び現代法

IV. 外部資金による研究

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 比較法学会

- ・ 法制史学会（理事 2003～2016 年度、企画委員長 2003～2004 年度）
- ・ 中国社会文化学会（評議員 2009～2013 年度、理事 2013～2015 年度）
- ・ 日本現代中国学会（理事 2000 年 10 月～2016 年 10 月、副理事長 2010 年 10 月～2012 年 10 月、理事長 2012 年 10 月～2014 年 10 月）
- ・ アジア法学会（理事 2007～2015 年度、企画委員長 2011～2013 年度、企画委員 2013～2015 年度）
- ・ 日本学術会議連携会員（第 22 期 2011 年 10 月 1 日～2017 年 9 月 30 日）
- ・ 北海道大学大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター～研究員（2012 年 7 月 1 日～2013 年 3 月 31 日、2013 年 6 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 「中国法」（演習）（大学院法学政治学研究科、総合法政専攻）
- ・ 「現代中国法」（講義）（大学院法学政治学研究科、法曹養成専攻）
- ・ 「中国法」（演習）（大学院法学政治学研究科、法曹養成専攻）
- ・ 「中国法」（講義）（法学部）
- ・ 「中国法」（演習）（法学部）
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			1
博士課程	4	4	2
博士号取得者数		1	

2. 本学以外での教育活動

- ・ 大阪大学法学部（2004～2012 年度）
- ・ 名古屋大学法学部（2009 年度, 2011 年度, 2013 年度, 2015 年度）
- ・ 東北大学法学部（2011 年度, 2013 年度, 2015 年度）
- ・ 日本大学法学研究科（2013 年度）
- ・ 慶應義塾大学法学部（2014 年度, 2015 年度）

VII. 当該 6 年間の研究業績

著書

- ・ 高見澤磨・鈴木賢 『中国法の歴史と現在（韓国語）』 ハンウル(日本語書の韓国語訳出版)、2013. 11.

-
- 木間正道 鈴木賢 高見澤磨 宇田川幸則 『現代中国法入門（第6版）』 外国法入門双書 有斐閣、2012.10.
 - 高見澤磨 鈴木賢 『中国にとって法とは何か 統治の道具から市民の権利へ』 叢書 中国の問題群 岩波書店、2010.9.
-

学術論文

- 高見澤磨 「温州における商会・行業協会の聴き取り調査及び調査実習報告」 『東洋法制史研究会通信』 第29号 東洋法制史研究会（2016.8）、9-20.
 - 高見澤磨 「第8講 法 中国法の枠組みと役立ち方」 高原明生・丸川知雄・伊藤亜聖 編 『東大塾 社会人のための現代中国講義』 東京大学出版会、2014.11、208-236.
 - 高見澤磨 「我妻榮の中華国民法典註解と「満州国」民法への言及 「発見」資料の紹介を中心に」 『中日民商法研究会第十三届（2014）年大会プログラム 論文集』 中日民商法研究会、2014.9、169-181.
 - 高見澤磨 「我妻榮の中華国民法典註解及对“満州国”民法的提及 以“発見”資料的紹介为中心」 『中日民商法研究会第十三届（2014）年大会プログラム 論文集』 中日民商法研究会、2014.9、182-191.（中国語）
 - 高見澤磨 「中国における法形成」 長谷部恭男・佐伯仁志・荒木尚志・道垣内弘人・大村敦志・亀本洋 編 『岩波講座 現代法の動態 1 法の生成／創設』 岩波書店、2014.5、225-244.
 - 高見澤磨 「我妻榮の中華国民法典註解と満洲国民法への言及—「新発見」資料の紹介を中心に」 『名古屋大学法政論集』 第255号（2014.3）、183-198.
 - 高見澤磨 「中国の法学にとっての日本」 『法の支配』 第168号（2013.1）、11-19.
 - 高見澤磨 「中国の法学にとっての日本」 『法の支配』 第168号 財団法人 日本法律家協会（2013.1）.
 - 高見澤磨 「辛亥革命から中国法史100年を考える」 『現代中国』 第86号（2012.）、39-41.
 - 高見澤磨 「中国近代商事糾紛解決制度概観与今後之研究課題」 『中日民商法研究』 第11号（2012.8）、351-358.
 - 高見澤磨 「調停から見る中国近世・近代法史」 川口由彦 編 日本近代法史の探求 『調停の近代』 勁草書房、2011.1、239-273.
 - 高見澤磨 「中国法への誘い（3）—中国と長くつきあう」 『法学教室』 第363号（2010.12）、39-41.
 - 高見澤磨 「中国法への誘い（2）—中国とつきあう」 『法学教室』 第362号 有斐閣（2010.11）、53-55.
-

-
- 高見澤磨 「中国法への誘い（1）－日本語で学ぶ、中国語を学ぶ」 『法学教室』 第361号（2010.10）、68-70.
 - 高見澤磨 「中国民法の総論的分析序説」 『ジュリスト』 第1406号（2010.9）、30-35.
 - 楊兆龍 「憲政之道」 高見澤磨 訳 『新編 原典中国近代思想史 第6巻 救国と民主－抗日戦争から第二次世界大戦へ』 第6巻 岩波書店（2011.3）、348-356.
 - 陳盛清 「戦後婚姻問題」 高見澤磨 訳 『新編 原典中国近代思想史 第6巻 救国と民主－抗日戦争から第二次世界大戦へ』 第6巻 岩波書店（2011.3）、406-412.
-

書評論文・書誌紹介

- 柳橋博之 「イスラーム財産法」 『アジア経済』 第54巻 第4号 東京大学出版会（2013.12）、193-196.
 - 高見澤磨 「書評：小野寺史郎 国旗・国歌・国慶－ナショナリズムとシンボルの中国近代史」 『法制史研究』 第62号（2012.3）、240-244.
 - 高見澤磨 「2010年読書アンケート」 『中国図書』 第262号 内山書店（2011.1）、2-3.
 - 高見澤磨 「書評：坂口一成 現代中国刑事裁判論 裁判をめぐる政治と法」 『社会体制と法』 第11号（2010.5）、111-115.
 - 高見澤磨 「書評：水林彪 国制と法の歴史理論 比較文明史の歴史像」 『法制史研究』 第61号（2012.3）、211-215.
-

口頭発表

- 高見澤磨 「我妻榮的中華国民法典注解及对「満洲国」民法的提及 以“発現”資料的介紹为中心」 中日民商法研究会第十三届（2014）年大会 西南政法大学（中国・重慶）2014年9月13日。（中国語）
-

事典等項目

- 高見澤磨 「罪と罰」 『中国百科 中国百科検定公式テキスト』 めこん、（2013.8）、132-133.
 - 高見澤磨 「憲法」 『中国百科 中国百科検定公式テキスト』 めこん、（2013.8）、106-107.
 - 高見澤磨 「裁判と法」 『中国百科 中国百科検定公式テキスト』 めこん、（2013.8）、136.
-

-
- 高見澤磨 「司法」 『中国百科 中国百科検定公式テキスト』めこん、(2013. 8)、134-135.
-

Ⅷ. 当該6年間の活動報告

1. 研究

清末より前の固有法、清末から中華民国までの近代法史、中華人民共和国法の三者をひとつらなりの動態として描くことにおいて成果を挙げることができた。

共著単行本として、高見澤磨・鈴木 賢『叢書 中国的問題群3 中国にとって法とは何か―統治の道具から市民の権利へ』（岩波書店、2010年）を出版し、本書は韓国でも翻訳出版された（ハヌル、2013年11月20日）。単著論文「調停から見る中国近世・近代法史」（川口由彦編著『調停の近代』勁草書房、日本近代法史の探求1、2011年）、「中国における法形成」（長谷部恭男，佐伯仁志，荒木尚志，道垣内 弘人，大村敦志，亀本洋編『岩波講座 現代法の動態 第一巻 法の生成／創設』岩波書店、2014年）、中国政法大学のシンポジウム（2014年11月1日）で行った基調報告「工商業組織与法：伝統和現代」も同様である。

2. 教育

教育においては、下記5の招聘から下記3の所長就任後は、通常通りに授業を開講することができなかったが、基本的には、法学部における中国法の講義及び演習、法曹養成専攻における現代中国法の講義及び演習、法学政治学研究科綜合法政専攻の演習を担当した。

この間に修士学位取得3名、博士学位取得2名があった。

3. 組織運営

2011年度には総長補佐、2014年9月4日から（2017年3月31日任期満了予定）は東洋文化研究所・所長をつとめている。

4. 社会貢献

いくつかの学会の理事をつとめているが、2012年から2014年には日本現代中国学会理事長、2015年から2017年（予定）中国社会文化学会理事長をつとめている。また、日本学術会議・連携会員を2011年10月3日からとつめている。

5. その他（国際的活動）

2013年9月から2014年8月には上海市の招聘プロジェクト（「上海市海外名師項目」）により華東政法大学学長に招聘されて上海において研究を行い、また、温州にて調査を行い、フフホト・杭州において学術交流を行った。

安富歩 YASUTOMI, Ayumu

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 魂の脱植民地化



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1986年 京都大学経済学部経済学科卒業

1991年 京都大学大学院経済学研究科経済政策学専攻修士課程修了

1997年 博士（経済学）（京都大学）

【職歴】

1986年～1988年 株式会社住友銀行

1991年 京都大学人文科学研究所 助手

1996年～1997年 Visiting Research Associate, London School of Economics and Political Science, the University of London.

1997年 名古屋大学情報文化学部 助教授

2000年 東京大学大学院総合文化研究科 助教授

2003年 東京大学大学院情報学環 助教授

2007年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2009年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

1997年 第40回日経・経済図書文化賞（受賞対象：『「満洲国」の金融』（創文社、1997年））

II. 取り組んでいるテーマ

私は、経済学がなぜかくも非現実的なのか、という問から出発し、理論経済学・東アジア史・力学系・理論生物学・人類学・環境問題・黄土高原でのフィールドワークなどを遍歴し、その根源を探って来た。そのなかで、サイバネティックスと東洋思想との重要性とその本質的關係に気づいた。現在は、「社会生態学」と呼ぶ新たな学問の創設を目指している。それは、人々が生きるために、自らの魂を脱植民地化する上で役立つ学問である。

III. 班研究

- ・ 魂の脱植民地化～共生と創発の歴史的ダイナミクス～

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (C)「中国社会の秩序生成原理の探求 ～場に立ち現れる「理」～」(2014～2016年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ NPO 法人 CREC 理事 (2011 年度～)
- ・ 株式会社粟島生活サービス顧問 (2013 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 大学院学際情報学府
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 大阪大学招へい教授 (2013 年度～)
- ・ 大谷大学文学部非常勤講師 (2014 年度～)

VII. 当該 6 年間の研究業績

著書

- ・ 安富歩 『あなたが生きづらいのは「自己嫌悪」のせいである。他人に支配されず、自由に生きる技術』 大和出版、2016. 8.
- ・ 安富歩 『マイケル・ジャクソンの思想』 アルテスパブリッシング、2016. 4.
- ・ 安富歩 『ありのままの私』 ぴあ、2015. 7.
- ・ 安富歩 『満洲暴走 隠された構造—大豆・満鉄・総力戦』 角川新書、2015. 6.
- ・ 遠藤誉深尾葉子 安富歩 『香港バリーケード』 明石書店、2015. 3.
- ・ 安富歩 『誰が星の王子さまを殺したのか—モラル・ハラスメントの罫』 明石書店、2014. 8.
- ・ 安富歩 『ドロッカーと論語』 東洋経済新報社、2014. 6.
- ・ 安富歩 『ジャパン・イズ・バック—安部政権にみる近代日本『立場主義』の矛盾』 明石書店、2014. 3.

-
- 安富歩(対談集) 小出裕章 中寫哲演 長谷川羽衣子『原発ゼロをあきらめないー反原発という生き方』 明石書店、2013. 7.
 - 安富歩 『「学歴エリート」は暴走するー「東大話法」が蝕む日本人の魂』 講談社+α 新書 講談社、2013. 6.
 - 安富歩 『合理的な神秘主義ー生きるための思想史』 青灯社、2013. 4.
 - 安富歩 本多雅人 佐野明弘 『親鸞ルネサンスー他力による自立』 明石書店、2013. 5.
 - 安富歩 『もう「東大話法」にはだまされないー「立場主義」のエリートの欺瞞を見抜く』 講談社+α 新書 講談社、2012. 9.
 - 安富歩 『原発危機と「東大話法」ー傍観者の倫理・欺瞞の言語』 明石書店、2012. 1.
 - 安富歩 『生きるための論語』 ちくま新書 筑摩書房、2012. 4.
 - 安富歩 『超訳 論語』 ディスカヴァー・トゥエンティワン、2012. 12.
 - 安富歩 『幻影からの脱出 原発危機と東大話法を越えて』 明石書店、2012. 7.
 - 安富歩 『生きる技法』 青灯社、2011. 12.
 - 安富歩 本多雅人 『今を生きる親鸞』 樹心社、2011. 12.
 - 安富歩 『経済学の船出〜創発の海へ〜』 NTT 出版、2010. 11.
 - 深尾葉子 安富歩 朱序弼 『黄土高原・緑を紡ぎだす人々 「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り』 石田慎介 唐明艶 訳 東洋文化研究所叢刊 第24輯 東京大学東洋文化研究所、2010. 10.
-

編著

- 安富歩、深尾葉子 編 『黄土高原 緑を紡ぎだす人々 「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り』 風響社、2010. 8.
 - 安富歩、深尾葉子 編 『「満州」の成立』ー森林の消尽と近代空間の形成』 財団法人古屋大学出版会、2009. 10.
-

学術論文

- 安富歩 「原発危機がもたらしたもの ～自己欺瞞の集団暴走～ 2012年10月6日 講演録」 『一般社団法人 癒しの環境 2015』 (2015. 11)、64 - 69.
 - 安富歩 「論語の秩序論」 『「論語」入門』 河出書房新社、2015. 1、30 - 40.
 - 安富歩 「無縁・マツコ・オタク」 『現代思想』 青土社、2014. 12、112 - 125.
 - 安富歩 「親鸞ルネサンスの構想 方便論的個人主義よる学問」 安富信哉博士古稀記念論集 刊行会事務局 編 『仏教的伝統と人間の生』 「第一部 親鸞思想との対話」 法蔵館、2014. 6、70 - 84.
-

-
- 安富歩 「早川由紀夫教授の福島第一原発事故に関するツイッターにおける発言についての考察」 福島大学原発災害支援フォーラム[FGF]×東京大学原発災害支援フォーラム[TGF] 編 『『原発災害とアカデミズム 福島大・東大からの問いかけと行動』』 合同出版、2013. 2.、232~253.
 - 安富歩 「「東大話法」と「虐殺の言語」」 『一冊の本』 第17巻 第4号 朝日新聞出版 (2012. 4.)、24-26.
 - Yasutomi, Ayumu and Charles Yuji Horioka. "ADAM SMITH'S ANSWER TO THE FELDSTEIN-HORIOKA PARADOX: THE INVISIBLE HAND REVISITED." *ECONOMIC LETTERS*. no. 111, 2011.1.: 36-37.
 - 安富歩 兼橋正人 「1940年国勢調査にみる満洲国の実相」 『アジア経済 2011 2 Vol. 52 No. 2』 第52巻 第2号 (2011. 2.)、2-22.
 - 安富歩 「親鸞の思想とハラスメント」 大谷一郎 編 『親鸞仏教センター通信 第36号 「現代と親鸞の研究会・36回」』 親鸞仏教センター (真宗大谷派)、2010. 12.、6-7.
 - 安富歩 「「社会生態学」叢書の刊行」 『出版ニュース』 第2208号 出版ニュース社 (2010. 5.)、41.
-

書評論文・書誌紹介

- 安富歩 「ヨアヒム・ラートカウ河の大氾濫—『自然と権力』という「生きるための歴史学」 書評: ヨヒアム・ラートカウ 自然と権力 環境の世界史」 『Publisher's Review みすず書房の本棚』 第3号 みすず書房 (2012. 6.)、1.
-

口頭発表

- 安富歩 「近代史サマーフォーラム2013記録 地域と時代を重ねる」 近代史サマーフォーラム2013実行委員会 2014年8月.
 - 親鸞聖人讃仰講演会 2013. 11. 26 「親鸞ルネサンスとは何か」 京都 2013年11月.
 - 安富歩 「「満洲国」から原発危機へ: 欺瞞言語の脅威」 星火方正 2012年6月、6-19.
 - "A socio-Ecological Study on the history of modern Manchuria." Presented at the *Todai Forum*, Lyon, France, November 2011.
 - 「親鸞ルネサンスの提唱」 DVD 親鸞ルネサンスの提唱 東京 2011年6月.
 - これからの仏教を考える日「今を生きる親鸞」御遠忌讃仰講演会講演録 東京 2011年5月、44-58.
-

一般向け記事

- 小山内美江子小島慶子 安富歩 「座談会 なぜ息子を育てるのはこんなに難しいのか」 『婦人公論』 第101巻 第19号 中央公論新社 (2016.10)、54-58.
 - 安富歩 「人権文化を拓く 『人権概念』を考える」 『であい』 公益社団法人 全国人権教育研究協議会 (2016.9)、14-15.
 - *安富歩 「総力取材 高畑裕太 強姦致傷逮捕② 『親の責任』私はこちら考える。」 『女性自身』 第59巻 第32号 光文社 (2016.9)、40.
 - 速水由紀子 「現代の肖像 『男性モビルスーツ』を脱ぎ捨てて」 『AERA』 第29巻 第37号 朝日新聞出版 (2016.8)、56-60.
 - 安富歩 「不安の時代を生き抜く勇気の持ち方」 『女性自身』 第59巻 第19号 光文社 (2016.6)、162-163.
 - 海原純子×安富歩 対談 「日本の男はなぜ生きづらいのか。」 『潮 6月号』 株式会社潮出版社 (2016.6)、187 - 193.
 - 安富歩 「Sexual Fluidity (セクシャル・フルイディティ) こそが世界を大改革するワケ」 『FRAU フラウ』 第26巻 第7号 講談社 (2016.5)、157.
 - 安富歩 「王様は裸だ 最終回」 『ZAITEN 4月号』 第60巻 第5号 株式会社財界展望新社 (2016.4)、94-95.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第20回」 『ZAITEN 3月号』 第60巻 第4号 株式会社財界展望新社 (2016.3)、90-91.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第19回」 『ZAITEN 2月号』 第60巻 第2号 株式会社財界展望新社 (2016.2)、84-85.
 - *同朋の記者 「「らしさ」を疑う 自分でないものになろうとすることが暴力を生む。」 『同朋』 第68巻 第2号 真宗大谷派宗務所 (2016.2)、6-13.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第18回」 『ZAITEN 1月号』 第60巻 第1号 株式会社財界展望新社 (2016.1)、90-91.
 - 安富歩 「なぜ自民党は田舎を切り捨てることにしたのか」 『TPP反対次世代への責任』 一般社団法人 農山漁村文化協会 (2016.1)、26-32.
 - 安富歩 「コトレシピの悩み相談 6」 『コトレシピ 2月号』 第3巻 第6号 株式会社みらい出版 (2016.1)、118.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第17回」 『ZAITEN 12月号』 第59巻 第14号 株式会社財界展望新社 (2015.12)、56-57.
 - 安富歩 「コトレシピ的 悩み相談 5」 『コトレシピ 12月号』 第3巻 第5号 株式会社みらい出版 (2015.12)、126.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第16回」 『ZAITEN 11月号』 第59巻 第13号 株式会社財界展望新社 (2015.11)、98-99.
-

-
- *和田 秀子 「子どもがセシウムを吸い込む ”被ばくイベント” が福島で決行された」 『女性自身』 第58巻 第40号 光文社 (2015.11)、165.
 - 安富歩 「差別を超え、創造性の海へ 寄稿」 『メンズ あいあう』 真宗大谷派 解放運動推進本部女性室 (2015.10)、2-5.
 - 安富歩 「Column 2 “優秀” = “求められる男” ではない」 『YOUNG GOETHE』 株式会社 幻冬舎 (2015.10)、13.
 - 安富歩 「コトレシピ的悩み相談 4」 『コトレシピ 10月号』 第3巻 第4号 株式会社みらい出版 (2015.10)、126.
 - 安富歩 「マイケル ジャクソン」 『週刊 新潮』 第60巻 第34号 株式会社 新潮社 (2015.10)、121.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第15回」 『ZAITEN 10月号』 第59巻 第12号 株式会社 財界展望新社 (2015.10)、84-85.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第12回 ロスト・チルドレン：われらは迷子」 『ERIS 第12号』 エリスメディア合同会社 (2015.9)、17-27.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第14回」 『ZAITEN 9月号』 第59巻 第11号 株式会社 財界展望新社 (2015.9)、54-56.
 - *上田貴子 「「女性装」自分らしさ素直に」 『北海道新聞』 北海道新聞社 (2015.9)、14面.
 - *女性自身記者 「安富歩 「美しさ」の秘訣は、自分自身を生きること！」 『女性自身』 第58巻 第32号 光文社 (2015.9)、177.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第13回」 『ZAITEN 8月号』 第59巻 第10号 株式会社 財界展望新社 (2015.8)、80-81.
 - 安富歩 「男物の服を脱ぎ捨てて初めて安心感に包まれた」 『婦人公論』 第100巻 第16号 中央公論新社 (2015.8)、146 - 149.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第12回」 『ZAITEN 7月号』 第59巻 第9号 株式会社 財界展望新社 (2015.7)、94-95.
 - 安富歩 「コトレシピ的悩み相談 3」 『コトレシピ 8月号』 第3巻 第3号 株式会社みらい出版 (2015.7)、134.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第11回」 『ZAITEN 6月号』 第59巻 第8号 株式会社 財界展望社 (2015.6)、86-87.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第11回 クライ」 『ERIS 第11号』 エリスメディア合同会社 (2015.6)、50 - 62.
 - 安富歩 「コトレシピ的悩み相談 2」 『コトレシピ 6月号』 第3巻 第2号 株式会社みらい出版 (2015.5)、126.
 - 安富歩 「「あの戦争」を読む 戦略爆撃 日本から始まった「空爆の時代」」 『週刊文春』 第57巻 第18号 文藝春秋 (2015.5)、148.
-

-
- 安富歩 「王様は裸だ 第10回」 『Z A I T E N 5月号』 第59巻 第6号 株式会社財界展望新社 (2015.5)、84-85.
 - *平舘英明 「<異性装>からみえる社会の不自由さ」 『週刊金曜日』 第23巻 第17号 株式会社金曜日 (2015.5)、8.
 - 安富歩 「私の東京LOVE ストーリー」 『T o k y o W a l k e r』 KADOKAWA (2015.4)、70.
 - 安富歩 「LGBTが企業にもたらすイノベーション」 『職場の心理学』 P R E S I D E N T (2015.4)、86-94.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第9回」 『Z A I T E N 4月号』 第59巻 第9号 株式会社財界展望新社 (2015.4)、44-45.
 - 安富歩 「子どもに見捨てられないための子育て入門」 『女性自身』 光文社 (2015.3)、グラビア.
 - 安富歩 「コトレシピ的悩み相談 1」 『コトレシピ 4月号』 第3巻 第1号 株式会社みらい出版 (2015.3)、134.
 - 安富歩 「天安門から香港拠点へ」 『すばる』 集英社 (2015.3)、242 - 245.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第8回」 『Z A I T E N 3月号』 第59巻 第4号 株式会社財界展望新社 (2015.3)、56 - 57.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第10回 プライヴァシー -マイケル・ジャクソンの三層構造-」 『ERIS 第10号』 エリスメディア合同会社 (2015.3)、70-81.
 - *及川 建二 「安富教授はなぜピケティを読まないのか」 『週刊金曜日』 株式会社 金曜日 (2015.3)、20 - 21.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第7回」 『Z A I T E N 2月号』 第59巻 第2号 株式会社財界展望新社 (2015.2)、56-57.
 - 安富歩 「中山秀征の語り合いたい人 第30回」 『女性自身』 第58巻 第1号 光文社 (2015.1)、グラビア.
 - 安富歩 「問答無用 (ワイドインタビュー) 私が助走を始めた理由」 『週刊 エコノミスト』 第93巻 第1号 毎日新聞社 (2015.1)、58 - 61.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第6回」 『Z A I T E N 1月号』 第59巻 第1号 株式会社財界展望新社 (2015.1)、80 - 81.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第9回 ハートブレイカー」 『ERIS 第9号』 エリスメディア合同会社 (2014.12)、61-78.
 - 安富歩 「孔子とドラッガー、意外な共通項」 『W o r k s 127』 第20巻 第5号 リクルートホールディングス リクルートワークス研究所 (2014.12)、56.
 - 安富歩 「LGBTが企業にもたらすイノベーション」 『プレジデント』 第52巻 第30号 プレジデント社 (2014.12)、120 - 122.
-

-
- 安富歩 「王様は裸だ 第5回」 『ZAITEN 12月号』 第58巻 第14号 株式会社財界展望新社 (2014.12)、54 - 55.
 - 安富歩 「「無縁の原理」を学ぶ」 『熊野寮 50周年記念誌 上巻』 株式会社 明光社 (2014.11)、354 - 356.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第4回」 『ZAITEN 11月号』 第58巻 第13号 株式会社財界展望新社 (2014.11)、56 - 57.
 - 安富歩 「安倍総理は「過ち」を認めよ」 『月刊日本』 第18巻 第10号 株式会社K&Kプレス (2014.10)、20 - 25.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第3回」 『ZAITEN 10月号』 第58巻 第12号 株式会社財界展望新社 (2014.10)、68-69.
 - 安富歩 「若手の力を伸ばす 「論語」に学ぶ人材育成」 『DANA ダーナ』 第6巻 第5号 株式会社佼成出版社 (2014.9)、12 - 15.
 - 安富歩 「マーケティングの解釈に誤解あり」 『戦略経営者』 第29巻 第9号 株式会社TKC (2014.9)、48-49.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第2回」 『ZAITEN 9月号』 第58巻 第11号 株式会社財界展望新社 (2014.9)、74-75.
 - 安富歩 「著者は語る 「ドラッカーと論語」」 『週刊文春』 第56巻 第34号 株式会社文藝春秋 (2014.9)、118.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第8回 MJの3つの映画」 『ERIS 第8号』 エリスメディア合同会社 (2014.9)、27-39.
 - 安富歩 「王様は裸だ 第1回」 『ZAITEN 8月号』 第58巻 第10号 株式会社財界展望新社 (2014.8)、50-51.
 - 安富歩 「女装の「安富歩」東大教授が語る東大エリートが日本を滅ぼす」 『週刊新潮』 第59巻 第31号 株式会社 新潮社 (2014.8)、44-45.
 - 安富歩 「間違いだらけのアベノミクス！「アサッテ」の方角に放つ3本の矢」 『I. B 2014年夏期特集号』 株式会社 データーマックス (2014.7)、24-27.
 - 安富歩 「私はこう読む「美味しんぼ」問題の核心」 『サンデー毎日』 第93巻 第23号 毎日新聞社 (2014.6)、24.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第7回 “Man In The World” ～マイケルの「修身齐家治国平天下」思想」 『ERIS 第7号』 エリスメディア合同会社 (2014.6)、31-48.
 - 安富歩 「「学歴とは何か？」学歴は「指標」だが、信じたいものを信じれば変えられる」 『AERA』 第27巻 第26号 朝日新聞出版 (2014.6)、23.
 - *平井康嗣 「編集長後記」 『週刊金曜日』 第22巻 第23号 株式会社 金曜日 (2014.6)、66.
-

-
- 安富歩 「「公正さ」と「資金の有効な調達」が必要なインフラ資源だ」 『週刊 金曜日』 第22巻 第20号 株式会社 金曜日 (2014.5)、22-23.
 - 安富歩 「安富 歩 ジャパン・イズ・バック 安倍政権にみる近代日本「立場主義」の矛盾」 『ZAITEN』 第58巻 第6号 株式会社 財界展望新社 (2014.5)、88-90.
 - *及川 建二 「「立場主義」から社会を鋭く分析する安富歩教授に聞く」 『週刊金曜日』 株式会社金曜日 (2014.5)、22-23.
 - *及川健二 「大阪市長選で明らかになった橋下維新の落日」 『週刊金曜日』 第22巻 第16号 株式会社 金曜日 (2014.4)、35.
 - *週刊現代 記者 「「東大までの人」と「東大からの人」 大切なのは「出身高校」というブランド」 『週刊現代』 第56巻 第10号 株式会社 講談社 (2014.3)、49、50.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第6回 “Heal The World” ～小さな場所を創り、より良い場所にする」 『ERIS 第6号』 エリスメディア合同会社 (2014.2)、33-51.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第5回 “Thriller” と “Smooth Criminal” ～魂の殺人とゾンビの跋扈」 『ERIS 第5号』 エリスメディア合同会社 (2013.11)、28-43.
 - 安富歩 「安富歩東京大学教授インタビュー 論語のテーマは「学習」の説び」 『未来共創新聞』 第13号 2013年9月30日 オフィス21 (2013.9)、1-7.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第4回 Will You Be There?～何に祈るのか?」 『ERIS 第4号』 エリスメディア合同会社 (2013.9)、37-58.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第3回 マイケル・ジャクソンはなぜ舞台上で泣くのか?」 『ERIS 第3号』 エリスメディア合同会社 (2013.6)、32-47.
 - 取材：安富 歩 「ヤワな時代でないから、この曲を聴こう」 『AERA』 '12.12.31-'13.1.7 Vol.26 No.1 朝日新聞出版 (2013.1.)、53-54.
 - 監修：安富 歩 「感じる論語 書きながら学ぶ「論語」教室」 『週刊朝日別冊 みんなの漢字』 2013年3月10日発行(増刊) 朝日新聞出版 (2013.3.)、44-47.
 - 木村恵子 金城珠代 取材：安富歩「学歴レバレッジ幸福論」 『AERA』 '13.9.2 朝日新聞出版 (2013.9.)、10-15.
 - 安富歩 「現代社会の混迷打破へ～親鸞ルネサンス～上」 『築地本願寺新報』 2013年11月 築地本願寺・築地本願寺新報社 (2013.11.)、4-6.
 - 安富歩 一楽真 清谷真澄 「今、親鸞に学ぶー「震災と原発」問題を通してー」 『教化研究』 第一五五号 真宗大谷派 教学研究所 (2013.12.)、117-145.
 - 安富歩 「他力に生きる 東大話法を超えて～親鸞ルネサンス～下」 『築地本願寺新報』 2013年12月 築地本願寺・築地本願寺新報社 (2013.12.)、4-6.
 - 安富歩 「『論語』とドラッカー」 『雑誌「Think!」』 No.45 東洋経済新報社 (2013.4.)、36-43.
 - 安富歩 「先祖になれ！ 倒錯のアベノミクスではなく真に生きるための政治信条」 『世界』 第845号 岩波書店, (2013.7.)、91-98.
-

-
- 取材：安富 歩 「大研究 ああ、東京大学 東大に入っても不幸な人、東大出たのに不幸な人」 『週刊現代』 三月二十三日号 第五十五卷第十号 講談社 (2013.3)、172.
 - 取材：安富 歩 「「勉強はできるのに、仕事はできない人」の研究」 『週刊現代』 二月二日号 第五十五卷第四号 講談社 (2013.2)、182.
 - 安富歩 「マイケル・ジャクソンの思想 第2回 なぜマイケルは、ムーンウォークをしたのか」 『ERIS 第2号』 エリスメディア合同会社 (2013.2)、13 - 31.
 - *和田静香 「公開対談 湯川れい子+安富歩 マイケル・ジャクソンの革命思想 子どものための社会」 『ERIS 第2号』 エリスメディア合同会社 (2013.2)、4-12.
 - 安富歩 「マイケルジャクソンの思想 第1回 “Jam” とは何か」 『ERIS 創刊号』 エリスメディア合同会社 (2012.10)、26 - 39.
 - 安富歩 「『幻影からの脱出』を書いた安富歩氏に聞く」 『週刊東洋経済』 第6415号 東洋経済新報社 (2012.9.)、148-149.
 - *茂木 健一郎 「生きるための論語」 『第三文明』 第三文明社 (2012.9)、92.
 - *徳丸威一郎 「東大教授が東大話法で大暴走」 『サンデー毎日』 第91巻 第30号 毎日新聞社 (2012.7)、130.
 - 安富歩 「政治は今こそ次世代を守る視点に立つとき」 『第三文明』 第630号 第三文明社 (2012.6.)、30-32.
 - 安富歩、宮台 真司 「東大話法が生んだ聖域とタブー」 『サイゾー』 第12巻 第5号 株式会社サイゾー (2012.5.)、124-129.
 - 安富歩 「ユーロ危機と通貨の階層性—中華帝国の貨幣史を踏まえて考える」 『at プラス』 第11号 太田出版 (2012.2.)、72-85.
 - 安富歩 「論語とサイバネティックス」 『科学』 Vol.82 No.3 岩波書店 (2012.3.)、236-237.
 - 安富歩 「“いじめ”が生まれる社会空間を読みかえる」 『第三文明』 第634号 第三文明社 (2012.10.)、68-70.
 - 安富歩 「他力思想の射程—清沢満之の「如来」への信念」 『at プラス』 第13号 太田出版 (2012.8.)、40-52.
 - 安富歩 「田中角栄主義と現代」 『アリーナ』 第13号 風媒社 (2012.5.)、312-332.
 - 徳丸威一郎 取材：安富歩 「東大から起きた「原子カムラ」内部批判」 『サンデー毎日』 2012年3月4日号 毎日新聞社 (2012.3.)、148-151.
 - 徳丸威一郎 取材：安富歩 「東電の“派遣教員、東大教授“逆ギレ、反論の東大話法」 『サンデー毎日』 2012年4月1日増大号 毎日新聞社 (2012.3.)、28-29.
 - 安富歩 「親鸞一人がための世界」 『名古屋 御坊』 第554号 2012年8月10日 真宗大谷派名古屋別院 (2012.8.)、1.
 - 安富歩 「いのちの尊厳 メジロの体当たり」 『名古屋 御坊』 第555号 2012年9月10日 真宗大谷派名古屋別院 (2012.9.)、1.
-

-
- 安富歩 「脱出口はどこだ 『幻影からの脱出—原発危機と東大話を越えて』 刊行記念」 『書標 ほんのしるべ』 2012.9月号 ジュンク堂 (2012.9.)、30.
 - 安富歩 「原発事故を「論語」で読み解く」 『文藝春秋』 第90巻 第10号 文藝春秋 (2012.7.)、204-212.
 - 安富歩 「親鸞の「方便論的個人主義」による学問の再編(上)」 『南御堂』 第603号 2012年9月1日 真宗大谷派難波別院 (2012.9.)、1.
 - 安富歩 「親鸞の「方便論的個人主義」による学問の再編(下)」 『南御堂』 第604号 2012年10月1日 真宗大谷派難波別院 (2012.10.)、1.
 - 安富歩 「平気で人を騙す「東大の先生たち、この気持ち悪い感じ」」 『週刊現代』 第54巻 第13号 株式会社 講談社 (2012.4.)、54-57.
 - 安富歩 「東大から起きた「原子カムラ」内部批判」 『サンデー毎日』 毎日新聞社 (2012.3.)、148-151.
 - 安富歩 「原子力とオカルトとの相同性—熱力学第二法則と人類の未来」 『at プラス』 第10号 太田出版 (2011.11.)、78-90.
 - 安富歩 「真説ドラッカー入門」 『東洋経済』 第6257号 東洋経済新報社 (2010.4.)、100-101.
-

新聞記事

- 大森雅弥 「私がほれた女」 『東京新聞』 2016年3月19日、4面、中日新聞東京本社.
 - 安富歩 「展評 与那覇大智展 魂に届く作品の声」 『琉球新聞』 2016年1月28日、17面.
 - *日経MJ記者 「進むジェンダーレス」 『日経MJ』 2016年1月4日、2面、日経流通新聞.
 - 社会新報記者 「新国立競技場の暴走—官僚制と東大話を—」 『社会新報』 2015年12月9日、9面.
 - 安富歩 「ソフィア 京都新聞文化会議 視線から差別の本質を考える」 『京都新聞』 2015年12月4日、7面.
 - *Huffpost記者 「『自分は男性のフリをしていた』 東大教授・安富歩さんが“女性装”で感じた安心感」 『The Huffington Post』 2015年9月12日、URL参照. [\[Link\]](#)
 - *ウートピ記者 「男同士の関係は『パワハラ×同性愛』で成り立っている 差別がなくなる理由を社会構造から解き明かす」 『ウートピ』 2015年9月10日、URL参照. [\[Link\]](#)
 - *齊藤 美保 「カミングアウトは自分のため、そして周りのため」 『日経ビジネス ONLINE』 2015年9月3日、URL参照. [\[Link\]](#)
-

-
- 宇田川恵 「「男のふり」をやめた東大教授、安富歩さん 男女区別、社会をゆがめる」
『毎日新聞』 2015年8月31日 夕刊、URL参照、毎日新聞社. [\[Link\]](#)
 - 京都新聞記者 「東大教授’女性装’の理由を語る安富歩氏が本を出版」 『京都新聞デジタル版』 2015年8月12日、URL参照. [\[Link\]](#)
 - *47NEWS 記者 「東大教授”女性装”の理由を語る 安富歩氏が本を出版」 『47NEWS』 2015年8月12日、URL参照. [\[Link\]](#)
 - ORICON, STYLE 「‘女性装の大学教授’安富歩、独自の人生観とは」 『ORICON STYLE』 2015年8月5日、URL参照. [\[Link\]](#)
 - 東京新聞記者 「こちら特捜部 有事の政権批判はご法度なのか？」 『東京新聞』 2015年1月30日、27面.
 - 記者 「満蒙開拓の記憶 見つめて 泰阜と満洲 歴史や関係学ぶ」 『信濃毎日新聞』 2014年10月21日、23面.
 - *堀江 利雅 「「不知」がバブルを招いた 6月例会 安富・東大教授が講演」 『熊本日日新聞』 2014年6月20日 朝刊、4面.
 - 安富歩 「安倍首相なぜ断言する？ 幻想 国民が期待している」 『朝日新聞』 2014年6月13日 朝刊、39、朝日新聞大阪本社.
 - 安富歩 「2012年3月29日から・・・デモ100回 日常的な声になった」 『東京新聞』 2014年5月3日、30.
 - 安富歩 「読書：「母という病」 親子関係の苦悩に深く切り込む」 『公明新聞』 2014年3月17日、4、公明党機関紙委員会.
 - 小倉貞俊 林啓太 佐藤圭 取材：安富歩「こちら特報部 「霞が関文学」の危険性」 『東京新聞』 2013年10月25日 朝刊12版、27面、中日新聞東京本社.
 - *山本恭司 「孔子の真実に迫る 安富歩東京大学教授インタビュー」 『未来共創新聞』 2013年9月30日、1面.
 - 「本 「親鸞ルネサンス」安富歩・本多雅人・佐野明弘共著」 『東京新聞』 2013年7月20日 朝刊12版、13面、中日新聞東京本社.
 - 安富歩 「「立場主義」脱却訴え 経済停滞感打破で持論」 『茨城新聞』 2013年6月13日、21.
 - 川戸和史 取材：安富歩「窓 満州国と安倍バブル」 『朝日新聞』 2013年3月18日 夕刊4版、2面、朝日新聞東京本社.
 - 安富歩 「安富歩さんが語る孔子の論語」 『中日新聞』 2013年2月5日 朝刊12版、15面、中日新聞社.
 - *松本一弥 「人・脈・記 民主主義は ここから⑧ わが東大はけしからん」 『朝日新聞夕刊』 2012年11月30日、1面.
 - 安富歩 「現代哲学の議論超え一貫性」 『南御堂』 2012年10月1日、1面.
-

-
- 安富歩 「魂の脱植民地化 人間その問われるもの 〈後編〉」 『同朋新聞』 2012年10月1日、2-3.
 - 上田千秋 新井六貴 取材：安富歩「こちら特報部 「青い鳥」 求める国民 民・自イヤ「救世主」 夢想」 『東京新聞』 2012年9月8日 朝刊12版、29面、中日新聞東京本社.
 - 安富歩 「魂の脱植民地化 人間その問われるもの 〈前編〉」 『同朋新聞』 2012年9月1日、2-3面.
 - 安富歩 「命の尊厳： 親鸞一人がための世界」 『なごやごぼう』 2012年8月10日、1.
 - 安富歩 「これからの日本経済～生きるための経済学」 『秋田さきがけ』 2012年7月21日、6面.
 - 安富歩 「「満洲」、原発 棄民の荒野」 『日本で中国』 2012年7月15日、4.
 - 安富歩 「ヨヒアム・ラートカウ河の大氾濫」 『パブリッシャーズ・ビュー』 2012年6月15日、1面.
 - 安富歩 「「人知の闇」 を超える (下)」 『東京新聞』 2012年5月19日 朝刊12版、19面、中日新聞東京本社.
 - 安富歩 「「人知の闇」 を超える (下)」 『中日新聞』 2012年5月19日 朝刊12版、17面、中日新聞社.
 - 安富歩 「「人知の闇」 を超える (上)」 『中日新聞』 2012年5月12日 朝刊12版、17面、中日新聞社.
 - 安富歩 「「人知の闇」 を超える (上)」 『東京新聞』 2012年5月12日 朝刊12版、13面、中日新聞東京本社.
 - 安富歩 「科学者の役割と責任④」 『東京大学新聞』 2012年5月2日、3面、東京大学新聞社.
 - *福井新聞 記者 「脱原発テーマに講演や意見交換」 『福井新聞』 2012年4月23日、福井ワイド 2面.
 - 上田千秋 小坂井文彦 取材：安富歩「無謀な原発再稼働」 『東京新聞』 2012年3月27日 朝刊12版、28-29、中日新聞東京本社.
 - 佐藤圭 中山洋子 取材：安富歩「こちら特報部 「参院選 自民原発推進」 例えると」 『東京新聞』 2012年3月27日 朝刊12版、28-29、中日新聞東京本社.
 - 安富歩 「特集ワイド 東大話法のトリック」 『毎日新聞』 2012年3月23日 夕刊3版、6面、毎日新聞東京本社.
 - 安富歩 「こちら特報部 安富歩・東大教授に聞く 原子カムラでまん延「東大話法」」 『東京新聞』 2012年2月25日 朝刊11版、28-29、中日新聞東京本社.
 - 安富歩 「連続インタビュー 科学者の役割と責任④ 「東大話法」 って？」 『週刊東京大学新聞』 2012年2月7日、3、東京大学新聞社.
 - 安富歩 「Bunka なう 鎌倉仏教の2巨人と現代①「親鸞ルネサンス」： 愚の大地に立つ学問 目指す」 『毎日新聞夕刊』 2011年5月12日 夕刊4版、2面、毎日新聞社大阪本社.
-

-
- 安富歩 「私の視点：大学の新学期 9月始まりで復興の力に」 『朝日新聞』 2011年4月4日 朝刊12版、11面、朝日新聞社.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

安富歩は深尾葉子（大阪大学大学院経済学研究科准教授）と共同して、「魂の脱植民地化」という新しい研究分野の創出に取り組んでいる。既に安富を代表者として、基盤B『魂の脱植民地化～日本とその周辺諸国のポストコロニアル状況を解消するための歴史学～』（研究課題番号：19320094）2007～8年度※参考、基盤A『「共同体」概念に依拠しない秩序形成の理論歴史学～魂の脱植民地化の新しい展開～』2009～12年度、基盤C『中国社会の秩序生成原理の探求～場に立ち現れる「理」～』2014～16年度、と三つの科研費による研究プロジェクトを運営した。この成果は、東洋文化研究所『東洋文化』の四回の特集号（89号※参考、90号※参考、92号、95号）として公表された。また、これに基づき、2012年より『叢書 魂の脱植民地化』を深尾の『魂の脱植民地化とは何か』の刊行によって立ち上げ、安富の第三巻を経て、既に、本研究所の真鍋祐子教授による第六巻『自閉症者の魂の軌跡～東アジアの「余白」を生きる』まで刊行した。

また、安富を会長とする任意団体『歴史文化工学学会』が2015年3月に創設された。この研究成果を安富は、2014年10月の『アウト×デラックス』（フジテレビ）をはじめ多数のテレビ番組で公表し、また各種新聞および『週刊新潮』『女性自身』『婦人公論』『週刊女性』『FRaU』など一般誌で報道され、社会的に大きな注目を集めており、アウトリーチの面でも大きな成果をあげている。

『誰が星の王子さまを殺したのか』は、フランスで注目を集め、モラル・ハラスメントの提唱者、イルゴイエン博士から高い評価を受け、その紹介により、Le Point 及び Le Point Reference に本研究についての紹介記事が掲載された。また、『超訳 論語』は、韓国語（Hyeonamsa Pub, 2014）及び中国語（香港中和出版 2015）に翻訳出版された。

黒田明伸 KURODA, Akinobu

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 東アジア経済史



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1980年 京都大学文学部史学科卒業

1982年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了

1985年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学

1995年 博士（経済学）（京都大学）

【職歴】

1986年 京都大学文学部 助手

1987年 大阪教育大学教育学部 講師

1989年 名古屋大学教養部 助教授

1993年 名古屋大学情報文化学部 助教授

1997年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2002年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

1994年 第16回サントリー学芸賞 政治経済部門（サントリー文化財団）

II. 取り組んでいるテーマ

貨幣の本質は、貨幣そのものにあるのではなく、貨幣を使用する人々の循環的なつながり、すなわち回路にこそある。そのつながりには、匿名的に流通する通貨を介する場合と、貨幣単位で記帳しながら指名的な債権債務をつらねた信用の連鎖の場合とがあるが、弾力性に富むが滞留しやすい前者と確定的だが伸縮性に欠ける後者は補完的に働いている。その組み合わせのあり方の世界史大の比較を、国際的かつ学際的な協同により行っている。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B) 「貨幣の多元性についての国際共同研究：世界史における貨幣間分業とその比較」（2014～2018年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- Editor, International Journal of Asian Studies (Cambridge UP) 2012年～
- 社会経済史学会理事 2009年～2014年
- 史学会評議員 2007年～

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- 人文社会系研究科 1997年～
- 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- 黒田明伸 『貨幣システムの世界史-「非対称性」をよむ 増補新版』 岩波書店、2014. 3.

学術論文

- 黒田明伸 「唯‘錫’史観—なぜ精錢を供給しつづけられなかったのか」 飯沼賢司・平尾良光 編 『大航海時代の日本と金属交易』 思文閣出版、2014. 10、18-20.
- Kuroda, Akinobu. "“Anonymous Currencies or Named Debts?: Comparison of Currencies, Local Credits and Units of Account between China, Japan and England in the Pre-industrial Era”." *Socio Economic Review*. Vol. 11. no. 1: Oxford University Press, 2013.9 : 57-80.
- Kuroda, Akinobu. "“What was Silver Tael System?: A Mistake of China as Silver ‘Standard’ Country”." *Moneta*. Vol. 160: Belgium, 2013.9 : 391-397.
- 黒田明伸 「「欧亚大陆的白银时代(1276-1359)」」 第38卷 『思想战线』 云南大学思想战线编辑部、2012. 11、79-85. (中国語)

口頭発表

- KURODA, Akinobu. "The Character of Money: Beyond the Trinity of Monetary Functions." Presented at the *17th World Economic History Congress, Session 'The Quality of Money*, Kyoto International Conference Hall 1, August 7 2015..
 - KURODA, Akinobu. "Local Paper Monies Ubiquitous Across Early 20th Century China." Presented at the *17th World Economic History Congress, Session 'Free Banking Systems'*, Kyoto International Conference Hall, August 5 2015.
 - KURODA, Akinobu. "Between Money and Material: Old Chinese Bronze Coins Dominated Medieval Japan." Presented at the *International Conference 'Currencies of Commerce in the Greater Indian Ocean World*, McGill University, April 25 2015.
 - KURODA, Akinobu. "Dominance of 'Old' Chinese Coins in Medieval Japan: The Self-Organization of Money." Presented at the *Harvard Yenching Institute Seminar*, Harvard Yenching Institute, April 14 2015.
 - KURODA, Akinobu. "Re-Construct Global Monetary Historiography to Reconsider What Money Is." Presented at the *Princeton East Asian Studies Program*, Princeton U, March 12 2015.
 - KURODDA, Akinobu. "The Characters of Market: Comparison between China and Japan in Preindustrial Era." Presented at the *Workshop "Revisit Markets and Institutions in Early Modern East Asia: Beyond Exceptionalism and Generalisation"*, Harvar Yenching Institute, March 6 2015.
 - KURODA, Akinobu. "Monetary Theory, Monetary History, and Global History." Presented at the *Workshop "Is Global History Truly Global? : Positionality of Historians"*, Humboldt U, December 4 2014.
 - KURODA, Akinobu. "The Character of Money: Why Cannot Currency be Unified." Presented at the *Economic History Seminar, U of Pennsylvania*, U of Pennsylvania, October 23 2014.
 - KURODA, Akinobu. "The Character of Money: A Sketch for a Global History from Complimentary Currencies." Presented at the *Economic History Seminar, U of Utrecht*, U of Utrecht, October 13 2014.
 - KURODA, Akinobu. "The Character of Money: Differentiation Ubiquitous in History." Presented at the *The Money Talks Symposium*, Yale U, September 12 2014.
 - KURODA, Akinobu. "Actual Monetary Usages in 19th Century China: Some Reflections from Account Books." Presented at the *Coin of the Realm: Money and Meaning in Late Imperial China*, Harvard University, April 18 2014. [\[Link\]](#)
 - KURODA, Akinobu. "Actual Monetary Usages in 19th Century China: Some Reflections from Account Books." Presented at the *International Conference 'Coin of the Realm: Money and Meaning in Late Imperial China'*, Harvard U, April 18 2014.
 - KURODA, Akinobu. "The Quality of Money: Reflections from Global History." Presented at the *The Quality of Money*, École Normale Supérieure, Jourdan, Paris, December 6 2013.
-

-
- KURODA, Akinobu. "The Quality of Money: Reflections from Global History." Presented at the *International Workshop 'The Quality of Money'*, École Normale Supérieure, Jourdan, Paris, December 6 2013.
 - 黒田明伸 「歴史にみる貨幣たちの個性」 法文化学会第16回研究大会 立正大学 2013年11月9日.
 - KURODA, Akinobu. "'FAMINES of CASH': Locality of Money Ubiquitous through Human History." Presented at the *2nd International Conference for Complementary Currency System*, International Institute of Social Sciences, The Hague, June 20 2013. [[Link](#)]
 - KURODA, Akinobu. "'FAMINES of CASH': Locality of Money Ubiquitous through Human History." Presented at the *2nd International Conference for Complementary Currency System*, IISS, The Hague, June 20 2013. [[Link](#)]
 - KURODA, Akinobu. "What was Silver Tael System? : A Mistake of China as Silver 'Standard' Country." Presented at the *International Workshop: Transfer of Precious Metals and their Consequences*, Museo del Traje, Madrid, May 17 2013.
 - KURODA, Akinobu. "Chinese copper cash system: two millenniums consistency incorporating illegal coinages and local denominations." Presented at the *International Workshop: Small change: bronze/copper coins from Antiquity to 19th c.*, École Normale Supérieure, Paris, May 13 2013.
 - KURODA, Akinobu. "Currency unable to unify: A history of complementary monies." Presented at the *"Unicity and Plurality of Money"*, Veblen Institute, The Fondation Charles-Léopold Mayer pour le Progrès de l'homme, Paris, March 29 2013.
 - KURODA, Akinobu. "Locality with Money in History." Presented at the *Economic History Seminar*, EHESS, EHESS, Paris, March 25 2013.
 - KURODA, Akinobu. "The Age of Foreign Silver Dollars." Presented at the *La Dépréciation de l'Argent Monétaire et les Relations Internationales*, Ecole Normale Supérieure, Paris.
 - KURODA, Akinobu. "Complementarity among monies in Chinese, Japanese and global history', Is money substitutive or complementary? East Asian monetary history in global perspective." Presented at the *Revisiting East Asian Economic History from a Global Perspective*, Yale, September 29 2012.
 - KURODA, Akinobu. "Peasant economy and multiplicity of market in China' Beyond Smithian Growth." Presented at the *Revisiting the Economic History of Early Modern Japan and China*, *Revisiting East Asian Economic History from a Global Perspective*, Yale, September 28 2012.
 - KURODA, Akinobu. "Paper Money Standard in 1935 China: Unification on the Top and Diversification on the Ground." Presented at the *16th World Economic History Congress Session 'Monies Anonymous but Multiple: A Reason Why No Single Currency Ruled*, U of Stellenbosch, South Africa, July 10 2012.
 - KURODA, Akinobu. "What Caused Chinese Copper Coins to Circulate in Medieval Japan? : Affluent Song Coins outside the Chinese Empire." Presented at the *16th World Economic History Congress*

Session 'The Path to modernization: the history and thought of Chinese money and finance', U of Stellenbosch, South Africa, July 9 2012.

- KURODA, Akinobu. "Locality and Global Monetary History from Mezzoscopic Viewpoint." Presented at the *U of Tokyo Forum*, Ecole Normale Supérieure, Lyon, October 20 2011.
 - KURODA, Akinobu. "Unfixed Money: Revisiting Global Monetary History from Mezzoscopic Viewpoint." Presented at the *International Conference the DFG Research Group 'Monies, Markets and Finance in China and East Asia 1600-1900'*, U of Tübingen, October 5 2011.
 - KURODA, Akinobu. "Locate the Tokugawa Japan in the East Asian and Global Monetary History." Presented at the *East Asian History Seminar*, U of Ruhr, Bochum, June 9 2011.
 - KURODA, Akinobu. "Currency Finite to Supply and Unit of Account Infinite to Book: A Missing Point in the Study on Money." Presented at the *Workshop VI.2 of the DFG Research Group 'Monies, Markets and Finance in China and East Asia 1600-1900'*, U of Tübingen., May 6 2011.
 - KURODA, Akinobu. "Multiple monies in Asia and Africa." Presented at the *African Economic History Workshop*, Graduate Institute Geneva, May 2 2011.
 - KURODA, Akinobu. "Locating medieval Japan in East Asian monetary history." Presented at the *Les monnaies médiévales japonaises et l'Asie orientale*, EHESS, Paris, December 16 2010. [\[Link\]](#)
 - KURODA, Akinobu. "Monies for ordinary people in history: neither precious nor national." Presented at the *WORKSHOP Discussing Money Matters: A workshop around Akinobu Kuroda's questions and answers*, Université Paris Ouest Nanterre, December 10 2010. [\[Link\]](#)
 - KURODA, Akinobu. "Global monetary history from non teleological viewpoint." Presented at the *WORKSHOP Discussing Money Matters: A workshop around Akinobu Kuroda's questions and answers*, Université Paris Ouest Nanterre, December 10 2010. [\[Link\]](#)
 - KURODA, Akinobu. "Temporality, seasonality, and locality with monetary transactions in traditional China and other societies." Presented at the *WORKSHOP Temporality, Seasonality, and Locality Mattered Making Transactions: Why No Single Currency Ruled in History?*, École Normale Supérieure, Paris, December 7 2010.
 - KURODA, Akinobu. "Currencies, monetary accounts, and local credits in China, Japan and England in preindustrial periods." Presented at the *WORKSHOP Money as Social Circuit: Anonymous Currency and/or Named Credit*, École Normale Supérieure, Paris, December 6 2010.
 - KURODA, Akinobu 「Can Credit Substitute Currency? A Comparison of Currencies, Local Credits and Monetary Accounts between China, Japan, and England in Preindustrial Era」 国際シンポ 伝統中国商業文化と現代市場秩序 成均館大学 2010年6月11日。(英語)
 - KURODA, Akinobu. "Paper Monies before Bank in China and Japan." Presented at the *WORKSHOP: The Origin of Paper Money in Theory and Practice*, City University of London., April 8 2010.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

世界史上各地で現れる多様な通貨が並存する状況の意味を十分に説明できる理論が存在しなかったため、錯綜しているようにみえる背後に貨幣間の相互補完の構造がある、との黒田の議論は、一つの解として受けとめられ、学際的・国際的に流布しつつある。例えば、米国科学アカデミー会員の人類学者 Jane Guyer は、同アカデミー紀要の会員就任論文において、黒田の一連の仕事を貨幣の多元性に焦点をあてた先駆的研究として紹介し、2010年12月パリ第10大学で社会人類学者 Keith Hart、経済学者 Jean Cartelier などが討論者となって黒田の貨幣理論をめぐるワークショップが開催され、地域通貨運動の国際的波及をうけて2013年6月ハーグにて開催された第2回国際補完通貨学会は黒田を基調講演者として招待している。東アジア史を基礎としながら世界大の史実から貨幣論を再構築しようとする黒田の仕事はことに欧州で着目されており、パリ第10大学（2010年11月―12月）、チュービンゲン大学（ドイツ研究基金メルカトル教授、2011年4月―12年2月）、パリ高等師範学院（2013年3月―7月）に相次いで客員教授として招請されている。その他、この期間の欧米での招待講演はハーバード、イエール、プリンストン大学など20回にのぼる。中国でも中国語論文が公刊され、陳曉榮『民国小区域流通貨幣研究』中国社会科学出版、のように黒田著書を頻繁に引用する業績があらわれ、また日本史研究においても、小林延人『明治維新期の貨幣経済』東京大学出版会など、黒田の貨幣理論に影響を受けた著作が近年数多く出版されている。

真鍋祐子 MANABE, Yuko

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム



I. 略歴

【学歴】

- 1986年 奈良教育大学教育学部卒業
- 1989年 筑波大学大学院地域研究研究科修士課程修了
- 1996年 筑波大学大学院社会科学研究科博士課程修了
- 1996年 博士（社会学）（筑波大学）
- 1987年～1998年 慶熙大学校大学院碩士課程国文科研究生

【職歴】

- 1991年～1993年 啓明大学校外国学大学日本学科客員専任講師
- 1996年～1998年 日本学術振興会特別研究員
- 1998年 秋田大学教育文化学部 助教授
- 2002年 国士舘大学 21世紀アジア学部 助教授
- 2006年 東京大学東洋文化研究所 助教授
- 2007年 同 准教授
- 2010年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

II. 取り組んでいるテーマ

朝鮮文化の宗教的エトスと現代韓国社会の動態性にかかわる実証的研究を、社会運動論と関連づけながら行なっている。東アジアのグローバル化を念頭におきながら、現代韓国におけるナショナリズムとツ～リズムのかかわりに関心をもつ。「在日」知識人における知の構築とこれが韓国民民主化運動に与えたインパクトについて、また日本の学術や言論で影響力をもつ「在日」知識人の「独自の普遍」という問題に関心をもつ。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究（C）「ポストコロニアル状況における「在日」の知の現在-その「独自の普遍」を問う」（2012～2015年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本社会学会
- ・ 日本文化人類学会
- ・ 「宗教と社会」学会
- ・ 日本口承文芸学会
- ・ 韓国・朝鮮文化研究会
- ・ 現代韓国朝鮮学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- ・ 真鍋祐子 『열사의 탄생 한국민중운동에서의 한의 역학』 金景南 訳 民俗苑 Seoul、2015. 5.（韓国語）
- ・ 真鍋祐子 『自閉症者の魂の軌跡—東アジアの「余白」を生きる』 青灯社、2014.
- ・ 真鍋祐子 『増補 光州事件で読む現代韓国』 平凡社、2010.

編著

- ・ 真鍋祐子 新井芳廣 池澤優ほか 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012.

学術論文

- ・ 真鍋祐子 「「白頭山／長白山」（南北朝鮮／中国）をめぐる聖地ツーリズムの行方」 山本敏夫記念文学部基金講座「現代社会と宗教」 編 『戦争と宗教／聖地とツーリズム』 慶應義塾大学出版会、2016.、50-52.

-
- 真鍋祐子 「歴史意識の詩学—「セオウル号の惨事」に寄せて」 『学環』 第 87 卷 (2014.)、i-iv.
 - 真鍋祐子 「韓国宗教概説」 真鍋祐子 新井芳廣 池澤優ほか 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012.、442-445.
 - 真鍋祐子 「封殺された〈言葉〉を解き放つ—コリア研究がはらむハラスメント性について」 『東洋文化』 第 92 卷 (2012.).
 - 真鍋祐子 「「隠喩としての病い」の現在—有名人の「がん告白」に照らして」 『学環』 (2011.)、1-26.
-

書評論文・書誌紹介

- 真鍋祐子 「伊藤正子著『戦争記憶の政治学—韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題と和解への道』」 『現代韓国朝鮮研究』 第 15 号 西日本新聞社 (2015. 11)、120-123.
 - 真鍋祐子 「『在日音楽の 100 年』を再考する—それぞれの「解放」=「パリロ」のために」 『韓国朝鮮の文化と社会』 第 14 号 韓国・朝鮮文化研究会 (2015. 10)、239-245.
 - 真鍋祐子 「インタビュー 日本人全体を敵にするべきではない・・・韓国人は豹変の勇断を (2)」 『中央日報/中央日報日本語版』 中央日報社 (2015.).
 - 真鍋祐子 「本・批評と紹介 金鎮虎著/香山洋人訳『市民K、教会を出る—韓国プロテスタントの成功と失敗、その欲望の社会学』」 『本のひろば』 キリスト教文書センター (2015.)、6-7.
 - 「書評: 金明美 サッカーからみる日韓のナショナリティとローカリティ」 『文化人類学』 75-4 (2011.)、614-617.
 - 真鍋祐子 「インタビュー「' 80 光州—日本人と民主化闘争」 2、墓地での「畏怖」源流に」 『西日本新聞』 西日本新聞社 (2010.).
 - 真鍋祐子 「「6・15」と「ニムのための行進曲」—光州抗争 30 周年 民主化運動記念式典に参加して」 『朝鮮新報』 朝鮮新報社 (2010.)、5.
-

口頭発表

- 真鍋祐子 「韓国民主化抗争 (1980 年) と「五月の歌」—歌は、どこから来て、どこへ行くのか」 西南学院大学全学共通教育『韓国学への招待』特別講義 西南学院大学 2015 年 6 月 27 日.
 - 真鍋祐子 「長白山・白頭山/中国・南北朝鮮」 慶應義塾大学山本敏夫記念文学部基金講座 「現代社会と宗教」『聖地とツーリズム』 慶應義塾大学 2015 年 6 月 10 日.
 - 真鍋祐子 「日韓相互認識の現在—未来志向のために」 日中韓記者と日本の大学生との対話会 東京大学 2015 年 4 月 17 日.
-

-
- 真鍋祐子 「東アジアの「余白」を生きる—キリスト者として、研究者として」 呉在植氏自叙伝『わたしの人生のテーマは「現場」』出版記念講演会 西片町教会 2015年3月22日.
 - Manabe, Yuko. "Contemporary Koren History and the Establishment of Memorial Days." Presented at the *Social Movements and the Production of Knowledge, Politics, Identity and Social Change in East Asia*, Minpaku Core Research Project 'The Anthropology of Care and Education for Life', Suita, Osaka, February 23 2014.
 - Manabe, Yuko 「Thinking on the Cultural Conceptualization of 'Cancer' in Korea」 日本学術振興財団二国間交流事業共同研究（東京大学先端科学技術研究センター・赤座英之研究室、Yonsei University, College of Medicine, Prof. Jae Kyung ROH）「がんをめぐる日韓学際研究の検討」 Yonsei University, Seoul, Korea 2014年2月21日。（英語）
 - 真鍋祐子 「魂の脱植民地化」理論から読む発達障害者の社会化」上智大学公開講座（コミュニティカレッジ）『死ぬ意味と生きる意味』上智大学 2013年6月12日.
 - 真鍋祐子 「韓国現代史と「記念日」の創造」東京大学東洋文化研究所・京都大学人文科学研究所・成均館大学校合同シンポジウム「東アジアの〈記憶〉」東京大学東洋文化研究所 2013年1月25日.
 - 真鍋祐子主催 「国際シンポジウム「コリアン・ディアスポラの記憶を手繰る—『犠牲の状況』を超えて」」 主催：東京大学東北アジア研究会、後援：東京大学東洋文化研究所・ASNET、協力：多摩美術大学美術館 東京大学 2012年3月3日.
 - 真鍋祐子 「パネルディスカッション がんと文化」第7回アジアがんフォーラム「アジアでがんを生き延びる—アジアのくらしと文化とがん」東京大学 2010年11月3日.
-

新聞記事

- 真鍋祐子 「“東洋主義”在日本台頭」『環球時報』2015年5月23日、7。（韓国語）
 - 真鍋祐子、木宮正史、太田修 「”韓日100年 大企劃 韓日 새로운 100年을 爲해—日韓國専門家 3人 座談”」『서울新聞』2010年8月18日。（韓国語）
-

VIII. 当該6年間の活動報告

研究活動として、2010～15年に単著3、共編著1を公刊した。『増補 光州事件で読む現代韓国』（平凡社、2010年）は2000年刊行の原著にメディア分析、表象文化論の観点から増補論文2篇を加えたもので、『烈士の誕生—韓国民衆運動における「恨」の力学』（民俗苑、2015年）は1997年に刊行された原著（平河出版社）の韓国語訳である。両者とも原著の刊行から10年以上を経ての増補版、韓国語版だが、それは李明博政権以降の韓国情勢に照らし、その資料的・学術的な価値が再評価された結果といえよう。『自閉症者の魂の軌跡—東アジアの「余白」を生きる』（青灯社、2014年）は「自閉症の現象学」を分析の切り口とし、研究者自身の人生とともにその学問をも解体することでアジア全体の「魂の脱植民地化」を模

索する独創性が評価され、新聞・雑誌・学会誌等に書評が寄せられている。2012年には『世界宗教百科事典』（丸善出版）編集委員として「韓国の宗教」を担当し、当該の研究者たちを統括した。また学術論文5、書評4を発表し、日本と韓国の新聞紙面にてインタビュー、座談会に応じ、また中国の新聞に記事を寄せた。

加えて、2012年に国際シンポジウム「コリアン・ディアスポラの記憶を手繰る—『犠牲の状況』を超えて」を主宰した他、4つの国際シンポジウムに登壇した（日本語2、英語2）。また招聘を受けての講演や講義を上智大学、慶応義塾大学、西南学院大学等で実施した（計5回）。

なお競争的資金として、2012～15年度に科学研究費補助金（基盤研究C、「ポストコロニアル状況における『在日』の知の現在—その『独自の普遍』を問う」）を獲得している。

平勢隆郎 HIRASE, Takao

所属部門 東アジア部門（第一）

研究テーマ 中国古代領域国家の形成



I. 略歴

【学歴】

1979年 東京大学文学部第二類(史学)卒業

1981年 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専門課程修士課程修了

【職歴】

1992年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1999年 東京大学東洋文化研究所 教授

2000年 大学院情報学環 教授・東京大学東洋文化研究所 教授

2003年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

II. 取り組んでいるテーマ

中国史上の大変革期である春秋戦国時代の歴史的性格は何かを一貫して追求してきている。この時代は、史料批判が他の時代に比較してより特殊な位置づけをもつので、考古史料の活用が不可欠となる。

III. 班研究

- ・ 中国出土文字史料とその歴史的背景

IV. 外部資金による研究

- ・ 人間文化研究機構 「日本関連在外資料調査研究事業近代日本文化財保護政策関係在外資料の調査と研究」(2010～2015年度)

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 九州史学会
- ・ 史学会
- ・ 社会文化学会
- ・ 中国出土資料学会
- ・ 東方学会
- ・ 東洋史研究会

- ・ 日本甲骨学会
- ・ 日本中国考古学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 人文社会系研究科（通年・月曜2限）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程	2	1	1
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- ・ 平勢隆郎 『從城市國家到中華』 桂林・廣西師範大學出版社(2005 講談社版翻譯)、2014. 1. (中国語)
- ・ 平勢隆郎 『「八紘」とは何か』 東京大學東洋文化研究所・汲古書院、2012. 3.

編著

- ・ 濱下武志・平勢隆郎 編 『中国の歴史』 有斐閣、2015. 3.
- ・ 田良島哲・平勢隆郎・三輪紫都香 編 『東京国立博物館所蔵竹島卓一旧蔵「中国史跡写真」目録』 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター（センター叢刊18）、2015. 2.
- ・ 平勢隆郎・塩沢裕仁 編 『関野貞大陸調査と現在Ⅱ』 東京大学東洋文化研究所、2014. 9.
- ・ 平勢隆郎・塩沢裕仁、関紀子、野久保雅嗣 編 『東方文化学院旧蔵建築写真目録』 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター（センター叢刊17）、2014. 2.
- ・ 平勢隆郎 監修 『あらすじとイラストでわかる秦の始皇帝(2013年版文庫化)』 宝島社・宝島文庫、2014. 1.
- ・ 平勢隆郎 監修 『あらすじとイラストでわかる秦の始皇帝』 宝島社・別冊宝島、2013. 7.
- ・ 平勢隆郎・塩沢裕仁 編 『関野貞大陸調査と現在』 東京大学東洋文化研究所、2012. 8.

學術論文

- 平勢隆郎 「今本《竹書紀年》之特點」 『竹書紀年研究(1980-2000)』 廣西師範大學出版社、2015.6、152-191. (中国語)
 - 平勢隆郎 「清華簡『繫年』に關する若干の話題」 『出土文獻と秦楚文化』 (2015.3)、25-44.
 - 平勢隆郎 「里耶秦簡中の曆日について」 『中國出土資料研究』 第19号 (2015.3).
 - 平勢隆郎 「論《漢書》的形式與編纂者班固」 『紀念方詩銘先生學術論文集・史林揮塵』 上海古籍出版社、2015.1、168-175. (中国語)
 - 平勢隆郎 「関野貞の龜趺研究に關する補遺」 『川勝守・賢亮博士古稀記念東方学論集』 汲古書院、2013.10、3-31.
 - 平勢隆郎 「戰國楚王之自稱」 『羅運環主編、楚簡楚文化與先秦歷史文化國際學術研討會論文集』 湖北教育出版社、2013.8、529-541. (中国語)
 - 平勢隆郎 「既老且新的四神問題」 『第四回世界儒學大會論文集』 文化藝術出版社、2012.8、435-439. (中国語)
 - 平勢隆郎 「周初年代諸説」 『李紀祥主編、史記學與世界漢學論集』 唐山出版社、2011.5、235-265. (中国語)
 - 平勢隆郎 「骨が語る「中国史」」 『Olive——骨退社と生活習慣病の連関3 (コラム)』 (2010.8)、50-51.
-

口頭発表

- 平勢隆郎 「關野貞調査與道教的關聯」 東亞文化交流史中的文學與圖像 2015年12月.
 - 平勢隆郎 「對於東京大學建築學專攻藏碑林照片」 藝術、考古與歷史：中國古代圖像文化研究的新取向 中國西安 2014年11月. (中国語)
 - 平勢隆郎 「東アジアにおける二つの「八紘」とその外交——兼ねて龜趺の制度を再論する」 “古代中國與東亞世界”國際學術研討會 2013年7月. (中国語)
 - 平勢隆郎 「四神的確立與龜趺碑的出現」 第四屆世界儒學大會、中國文化部・山東省人民政府・中國孔子研究院他 2011年9月. (中国語)
 - 平勢隆郎 「有些新而却有根據史料的東亞册封體制論」 第二屆世界漢學中的《史記》學國際學術研討會 2011年5月. (中国語)
-

一般向け記事

- 平勢隆郎 「日向康三郎『北京・山本照像館：西太后写真と日本人写真師』序文」 『上記』 雄山閣 (2015.10)、1-3.
-

- 平勢隆郎 「王様と暦」 『中国出土資料学会編、地下からの贈り物——新出土資料が語る いにいへの中国』 東方書店 (2014. 6)、36-43.
- 平勢隆郎 「関野貞大陸調査と古写真」 『明日の東洋学』 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター (2013. 10)、5-7.
- 平勢隆郎 「春秋戦国時代——「原中国」の時代」 『NHK スペシャル・中国文明の謎』 NHK 出版 (2012. 10)、84-89.

新聞記事

- 趙朝軍他 「中日携手，抢救龍門石窟百年老照片」 『洛陽晚報』 2011 年 4 月 6 日、
www.nj1937.org. (中国語)

事典等項目

- 平勢隆郎 「中国古代の項目について編集協力」 『岩波世界人名大辞典』 岩波書店、
(2013. 12)、0(非明示).
- 平勢隆郎 「侯馬盟書」 『中国文化史大事典』 大修館書店、 (2013. 5)、372.

VIII. 当該 6 年間の活動報告

研究は、大きく二つに分けられる。ひとつは、「中国古代帝国の形成」に関するもの。これには、古文字研究の成果も含まれる。(1) 著書『「八紘」とは何か』(東京大学東洋文化研究所・汲古書院、2012 年) は、国際会議での招待講演等を集め、中国語は日本語になおして出版したもの。関連する論考を加え全体の体裁を整えた。1960 年代以来の先学の問題提起を踏まえ、半世紀たった現在でもなおなおざりにされている論点を再提示している。「封建」の用語問題、「五服」は実際どう書いてあるか、「八紘」の「『旧唐書』までとその後」の相違、『左伝』の先行説話と私塾、暦の研究はどこで判断するかなど。(2) 著書『從城市国家到中華』は、2005 年に出版された『都市国家から中華へ』の中国語訳。中国で出版されてベストセラーとなった(朝日新聞社『AERA』2014. 6. 23)。以上、客観的評価をいただいているが、専門研究者の口は重いようだ。

研究のもう一つは、わが研究所所蔵写真資料の整理に関するもの。わが所には、戦前の東方文化学院(東京研究所)の調査資料が多数保管されている。関野貞・竹島卓一の調査写真を目録として出版し、簡単な解説をつけた。平勢他編『東方文化学院旧蔵建築写真目録』(東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 17、2014 年)、田良島哲・平勢他編『東京国立博物館所蔵竹島卓一旧蔵「中国史跡写真」目録』(同センター叢刊 18、2015 年)を出版。関連して、塩沢裕仁との共編『関野貞大陸調査と現在』(東京大学東洋文化研究所、2012 年)、同『関野貞大陸調査と現在Ⅱ』(東京大学東洋文化研究所、2014 年)を出版。これらに

は、東京大空襲により焼失し出版にいたらなかった関野・竹島共著の調査写真も含まれる。以上、先学のかくれた遺産の発掘は、一般の関心と呼ぶにいたった。専門研究者の利用は、今後の広がりが期待される。

小寺敦 KOTERA, Atsushi

所属部門 東アジア部門（第一）

研究領域 中国古代家族史



I. 略歴

【学歴】

1996年 東京大学文学部第二類(史学)卒業

1998年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修士課程修了

2000年～2002年 遼寧大学歴史系高級進修生

2003年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程修了

2003年 博士（文学）（東京大学）

【職歴】

2003年～2006年 日本学術振興会特別研究員(PD)

2004～2005年 北京大学考古文博学院訪問学者

2006～2007年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2007年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

2006年10月 海外研修(復旦大学文物与博物館学系訪問学者)

2011年9月 海外研修(復旦大学文史研究院訪問学者)

2014年6月 海外研修(北京大学歴史学系訪問学者)

II. 取り組んでいるテーマ

中心テーマは先秦時代の家族。中でも所謂「周代宗法制」の成立と展開について興味を持っている。従来はその研究を進める上での基礎的作業として、関係する伝世文献の史料的性格に関する検討を主に行ってきた。最近では、新出土資料である郭店楚簡などについても、上記基礎的作業と関連づけながら研究を進めている。

III. 班研究

- ・ 中国古代文献の成立に関する多角的な研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究(C)「伝世・出土文献所見の系譜関係資料による先秦家族史の再構築」(2014～2016年度)

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 中国出土資料学会(理事)
- ・ 史学会
- ・ 東方学会
- ・ 東洋史研究会
- ・ 日本秦漢史学会
- ・ 歴史学研究会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 「中国古代史料研究」（大学院人文社会系研究科、アジア文化研究専攻）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	1		
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 法政大学(2009～2014年度)

VII. 当該6年間の研究業績

学術論文

- ・ 小寺敦 「清華簡『繫年』第十五章の「少◆（孔+皿）」について 『出土文獻と秦楚文化』 第9号 日本女子大学文学部谷中研究室 (2016.3)、17-31.
- ・ 小寺敦 「復旦大學出土文獻與古文字研究中心の學術活動について」 『出土文獻と秦楚文化』 第9号 日本女子大学文学部谷中研究室 (2016.3)、51-55.
- ・ 小寺敦 「科研調査團北京大學出土文獻研究所訪問記」 『出土文獻と秦楚文化』 第8号 日本女子大学文学部谷中研究室 (2015.3)、127-129.
- ・ 小寺敦 「清華簡『繫年』譯注（第一～四章）」 『出土文獻と秦楚文化』 第8号 日本女子大学文学部谷中研究室 (2015.3)、139-182.
- ・ 小寺敦 「『左傳』における「後」について」 『東京大學東洋文化研究所紀要』 第167号 (2015.3)、1-62.
- ・ 小寺敦 「「家族」のあり方」 中国出土資料学会 編 『地下からの贈り物—新出土資料が語るいにしへの中国—』 東方書店、2014.6、44-51.

-
- 名和敏光 小寺敦 宮本徹 「清華簡『傳説之命』譯注」 『出土文獻と秦楚文化』 第7号 日本女子大学文学部谷中研究室 (2014.3)、73-98.
 - 小寺敦 「地域・文化概念としての楚の成立—清華簡を手掛かりとして—」 『中國新出土資料學の展開』 汲古書院 (2013.8)、97-109.
 - 小寺敦 「地域、文化概念”楚”的成立——以清華簡作爲綫索」 『國際東方學者會議紀要』 第57号 (2013.1)、137-138.
 - 小寺敦 「本学会機関誌『中国出土資料研究』の文字コードについて」 『中國出土資料學會會報』 第51号 (2012.12)、2-3.
 - 小寺敦 「先秦時代系譜編纂の成立過程とその意義」 『歴史学研究』 第898号 (2012.10)、34-43.
 - 小寺敦 「清華簡『楚居』譯注」 『出土文獻と秦楚文化』 第6号 日本女子大学文学部谷中研究室 (2012.4)、126-153.
 - 小寺敦 「上博楚簡《鄭子家喪》の史料性格：結合小倉芳彦之學說」 『出土文獻』 第2号 (2011.10)、203-214.
 - 小寺敦 「東京大学東洋文化研究所の漢籍について」 東京大学東洋文化研究所図書室 編 『はじめての漢籍』 汲古書院、2011.5、181-200.
 - 小寺敦 「シンポジウム紹介「東アジア出土資料に関する今日的課題」」 『中國出土資料學會會報』 第46号 (2011.3)、4-5.
 - 小寺敦 「上海博楚簡『鄭子家喪』の史料的性格—小倉芳彦の學說と関連づけて—」 谷中信一 編 『出土資料と漢字文化圏』 汲古書院、2011.3、17-43.
 - 小寺敦 「「骨董市場竹簡」をめぐる諸問題」 『明日の東洋学』 第25号 東京大学東洋文化研究所 (2011.3)、2-4.
 - 小寺敦 「先秦時代「讓」考—君位継承理念の形成過程」 『歴史学研究』 第871号 青木書店 (2010.10)、1-16.
 - 小寺敦 「京都北白川陵墓調査見学報告」 『歴史学研究月報』 第604号 (2010.4)、2-3.
-

書評論文・書誌紹介

- 小寺敦 「書評：小林伸二 春秋時代の軍事と外交」 『歴史評論』 第796号 (2016.8)、93-97.
 - 小寺敦 「書評：陳偉・武漢大学簡帛研究中心・湖北省博物館・湖北省文物考古研究所 秦簡牘合集」 『中國出土資料學會會報』 第60号 (2015.12)、3-3.
 - 小寺敦 「書評：李學勤・清華大學出土文獻研究與保護中心 清華大學藏戰國竹簡（伍）」 『中國出土資料學會會報』 第61号 (2015.12)、3-3.
-

-
- 小寺敦 「書評：北京大學出土文獻研究所 北京大學藏西漢竹書（壹）（參）（伍）」 『中國出土資料學會會報』 第 61 号（2015.12）、3-3.
 - 小寺敦 「書評：復旦大學出土文獻與古文字研究中心 出土文獻與古文字研究 6」 『中國出土資料學會會報』 第 59 号（2015.7）、3-3.
 - 小寺敦 「書評：吉林大學古籍研究所 吉林大學古籍研究所建所 30 周年紀念論文集」 『中國出土資料學會會報』 第 59 号（2015.7）、3-3.
 - 小寺敦 「書評：西信康 郭店楚簡『五行』と伝世文獻」 『中國出土資料學會會報』 第 57 号（2014.12）、13-14.
 - 小寺敦 「書評：大野裕司 戦国秦漢出土術数文献の基礎的研究」 『中國出土資料學會會報』 第 57 号（2014.12）、13-14.
 - 小寺敦 「書評：陳偉 楚簡册概論」 『中國出土資料學會會報』 第 53 号（2013.7）、2-2.
 - 小寺敦 「書評：李天虹 楚國銅器與竹簡文字研究」 『中國出土資料學會會報』 第 53 号（2013.7）、2-2.
 - 小寺敦 「書評：鈴木直美 中国古代家族史研究—秦律・漢律にみる家族形態と家族観—」 『歴史学研究』 第 907 号（2013.7）、50-52.
 - 小寺敦 「書評：王中江 簡帛文明与古代思想世界」 『中國出土資料學會會報』 第 47 号（2012.7）、7-7.
 - 小寺敦 「書評：陳偉 里耶秦簡（壹）・里耶秦簡牘校积（第一卷）」 『中國出土資料學會會報』 第 47 号（2012.7）、10-10.
 - 小寺敦 「書評：丸山雄 中国史としての王権物語」 『史学雑誌』 120-12（2011.12）、91-92.
 - 小寺敦 「書評：陳偉 新出楚簡研讀」 『中國出土資料學會會報』 第 44 号（2010.7）、5-5.
-

口頭発表

- 小寺敦 「先秦時代の交換婚：與貨幣史的展開相對照」 中國古代泉幣與經貿國際學術研討會暨中國語言文化研習所成立三周年慶典 香港 2015 年 7 月 13 日、153-160.
- 小寺敦 「清華簡《繫年》所見戰國時代的「楚」認識」 第十屆通俗文學與雅正文學「語言與文學」國際學術研討會 台灣台中 2014 年 10 月 24 日、13-23.
- 小寺敦 「先秦時代系譜編纂の成立過程とその意義」 歴史学研究会大会古代史部会 東京都府中市、東京外国語大学 2012 年 5 月 27 日.
- 小寺敦 「地域・文化概念としての楚の成立—清華簡を手掛かりとして—」 國際東方學者會議 東京、日本教育會館 2012 年 5 月 25 日.
- 小寺敦 「清華簡『楚居』にみえる楚王居の移動について—楚国領域観の成立に関する試論—」 第一回 東京大学東洋文化研究所、復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア

学部・研究所共催国際学術会議 東京、東京大学理学部 1 号館 2 階小柴ホール 2011 年 12 月 20 日.

- 小寺敦 「詩の成立と傳播-『詩』使用の場の視点から-」 「漢文化溯源-從文字到書籍-」 國際學術研討會 中国鄭州 2010 年 9 月 11 日、13-23.

●

VIII. 当該 6 年間の活動報告

評価期間中、中心課題である「先秦時代の系譜関係資料の成立に関する研究」以外に、学会報告として「地域・文化概念としての楚の成立-清華簡を手掛かりとして-」（国際東方学者会議報告、日本教育会館、東京、2012 年 5 月 25 日）、「清華簡《繫年》所見戦国時代的「楚」認識」（第十届通俗文学与雅正文学「語言与文学」国際学術研討会、国立中興大学、台湾台中市、2014 年 10 月 24 日）、「先秦時代的交換婚：与貨幣史的展開相對照」（中国古代泉幣与經貿国際学術研討会暨中国語言文化研習所成立三周年慶典、恒生管理学院、香港、2015 年 7 月 13 日）を行い、講演として「周代家族制度」「清華簡《説命》」（北京大学歴史学系報告会、北京大学人文学院五号楼歴史学系 B113、2014 年 6 月 25 日）などを行い、東文研班研究「中国古代文献の成立に関する多角的な研究」を組織し、それによる東文研セミナーを年 6 回のペースで開催した。競争的資金としては、2010 年度科学研究費補助金（若手研究（B））「周代宗法制」の成立に関する研究、2014～16 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））「伝世・出土文献所見の系譜関係資料による先秦家族史の再構築」を研究代表者として獲得した。教育においては、大学院人文社会系研究科アジア史専攻の授業を担当し、修士課程修了者 1 名、また本研究所では訪問研究員受入 1 名の実績があった。組織運営においては、2012 年度に図書委員長を担当した。社会貢献として、2013 年 2 月から 2014 年 2 月、2015 年 4 月から 2016 年 1 月まで東京大学東洋文化研究所職員組合書記長をつとめた。2011 年度かわさき市民講座「中国史」（川崎市）において講座を 4 回担当し、2015 年 6 月以降、史学会編集委員であり、2010 年 4 月を経て 2011 年 5 月まで歴史学研究会委員であり、また評価期間中一貫して中国出土資料学会理事の任にあった。

東アジア部門（第二）

中島隆博 NAKAJIMA, Takahiro

所属部門 東アジア部門（第二）

研究テーマ 東アジアの比較哲学

個人ホームページ : <http://cpag.ioc.u-tokyo.ac.jp/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1987年 東京大学法学部第三類(政治コース)卒業

1989年 東京大学大学院人文科学研究科中国哲学専攻修士課程修了（文学修士）

1991年 東京大学大学院人文科学研究科中国哲学専攻博士課程 単位取得退学

2009年 博士（学術）（東京大学）

【職歴】

1991年 東京大学文学部 助手

1996年 立命館大学文学部 専任講師

1997年 立命館大学文学部 助教授

2000年 東京大学大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻・表象文化論 准教授

2002年4月～5月 パリ第7大学 客員教授

2004年8月～2005年8月 ハーヴァード大学イエンチン研究所 客員研究員

2009年3月 パリ第8大学 客員教授

2009年9月～12月 ニューヨーク大学 客員教授

2012年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2013年4月～7月 エアランゲン大学 IKGf 客員研究員

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

1993年 第一回中村元賞

2013年 第二十五回和辻哲郎文化賞

II. 取り組んでいるテーマ

東アジア哲学を問－東アジアさらには西洋哲学との比較において考える。

Ⅲ. 班研究

- ・ 中国学における概念マップの再構築

Ⅳ. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (A)「グローバル化時代における現代思想-概念マップの再構築」(2012～2014 年度)

Ⅴ. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本中国学会
- ・ 東方学会
- ・ 中国社会文化学会
- ・ 表象文化論学会
- ・ 国際日本文化研究センター (共同研究員) (2013, 2014 年度)

Ⅵ. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 総合文化研究科超域文化科学専攻表象文化論コース
- ・ 教養学部超域文化科学専攻現代思想コース
- ・ 人文社会系研究科中国思想文化学専攻
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	2	1	1
博士課程	2	2	2
博士号取得者数	1		2

2. 本学以外での教育活動

- ・ 東海大学
- ・ 立教大学
- ・ 東京女子大学
- ・ 専修大学
- ・ 慶應義塾大学

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- 中島隆博 『悪の哲学——中国哲学の想像力』 筑摩書房、2012. 5.
 - Nakajima, Takahiro. *Practicing Philosophy between China and Japan*. Tokyo: UTCP, 2011.11.
 - 中島隆博 『共生のプラクシス——国家と宗教』 東京大学出版会、2011. 10.
 - アンヌ・チャン 『中国思想史』 中島隆博 and 廣瀬玲子 訳 知泉書館、2010. 6.
-

編著

- 中島隆博 編 『コスモロギア——天・化・時』 法政大学出版局、2015. 9.
 - 中島隆博・馬場智一 編 『グローバル化時代における現代思想 香港会議』 C P A Gブックレット VOL.1 C P A G、2014. 1.
-

学術論文

- 中島隆博 「近代東アジアにおける西洋哲学の需要と展開」 『『比較思想研究』』 第42号 (2016. 3)、5-13.
 - 中島隆博 「「東アジア近代哲学における条件付けられた普遍性と世界史」」 『羽田正編 『グローバルヒストリーと東アジア史』』 東京大学出版会、2016. 3、71-79.
 - 中島隆博 「《近代东亚哲学话语所构建的普遍性与世界历史》」 『复旦大学文史研究院編 《全球史、区域史与国别史—复旦、东大、普林斯顿三校合作会议论文集》』 中華書局、2016. 1、71-79. (中国語)
 - 中島隆博 「日本の宗教的思考における神秘——鈴木大拙と井筒俊彦をめぐって」、末木文美士編『比較思想から見た日本仏教』 『比較思想から見た日本仏教』 山喜房佛書林、2015. 12、364-377.
 - 中島隆博 「「統」への欲望を断ち切るために—中国史の読み方・書き方—」 『中国の歴史——東アジアの周縁から考える』 有斐閣、2015. 3、306-327.
 - 中島隆博 「近代東亞哲學話語中被附加了條件的普遍性與世界史」 『澳門理工學報』 第17卷 第3号 澳門理工學院 (2014. 7). (中国語)
 - 中島隆博 「儒教と民主主義——トーマス・フレイリッヒとハイナー・レッツ論文をめぐって」 『中国——社会と文化』 第29号 中国社会文化学会 (2014. 7).
 - 中島隆博 「靈魂的存在與國家的道德——中江兆民、井上圓了、南方熊楠」 『UTCP-Uehiro Booklet』 第4号 (2014. 5). (中国語)
-

- 中島隆博 「『莊子』の身心変容技法」 『身心変容技法研究』 第3号 科学研究補助金基盤研究 (A) 「身心変容技法の比較宗教学—心と体とモノをつなぐワザの総合的研究」 (2014.3).
- 中島隆博 「儒教、近代、市民的スピリチュアリティ」 『現代思想』 第42巻 (2014.3).
- 中島隆博 「教養としての中国——規範の鑑と蔑視の対象の間で」 『内と外——対外観と自己像の形成』 岩波書店、2014.3、123-150.
- 中島隆博 「科学と宗教——中国と日本における近代哲学の葛藤」 『知は東から——西洋近代哲学とアジア』 明治書院、2013.5、189-214.
- 中島隆博 「現代中国における儒学復興の意義」 『學校』 史跡足利学校「研究紀要」 (2013.3).
- 中島隆博 「中国における「哲学の起源」——抑圧された胡適の老子起源説」 『a t プラス』 第15号 (2012.8).
- 中島隆博 「中国における他者——他者への二重の態度」 宮本久雄 武田なほみ 編 『あなたの隣人はだれか 現代における共生の行方』 日本キリスト教団出版局、2012.3、281-302.
- 中島隆博 「中国の論理——内と外の連結(特集：東洋の論理)」 藤田正勝 編 『日本の哲学』 昭和堂、2011.12、25-38.
- 中島隆博 「啓蒙と中国——胡適の新宗教について」 堀池信夫 編 『知のユーラシア』 明治書院、2011.7、112-130.
- 中島隆博 「中国の大学」 「大学の智と共育」研究会 監修 宮本久雄 山岡三治 山内宏太郎 村上陽一郎 渡辺文夫 編 『大学の智と共育—カトリック大学の未来を探る』 教友社、2011.4、88-106.
- Nakajima, Takahiro. "Critique and Morality: Claude Lévi-Strauss and Katsumi Umemoto,." *Whither Japanese Philosophy? III*. Edited by Takahiro Nakajima, *UTCP Booklet 19*. Tokyo: UTCP, 2011.3 : 9-23.
- Nakajima, Takahiro. "Enlightenment and Autobiography in Japanese Modernity,." *Rethinking Enlightenment in Global and Historical Contexts*. Edited by Takahiro Nakajima, Xudong Zhang and Hui Jiang, *UTCP Booklet 21*. Tokyo: UTCP, 2011.3 : 29-43.
- Nakajima, Takahiro. "Does the Word Exhaust Meaning?" *Diogenes*: CIPSH, no. 57 2010.8: 66-76.

書評論文・書誌紹介

- 中島隆博 「希望を耕す——地域という思想」 『UP』 第516号 (2015.10).
- 中島隆博 「石生——文学空間を生み出す石」 『UP』 第510号 (2015.4).
- 中島隆博 「「クルワ」を出す——東アジアに開かれた日本思想史」 『UP』 第504号 (2014.10).

-
- 中島隆博 「墮落か定着か——日本仏教と世俗秩序」 『UP』 第 498 号 (2014. 4).
 - 中島隆博 「近代的であること、宗教的であること——ロバート・N・ベラー追悼」 『UP』 第 492 号 (2013. 10).
 - 中島隆博 「哲学的な挑戦への呼びかけ——中国イスラーム哲学」 『UP』 第 486 号 (2013. 4).
 - 中島隆博 「中国認識と資本主義」 『UP』 第 479 号 (2012. 9).
 - 中島隆博 「倫理的なモダニティーは終わらず ロバート・N・ベラー健在」 『UP』 第 473 号 (2012. 3).
 - 中島隆博 「書評(84)現代中国政治思想史の誕生—王前『中国が読んだ現代思想—サルトルからデリダ、シュミット、ロールズまで』」 『UP』 第 40 卷 第 9 号 東京大学出版会 (2011. 9), 37-44. [\[Link\]](#)
 - 中島隆博 「書評(80)感情と規範性—クリスティーン・コースガード『義務とアイデンティティの倫理学—規範性の源泉』 ジル・ドゥルーズ『経験論と主体性—ヒュームにおける人間的な自然についての試論』」 『UP』 第 40 卷 第 3 号 東京大学出版会 (2011. 3), 57-63. [\[Link\]](#)
 - 中島隆博 「書評(74)自然と和解するモラル[渡辺公三『闘うレヴィ=ストロース』, 梅本克己『梅本克己著作集』(全一〇巻)]」 『UP』 第 39 卷 第 9 号 東京大学出版会 (2010. 9), 38-44. [\[Link\]](#)
-

VIII. 当該 6 年間の活動報告

研究に関しては、次の 3 つの柱を中心に行った。

(1) 中国における儒教復興とその哲学的意義

近年中国では儒教復興現象が見られ、それは宋代の儒教復興に次ぐ、第三の儒教と呼ばれている。これを、台湾や香港の新儒家の経験、さらには日本の近代儒教の経験と照らし合わせて、重層的な哲学的意義を明らかにした。この成果である『共生のプラクシス——国家と宗教』は 2013 年に第 25 回和辻哲郎文化賞を受賞した。

(2) 東西哲学対話

UTCP (共生のための国際哲学研究センター)、基盤研究 A 「グローバル化時代における現代思想—概念マップの再構築」 (CPAG、2012~2014 年度) の助成を得て、東西哲学対話を実践した。その成果は、『悪の哲学——中国哲学の想像力』や CPAG ブックレットその他に示した。

(3) 東アジアにおける普遍論争

中国的普遍がここ数年中国において重要な問いとなっており、それを紹介するとともに、中国・韓国の研究者とともに議論を共有している。これは班研究「中国学における概念マップの再構築」でも検討し、その成果の一部を、中島隆博編『コスモロギア——天・化・時』に示した。

この間、単著 3 冊、編共著 5 冊、共著 15 冊、論文 8 本を公表している。講演等は多数につき省略。

教育に関しては、大学院では総合文化研究科表象文化論と人文社会系研究科中国思想文化と、学部後期では表象文化論と現代思想を担当し、2012 年度夏学期までは学部前期中国語を担当した。学位論文審査では、主査として 4 人、副査として 6 人を担当した。国際的な教育連携としては、ハワイ大学や北京大学と夏期・冬期の共同授業を毎年行い、プリンストン大学では 2015 年度冬学期に講義を行った。

組織運営では、本部では総長補佐や主に国際本部・学務関係の委員を務め、所内では財務委員、インフラ委員、図書委員を務めた。

社会貢献では、社会人プログラム EMP の委員として、2008 年の設立時から携わっている。

大木康 OKI, Yasushi

所属部門 東アジア部門（第二）

研究テーマ 中国明清時代の文学



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1981年 東京大学文学部第三類(語学文学)卒業

1983年 東京大学大学院人文科学研究科中国語中国文学専門課程修士課程修了

1984年～1985年 復旦大学(中国・上海)留学

1986年 東京大学大学院人文科学研究科中国語中国文学専門課程博士課程単位取得退学

1998年 博士(文学)(東京大学)

【職歴】

1986年 東洋文化研究所 助手

1988年 広島大学文学部 講師

1989年 広島大学文学部 助教授

1991年 東京大学文学部 助教授

1995年 東京大学大学院人文社会系研究科 助教授

1999年～2000年 Harvard-Yenching Institute Visiting Scholar

2001年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2003年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2006年～2007年 台湾国立中央大学中文系客員 教授

2009年～2011年 東京大学東洋文化研究所 副所長

2011年～2012年 香港嶺南大学中文系客員 教授

2012年～2014年 東京大学東洋文化研究 所長

【受賞歴】

2000年 「東方学会賞」(東方学会)

(受賞対象:「黄牡丹詩会——明末清初江南文人点描——」、『東方学』第99輯 2000年)

II. 取り組んでいるテーマ

・中国明末江南の文人と文学 今からおよそ400年前、明代末期の中国江南地方、そこには優雅な文化の花が咲き誇った。通俗文学の旗手とされる馮(ふう)夢龍(ぼうれい) (1574～1646年)、過ぎ去った時代の美しき思い出に生きる冒(ぼう)襄(じょう) (1611～1693年)の二人を手がかりに、この時代の社会と文化をさぐる。

・馮夢龍の文学 1992年に中国で出版された『馮夢龍全集』は、全部で43冊。馮夢龍には、経書、史書から通俗歌謡、通俗小説にまで及ぶ数多くの著作がある。これを研究し尽くすのが生涯の仕事。これまでは、江戸時代の上田秋成『雨月物語』などにも影響を与えた短篇白話小説集「三言」、そして蘇州の民間歌謡を当時の方言のまま収録した『山歌』が中心。

・明末江南の出版文化 現在だれもが読んでいる『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』などのテキストは、明代末期に成立し刊行されたものである。こうした通俗小説が爆発的に流行したのはなぜか？ それに対する答えの一つとして、当時の出版文化一般の隆盛を考えた。中国で書物の印刷がはじまるのは唐宋のことだが、印刷された書物が広く流通し、書物を通じた知識の普及が本格的にはじまったのは、明末のことであった。これについては最新刊の『中国明末のメディア革命』（刀水書房 2009年）もある。

・明末の青楼文化 明末の南京秦淮の色街（青楼）には、数多くの名妓が登場した。彼女たちは、歌舞音曲はもとより、書画や詩作にも通じた当代一流の文化人であった。明末という時代は、名妓と文人たちとの交際が、文壇の佳話としてとりざたされた時代であった。『中国遊里空間 明清秦淮妓女の世界』では、明末江南文化を理解するための重要項目である青楼世界の再現を試みた。

・冒襄と『影梅庵憶語』 冒襄の『影梅庵憶語』は、もと南京秦淮の妓女であり、後に冒襄の側室となった董小宛が若くして亡くなった後、その思い出を克明に綴った回想録である。明末青楼研究の資料としてこの作品を手にとったのだが、一読、その行文の美しさ哀しさに心を奪われた。冒襄には、生涯の間に師友たちとの間でやりとりした詩文を集めた『同人集』という珍しい文集もあり、これによって、名園とされた水絵園などを舞台に行われた優雅な交遊のさまがうかがわれる。『冒襄と『影梅庵憶語』の研究』は、東洋文化研究所紀要別冊として2010年に刊行された。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (C) 「中国近世の歌唱をめぐる社会文化史的研究」 (2013～2015年度)
- ・ 基盤研究 (C) 「明清の王朝交替と杜詩学」 (2010～2012年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 中国社会文化学会 (理事長)
- ・ 日本中国学会 (評議員)
- ・ 東方学会 (学術委員)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 中国語学中国文学特殊講義（文学部）
- ・ 中国語中国文学特殊研究（大学院人文社会系研究科）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	1		1
博士課程	6	5	5
博士号取得者数	1	2	

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- ・ 大木康 『明清文人的小品世界』 王言 訳 復旦大学出版社、2015. 9.（中国語）
- ・ 大木康 『中国人はつらいよ その悲惨と悦楽』 PHP 新書、2015. 2.
- ・ 大木康 『明末江南の出版文化』 周保雄 訳 上海古籍出版社、2014. 11.（中国語）
- ・ 大木康 『冒襄和影梅庵憶語』 里仁書局、2013. 12.（中国語）
- ・ 大木康 『중국명말의 미디어혁명 -서민이 책을 읽다- (中国明末のメディア革命 -庶民が本を読む-)] 高仁徳 訳 延世大学校 大学出版文化院、2013. 5.（韓国語）
- ・ OKI, Yasushi and Paolo Santangelo. *Shan'ge, the 'Mountain Songs'*. Leiden, Boston: Brill, 2011.4.
- ・ 大木康 『現代語訳 史記』 ちくま新書 筑摩書房、2011. 2.
- ・ 大木康 『史記と漢書』 書物誕生 天地人、2010. 6.（韓国語）

編著

- ・ 大木康 監修 『東京大学東洋文化研究所蔵 程乙本紅樓夢（上）（下）・嬌紅記』 汲古書院、2014. 11.
- ・ 大木康 監修 『東京大学東洋文化研究所蔵 程甲本紅樓夢（上）（下）』 汲古書院、2013. 12.

学術論文

- ・ 大木康 「一六、一七世紀 世界の文学」 羽田正 編 『グローバルヒストリーと東アジア史』 東京大学出版会、2016. 3、259-274.

-
- 大木康 「16、17 世紀的世界文学（中国語）」 復旦大学文史研究院 編 『全球史、区域史与国別史—復旦、東大、普林斯頓三校合作會議論文集』 中華書局、2016. 1、80-90.
 - 大木康 「中国における線装本の普及とその背景（韓国語）」 『韓国文化』 第 72 号（2015. 12 ）、3-20.
 - OKI, Yasushi. "Able official or comedian? How was Feng Menglong perceived through the eyes of his contemporaries?" *International Communication of Chinese Culture On Line*, Berlin, Heidelberg: Springer 2015.11: 1-12.
 - 大木康 「漢籍善本紹介 東京大学東洋文化研究所（2）」 『新しい漢字漢文教育』 第 61 号（2015. 11 ）、85-87.
 - 大木康 「元雜劇的東渡與日本能樂關係重探（中国語）」 彭小妍 編 『翻譯與跨文化流動：知識建構、文本與文體的傳播』 中央研究院中國文哲研究所、2015. 10、37-54.
 - 大木康 「漢籍善本紹介 東京大学東洋文化研究所（1）」 『新しい漢字漢文教育』 第 60 号（2015. 5 ）、58-63.
 - 大木康 「明王朝忠烈遺孤侯涵生平考述」 『中国文学研究』 第 25 号（2015. 3 ）、109-125.
 - 大木康 「「夷」の国の学問—漢学と国学」 田中優子 編 『日本人は日本をどうみてきたか江戸から見る自意識の変遷』 笠間書院、2015. 2、13-23.
 - 大木康 「インタビュー 研究人生を決めた“事件” 「国際関係が悪い時こそ」 『U7』 No. 54 学士会（2014. 3 ）、10-19.
 - 大木康 「宋真宗の「勸学文」について」 『大東文化大學漢學會誌』 第 53 号（2014. 3 ）、235-255.
 - 大木康 「關於彭劍南の戯曲《影梅庵》與《香畹樓》」 『融通與新變：世變下的中國知識分子與文化』 華藝學術出版、2013. 10、387-414.（中国語）
 - 王敏 「與明清文學結下不解之緣—專訪大木康教授」 『國學新視野』 2013 年 夏季號 中國文化院（2013. 6 ）、20-29.（中国語）
 - 大木康 「明清时期書籍の流通」 復旦大学文史研究院·中华书局编辑部 編 『牖戶明』 中华书局、2013. 5、1-27.（中国語）
 - 大木康 「明末「悪僧小説」初探」 『中正漢學研究』 2012 年第 2 期（総第 20 期）（2012. 12 ）、183-212.（中国語）
 - 大木康 「彭劍南の戯曲『影梅庵』『香畹樓』とその時代」 『東洋文化研究所紀要』 第 161 冊 東京大学東洋文化研究所（2012. 3 ）、1-85.
 - 大木康 「中国演劇における鍾馗—古典から現代まで—」 『観世』 2011 年 5 月号（2011. 5 ）、28-34.
 - 大木康 「東京大学総合図書館の漢籍について」 東京大学東洋文化研究所図書室 編 『はじめての漢籍』 汲古書院、2011. 5、119-136.
 - 大木康 「漢籍データベース、日本/北京/台北」 『東文研シンポジウム「学術情報の電子化にともなう光と影」の記録』 東京大学東洋文化研究所、2011.、6-11. [\[Link\]](#)
-

- 大木康 「馮夢龍『山歌』と妓女（万葉古代学研究所第3回主宰共同研究報告）」 『万葉古代学研究所年報』 第9号 奈良県万葉文化振興財団万葉古代学研究所（2011.3）、79-86. [\[Link\]](#)
- 大木康 「冒襄における杜詩」 『東洋文化研究所紀要』 第158冊（2010.12）、1-34.
- 大木康 「伊藤漱平先生追悼文集 弔辞」 『伊藤漱平著作集 第五卷 中國近現代文學・日本文學編』 汲古書院、2010.12、237-239. [\[Link\]](#)
- 大木康 鄭炳説 田中優子 「特集座談会 東アジアの遊女・遊廓から西鶴の性愛を考え直す—日本の遊女「ゆうじょ」 中国の妓女「ぎじょ」 朝鮮の妓生「キーセン」（特集 性愛）」 『西鶴と浮世草子研究』 第4号 笠間書院（2010.11）、10-57. [\[Link\]](#)
- 大木康 「伊藤漱平先生を偲んで（追悼 伊藤漱平先生）」 『東方學』 第120号 東方學會（2010.7）、213-217. [\[Link\]](#)
- 大木康 「悼念伊藤漱平老师」 國際漢学研究通訊編輯委員会 編 『国际汉学研究通讯』 中華書局、2010.4、232-237.（中国語） [\[Link\]](#)

書評論文・書誌紹介

- 大木康 「住吉朋彦著『中世日本漢学の基礎研究 韻類編』」 國語と國文學（2013.6）、
undefined.

新聞記事

- 大木康 「清代挙子之旅：从广东到北京 —大木康在复旦大学的讲演」 『文汇报』 2014年6月30日、1-2、文汇报.（中国語）
- 黄晓峰 「大木康谈明清江南文人生活」 『东方早报·上海书评』 2013年2月3日、1-2、东方早报.（中国語）

VIII. 当該6年間の活動報告

研究：

中国明末通俗文藝とその隆盛の背景を研究テーマとする。中国明末には、『三国演義』『水滸伝』などの通俗小説、また戯曲や民間歌謡など通俗文藝作品が盛んに作られ、刊行された。なぜ、この時代に通俗文藝作品が数多くあらわれたのか。この問題を、明末蘇州の文学者である馮夢龍を手がかりに、その物質的背景（出版文化研究など）、精神的背景（馮夢龍の民間歌謡集『山歌』の研究など）の両面から考察している。

2004年に日本で刊行された『明末江南の出版文化』の中国語訳本が、2014年に上海で刊行された。関連する成果は、国内外でしばしば引用され、2010年4月から2016年3月までの6年間に限っても、中国、アメリカ、イタリアで開催された中国出版史関係の学会に、3回招聘

を受けて論文を発表し、2回コメンテーターとして参加した。2011年の *Shan'ge, the 'Mountain Songs'* は、2003年の『馮夢龍『山歌』の研究』のうち、『山歌』訳注部分の英語訳であり (Santangelo 教授と共訳)、すでに3点の書評が出されている。2013年に中国語版が出た『冒襄と『影梅庵憶語』の研究』(参考: 2010年2月に日本語版出版)も、馮夢龍研究から発展した妓女研究として重要である。

科学研究費補助金、基盤(C)(2010年度から2011年度、2012年度から2015年度)を獲得した。

教育:

大学院人文社会系研究科(中国文学)において授業を担当し、大学院生を指導した。この6年間には、修士課程学生6名、博士課程学生8名(いずれも、のべ数)を指導し、主査として審査にあたった3名が博士学位を取得した。

組織運営:

2012年4月から2014年7月まで、東洋文化研究所長をつとめた。

社会貢献:

中国復旦大学文史研究院訪問学者(2014、2015年)、台湾大学台湾文学研究所客員教授(2015年)のほか、復旦大学『中国文学研究』、台湾清華大学『清華中文学報』、台湾中正大学『中正漢学研究』、台湾師範大学『台湾師大歴史学報』、香港浸会大学『人文中国学報』などの学術雑誌の編集委員をつとめている。

板倉聖哲 ITAKURA, Masaaki

所属部門 東アジア部門（第二）

研究テーマ 宋元文人の絵画表象

個人ホームページ：<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/>



I. 略歴

【学歴】

1988年 東京大学文学部第二類(史学)卒業

1991年 東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程修了

1992年 東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻博士課程退学

【職歴】

1992年 東京大学文学部 助手（美術史学研究室）

1995年 台湾大学美術史研究所訪問学者

1996年 財団法人大和文華館学芸部部員

1999年 東京大学東洋文化研究所 助教授（東洋学研究情報センター [造形資料学分野]）

2001年 11月～2002年 3月 台湾・故宫博物院客員研究員

2002年 4月～2002年 9月 コロンビア大学美術史考古学部客員研究員

2004年 東京大学東洋文化研究所 助教授（東アジア美術部門に配置換）

2007年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2009年 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター兼任

2013年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

II. 取り組んでいるテーマ

研究領域は中国を中心にした東アジア絵画史。東アジアの文化圏においてイメージがどのように共有され（「漢画」文化圏）、また、差異化されたかを比較・検討して、イメージの生成・伝播・受容の過程を追究。個別の作品論としては特に南宋時代の画院画家たちの作品を継続して研究。

III. 班研究

- ・ 現存する中国絵画の包括的再検討
- ・ 仏教美術に関する資料収集と比較研究

IV. 外部資金による研究

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 美術史学会書学
- ・ 書道史学会
- ・ 東方学会
- ・ 日本学術会議連携委員（2006～2014 年度）
- ・ 美術史学会委嘱委員（2012 年度）
- ・ 美術史学会常任委員（2013～2014 年度）
- ・ 国際東方会議運営委員（2013～2014 年度）
- ・ 三井記念美術館特別展企画委員（2013～2014 年度）
- ・ 根津美術館理事（2014 年度）
- ・ 國華社國華賞選衝委員（2014 年度）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 文学部美術史学科
- ・ 大学院人文科学研究科
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程		1	1
博士課程		1	1
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 学習院大学文学部哲学科（2001・2003・2005・2007・2009・2011・2014 年度）
- ・ 上智大学文学部史学科（2004～2012 年度）
- ・ 成城大学文学部藝術学科（2006～2014 年度）
- ・ 早稲田大学文学部（2014 年度）

VII. 当該 6 年間の研究業績

著書

-
- ・ 板倉聖哲 『雅 宋代文化の真髄』 瀬津雅陶堂、2014. 10.
 - ・ 板倉聖哲 『NHK スペシャル 故宮 流転の名品を知る・美を見極める』 NHK 出版、2014. 9.
-

-
- 板倉聖哲 『描かれた都—開封・杭州・京都・江戸』 東京大学出版会、2013. 10.
 - 板倉聖哲 『雅 元一禅僧と文人』 瀬津雅陶堂、2012. 10.
 - 板倉聖哲 『週刊朝日百科 38 国宝の美 絵画 12 渡来絵画』 朝日新聞出版、2010. 5.
-

編著

- 板倉聖哲 小川裕充 編 『中国絵画総合図録三編』 3巻ヨーロッパ篇 東京大学出版会、2015. 10.
 - 板倉聖哲 編 『日本美術全集第6巻 東アジアの中の日本美術』 小学館、2015. 3.
 - 板倉聖哲 小川裕充 編 『中国絵画総合図録三編』 2巻アメリカ・カナダ篇 東京大学出版会、2014. 6.
 - 板倉聖哲 小川裕充 編 『中国絵画総合図録三編』 1巻アメリカ・カナダ篇 東京大学出版会、2013. 3.
-

学術論文

- 板倉聖哲 「梁楷「出山釈迦図」（東京国立博物館）をめぐる諸問題」 特集 宋元仏画と儀礼 『仏教芸術』 毎日新聞社、2016. 1、9-31.
 - 板倉聖哲 「楼閣山水図（作品解説）」 『国華』 国華社、2015. 11、29-32.
 - 板倉聖哲 「画家像としての夏永、その成立と展開：《岳陽楼図》を中心に」 『美術フォーラム 21』 醍醐書房、2015. 11、103-109.
 - 板倉聖哲 「「若冲画に関する二三の覚書：イメージの継承と変容」」 『情報学研究 学環：東京大学大学院情報学環紀要』 東京大学大学院情報学環、2015. 10、1-4.
 - 板倉聖哲 「朝鮮王朝の「日月五峰図屏風」—東アジアの視点から」 『"ニューヨーカーが魅せられた美の世界：ジョン・C・ウェバー・コレクション = A New Yorker's view of the world : the John C. Weber Collection』 Miho Museum、2015. 9、.
 - 板倉聖哲 「正祖 葡萄図（作品解説）」 『国華』 朝日新聞社、2015. 4、33-35.
 - 板倉聖哲 「蘇州片と『倭寇図巻』『抗倭図巻』」 『東京大学史料編纂所紀要』 東京大学史料編纂所、2015. 3、117-131.
 - 板倉聖哲 「東山御物の美—中国絵画を中心として」 『東山御物の美—足利将軍家の至宝』 三井記念美術館、2014. 10.
 - 板倉聖哲 「浦上玉堂と東アジア絵画—前期作品を中心に」 『玉堂片影—シンポジウム浦上玉堂 2013』 浦上家史編纂委員会、2014. 6.
 - 板倉聖哲 「15世紀寧波が見た東アジア絵画—金湜をめぐる」 静永健 編 『東アジア海域に漕ぎだす6 海がはぐくむ日本文化』 東京大学出版会、2014. 4.
-

-
- 板倉聖哲 「沈周早期の作画における倣古意識—「九段錦画冊」（京都国立博物館）を中心に」 『美術史論叢』 第30号（2014.3）、23-37.
 - 板倉聖哲 「東アジアにおける草虫図—常州草虫画の起点にして」 『東亜大学校石堂博物館所蔵品図録 山水畫・花鳥畫』 東亜大学校石堂博物館、2014.2.
 - 板倉聖哲 「王鐸—「弑臣」として、書家・画家として」 『王鐸』 謙慎書道会、2014.1.
 - 板倉聖哲 「沈周早期絵画制作之倣古意識—以『九段錦画冊』（京都国立博物館）為中心」 『蘇州文博』（2013.12）.（中国語）
 - 板倉聖哲 「谷文晁、東アジアへの眼差し」 『日本学』（2013.11）.
 - 板倉聖哲 「「描かれた都」展（於大倉集古館）への誘い」 『UP』、2013.11、12-17.
 - 板倉聖哲 「仏教絵画と宮廷—南宋・馬遠「禪宗祖師図」を中心に」 『シリーズ大乘仏教 10 大乘仏教のアジア』 春秋社、2013.10.
 - 板倉聖哲 「谷文晁、古画への眼差し—東アジア絵画を中心に」 『生誕 250 周年 谷文晁』 サントリー美術館、2013.7.
 - 板倉聖哲 「東アジアにおける蘭亭曲水宴図像の展開」 『美術史論叢』 第29号（2013.3）、1-25.
 - 板倉聖哲 「明代前期画壇与雪舟」 浙江省博物館 編 『明代浙派絵画国際学術研究会論文集』 浙江人民美術出版社、2012.5.（中国語）
 - 板倉聖哲 「幕末期における東アジア絵画コレクションの史的位罫—谷文晁の視點から」 『美術史論叢』 第28号（2012.3）、27-44.
 - 板倉聖哲 「「桃鳩」イメージの変容—王權の表象から平和の象徴へ」 『アジア遊学 東アジアの王權と宗教』 第151号（2012.3）、196-207.
 - 板倉聖哲 「日本對「清明上河圖卷」（北京故宮博物院）研究之狀況」 北京故宮博物院 編 『「清明上河圖」新論』 紫禁城出版、2011.12.（中国語）
 - 板倉聖哲 「張擇端『清明上河圖卷』（北京故宮博物院）の絵画史的位罫」 伊原弘 編 『清明上河圖と徽宗の時代』 勉誠出版、2011.12.
 - 板倉聖哲 「東アジアから見た朝鮮王朝草虫画の史的位罫」 『花卉草虫—花と虫で綴る朝鮮美術展』 高麗美術館、2011.7.
 - 板倉聖哲 「鳳凰図像の展開—東アジアの視點から」 『不滅のシンボル 鳳凰と獅子』 サントリー美術館、2011.6.
 - 板倉聖哲 「唐時代絵画に関する復元的考察—屏風壁画に注目して」 『鹿園雅集』 第13号（2011.3）、37-50.
 - 板倉聖哲 「15世紀寧波文人が見た東アジア絵画—金湜を例に」 『美術史論叢』 第27号（2011.3）、51-76.
 - 板倉聖哲 「清朝前期絵画と日本一年記作品を中心に」 『三の丸尚蔵館年報・紀要』 第16号（2011.3）、99-108.
-

-
- 板倉聖哲 「作為東亞圖像的瀟湘八景圖—十五世紀朝鮮前期文人所見到的東亞瀟湘八景圖」
石守謙・廖肇亨 編 『東亞文化意象之形塑』 石頭出版社、2011.3. (中国語)
 - 板倉聖哲 「画鷹の系譜—東アジアの視点から」 『平城遷都 1300 年祭特別展花鳥画 —中国・韓国と日本』 奈良県立美術館、2010.9.
 - 板倉聖哲 「朝鮮王朝前期の瀟湘八景圖—從東亜的觀點談起 (上・下)」 『典藏 古美術』
215・216 (2010.8). (中国語)
 - 板倉聖哲 「絵画史研究」 『日本宋史研究の現状と課題—1980 年以降を中心に』 汲古書店、2010.5.
 - 板倉聖哲 「『南画家』小室翠雲—大正年間後期を中心として」 『小室翠雲 (1874—1945) 展—館林に生まれ近代南画の大家に』 群馬県立館林美術館、2010.4.
-

一般向け記事

- 板倉聖哲 「美意識としての東山御物—中国絵画を中心として」 『聚美』 13 号 青月社
(2014.10)、10-23.
 - 板倉聖哲 「春草画に見る中国的要素」 『別冊太陽 菱田春草』 平凡社 (2014.9).
 - 板倉聖哲 「台北國立故宮博物院：中国美術の宝、美の極みを体感せよ！」 『BT 別冊』
美術出版社 (2014.7).
 - 板倉聖哲 「国立故宮博物院」 『BT 別冊』 美術出版社 (2014.7).
 - 板倉聖哲 「宗達、わたしの見方 馬脚を現さないひと」 『芸術新潮 特集『風神雷神
図』に見る宗達のすべて』 新潮社 (2014.3).
 - 板倉聖哲 「義満の絵画コレクション」 『週刊 新発見!日本の歴史 室町時代2』 第 23
号 朝日新聞社 (2013.12).
 - 板倉聖哲 「水墨画」 『PEN 日本美術をめぐる旅』 第 341 号 CCC メディアハウス
(2013.8).
 - 板倉聖哲 「ボストン美術館の中国美術—岡倉の中国への眼差し」 『別冊太陽 岡倉天心
近代美術の師』 平凡社 (2013.6).
 - 板倉聖哲 「「中国近代絵画と日本」展を見て」 『京都国立博物館だより 7・8・9 月号』
第 175 号 京都国立博物館 (2012.7).
 - 板倉聖哲 「描かれた妖怪—その祖型をめぐる 辻惟雄氏と対談」 『妖怪萬画上巻 妖怪
たちの競演編』 青幻舎 (2012.3).
 - 板倉聖哲 「最後の狩野派! 狩野一信とはなにものか? 山下裕二氏と対談」 『美術の
窓』 第 231 号 生活の友社 (2011.3)、63-82.
 - 板倉聖哲 「技 中国元明時代の文人画：台北故宮博物院の名品紹介」 『趣味の水墨画
特集 台北・国立故宮博物院の文人画』 2010 年 11 月号 日本美術教育センター
(2010.10).
-

-
- 板倉聖哲 「長谷川等伯が見た掛物—茶湯の展開と絵画史の相関」 『淡交別冊 茶の湯と絵画』 第57号 淡交社 (2010.5).
-

事典等項目

- 板倉聖哲 『世界人名辞典』 岩波書店、 (2013. 12).
 - 板倉聖哲 『中国文化史辞典』 大修館書店、 (2013. 5).
-

VIII. 当該6年間の活動報告

東アジア美術史研究室として東アジア絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクトを継続的に進めており、半世紀に亘っての調査の成果として、現在、『中国絵画総合図録 三編』を出版中である(各年1巻出版の予定、現在、3巻まで出版済)。この出版は美術史学界においては世界的に注目されており、『三編』の予定通りの出版が現在の大きなミッションである。又、このプロジェクトの中では複数の国内外の研究者(訪問研究員を含む)に依頼して、東文研セミナー・シンポジウムを開催、様々な観点からアーカイヴを利用し、さらに充実させていくことを目指している。

個人の研究業績としては、国際シンポジウムにおける研究発表も複数回あり、論文も複数執筆した。一般も含めて影響力のあるものとしては、小学館の『日本美術全集』の編集委員を務めたことであろう。その中の『日本美術全集第6巻 東アジアの中の日本美術』(2015年3月)の巻責任編集者を務めたが、従来の美術全集にはないテーマ性が高く評価された。

さらに、附属東洋学研究情報センターの共同研究プロジェクトを進め、史料編纂所の共同研究プロジェクトに参加した成果も出版された

「蘇州片と『倭寇図巻』『抗倭図巻』」 『東京大学史料編纂所紀要』 25号 2015年3月
(『「倭寇図巻」「抗倭図巻」をよむ』 (勉誠出版 2016年4月) に再録)

「梁楷「出山釈迦図」(東京国立博物館)をめぐる諸問題」 『仏教芸術』 344号 2016年1月

この間、展覧会企画にも積極的に参加することで、一方で調査研究を進めつつ、一方で研究成果の普及にも努めた。以下に参加した展覧会を列挙する。

『王鐸』展 謙慎書道会 2014年

『東山御物の美—足利将軍家の至宝』展 三井記念美術館 2014年

『張璪』展 謙慎書道会 2016年

教育面では、現在、文学部及び大学院のゼミを担当、指導教員として4名の修士学生(内、2名は留学生)の指導に当たっている。訪問研究員は、ほぼ毎年、台湾・米国などから優れた研究者を受け入れ、共同調査など意見交換・交流の機会を頻繁に設けている。

塚本 磨充 TSUKAMOTO, Maromitsu

所属部門 東アジア第二研究部門

研究テーマ 中国絵画をめぐる歴史と文化



I. 略歴

【学歴】

1999年 東北大学文学部史学科東洋・日本美術史専攻 卒業
2001年 同文学研究科歴史科学専攻東洋・日本美術史 博士前期課程修
2001年 同博士課程後期入学
2001年9月～2003年8月 南京師範大学美術学院に留学（中華人民共和国政府奨学金給付）
2003年9月～2004年8月 国立台湾大学芸術史研究所に留学（中華民国教育部奨学金給付）
2011年7月 博士（文学）（東北大学）

【職歴】

2005年4月 大和文華館 学芸部部員
2010年9月 東京国立博物館 研究員
2015年4月 東京大学東洋文化研究所 准教授

【受賞歴】

2009年 第21回 國華賞（展覧会図録賞）
2012年 第24回 國華賞

II. 取り組んでいるテーマ

中国美術史の研究。作品の様式研究を基礎におきながら、それを社会のなかで生起するもの
ととらえ、どのように作用して社会を形成していくのかを、具体的な様相から考察すること
を目標としています。

III. 班研究

- ・現存する中国絵画の包括的再検討
- ・仏教美術に関する資料収集と比較研究

IV. 外部資金による研究

- ・若手研究 (B) 「東アジアからみた乾隆画壇の総合的研究」(2014～2018年度)

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 神戸大学大学院文化科学研究科非常勤講師（2006年～2010年度）
- ・ 京都市立芸術大学非常勤講師（2008年～2010年度）
- ・ 奈良大学文学部文化財学科非常勤講師（2008年～2010年度）
- ・ 大阪大学文学部非常勤講師（2010年度）
- ・ 武蔵野美術大学非常勤講師（2012年～2015年度）
- ・ 東京藝術大学大学院美術研究科非常勤講師（2013～2015年度）
- ・ 愛知県立芸術大学美術学部非常勤講師（2014年度、2015年度）

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- ・ 塚本麿充 『北宋絵画史の成立』 中央公論美術出版、2016. [\[Link\]](#)
-

編著

- ・ 『台北 国立故宫博物院—神品至宝—展 図録』 東京国立博物館、2014.
 - ・ 『上海博物館 中国絵画の至宝展 図録』 東京国立博物館、2013.
 - ・ 『中国山水画の20世紀—中国美術館名品選— パンフレット』 東京国立博物館、2012. [\[Link\]](#)
 - ・ 『北京故宫博物院 200 選展 図録』 東京国立博物館、2012.
 - ・ 曾布川寛 監修 関西中国書画コレクション研究会 編『中国書画探訪—関西の收藏家とその名品』 二玄社、2012. [\[Link\]](#)
-

学位論文

- 塚本麿充 『北宋三館秘閣における文物の収集・公開活動と「北宋絵画史」の成立』、東北大学、2011.
-

学術論文

- 塚本麿充 「『本草品彙精要』と明代宮廷画院」 『杏雨』 19号 (2016.6)、87-132.
 - 塚本麿充 「中国の書画」 『朴亨國監修『東洋美術史』 武蔵野美術大学出版局、2016.4、320-340.
 - 塚本麿充 「北宋文物の受容とその場—宋、高麗、日本の比較から—」 『日本美術全集 東アジアのなかの日本美術』 小学館 (2015.3)、184-187.
 - 塚本麿充 「兩個“趙令穰” —《秋塘圖》與《湖庄清夏圖》接受的中日比較研究—」 『千年丹青國際學術研討會論文集』 上海書畫出版社 (2015.1)、121-146. (中国語)
 - 塚本麿充 「中国絵画史における「人格」と「かたち」 —吳彬「山陰道上図巻」と価値評価の構造—」 『「かたち」再考 開かれた語りのために』 東京文化財研究所編、平凡社 (2014.12)、277-299.
 - 塚本麿充 「中国伝統文化の再編—清朝皇帝の世界—」 『台北 國立故宮博物院—神品至宝—展図録』 東京国立博物館 (2014.6)、28-31.
 - 塚本麿充 「矢代幸雄とシックマン—20世紀における中国絵画観の変容—」 『BI』 vol.7 東京大学東洋文化研究所 (2014.5)、35-48.
 - 塚本麿充 「中国宮廷コレクションと目録 —「舍利感応記」から「龍図閣瑞物目録」へ—」 『仏教美術論 第5巻 機能論』 竹林舎 (2014.3)、13-27.
 - 塚本麿充 「江戸時代所見之中國繪畫—狩野畫派的摹本製作與中國畫史研究」 『典藏古美術』 第248期 (2013.5)、162-169. (中国語)
 - Tsukamoto, Maromitsu. "Frictions in Universal Contexts and Individual Values: Chinese Paintings at the Toyokan." *Orientalisms*, no. Volume 44, Number 5 2013.: 40-47.
 - 塚本麿充 「中国絵画の至宝をめぐる旅」 『上海博物館 中国絵画の至宝展 図録』 東京国立博物館 (2013.)、13-171.
 - 塚本麿充 「北宋的色彩の成立とその伝承—「搗練図」、「韓熙載夜宴図巻」、およびその仇英派の受容について—」 『論集・東洋日本美術史と現場 見つめる・守る・伝える』 竹林舎 (2012.)、111-127.
 - 塚本麿充 「皇帝の文物と北宋初期の開封-啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について-(下)」 『美術研究』 第406号 (2012.)、391-416.
 - 塚本麿充 「清明上河図巻」の魅力—「清明上河図巻」と宋代の視覚文化—」 『北京故宮博物院 200 選展 図録』 東京国立博物館 (2012.1)、156-162.
-

-
- 塚本麿充 「清朝の国際交流」 『北京故宮博物院 200 選展 図録』 東京国立博物館 (2012.1)、273-278.
 - 塚本麿充 「呉昌碩の画—近代・東アジアの光のなかで—」 『呉昌碩の書・画・印 展図録』 東京国立博物館、台東区書道博物館 (2011.9)、44-47.
 - 塚本麿充 「皇帝の文物と北宋初期の開封-啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について-(上)」 『美術研究』 第 404 号 (2011.)、173-208.
 - 塚本麿充 「皇帝の文物と北宋の社会—日本文物の交流からの視点」 『BI』 vol.5 東京大学東洋文化研究所 (2011.)、17-29.
 - 塚本麿充 「絵画 解説」 『新編森克己著作集 4 増補日宋文化交流の諸問題』 勉誠出版 (2011.1)、17-29.
 - 塚本麿充 「宋・元画のなかの器物表現—画中の古物表現とその意味を中心に」 『アジア遊学 東アジアをめぐる金属工芸—中世・国際交流の新視点』 第 134 号 (2010.)、154-172.
-

その他記事

- 塚本麿充 「故宮文物を如何に展示するか—北京と台北、二つの故宮展—」 『ZENBI 全国美術館会議機関誌』 vol.7 (2015.1). [\[Link\]](#)
 - 塚本麿充 「千年企盼 日本的中國繪畫新解——台北「國立故宮博物院—神品至寶」繪畫精品選介」「赴日中國畫家：來舶清人及其交流活動」 『典藏 古美術』 第 261 号 (2014.6). (中国語)
-

VIII. 当該 6 年間の活動報告

前職である大和文華館（～2010 年 8 月）、および東京国立博物館（2010 年 9 月～2015 年 3 月）での在職中をふくめ、以下の課題について研究を行った。

(1) 北宋三館秘閣を中心とする美術作品の調査、研究

北宋三館秘閣を中心とする美術作品の調査、研究を継続して行い、北宋絵画史について新しい知見を得た。特に、作品調査については絹目などの拡大写真の撮影を行い、多くのサンプルを得ることができた。また文献史料の調査を並行して行った。

この成果である「皇帝の文物と北宋初期の開封-啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について—(上、下)」 『美術研究』 第 404、406 号、2011、2012 年、では第 24 回国華賞を受賞した。

(2) 18 世紀における乾隆画壇と江戸・狩野派における中国絵画の整理、分類知識の総合的研究

18 世紀の中国絵画知識の問題について、関連する作品の調査を継続して行っている。「江戸時代所見之中國繪畫—狩野畫派的摹本製作與中國畫史研究」 『典藏古美術』 第 248 期 (2013 年)、 "Frictions in Universal Contexts and Individual Values: Chinese Paintings at the

Toyokan."Orientations, no. Volume 44, Number 5 2013 年、をはじめ、関連論文を発表した。なお本件については、科学研究費(若手研究(B)「東アジアからみた乾隆画壇の総合的研究」(2014-2017 年度))を得ている。

(3) 日本、中国、アメリカにおける中国絵画コレクション成立についての比較研究

20 世紀初頭における関西地区の中国書画コレクションの状況について、関西中国書画コレクション研究会編『中国書画探訪—関西の収集家とその名品』二玄社、2012 年、およびシンポジウムなどに企画・参加し、知見を深めることができた。

これらの成果をまとめた単著である『北宋絵画史の成立』中央公論美術出版、2016 年 3 月、を出版したほか、この間に共編著 1 冊、編集に携わった展覧会図録 4 冊、論文 17 本、口頭発表 27 回をおこなった。

教育に関しては、2015 年後期より、人文社会系研究科および文学部での原典講読、美術史学特殊講義を担当した。

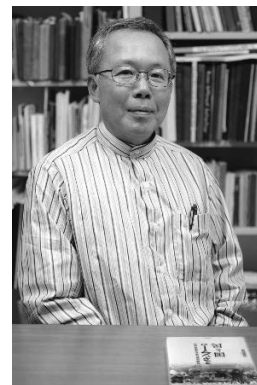
組織運営では、本所の図書委員をつとめた。

南アジア部門

高橋昭雄 TAKAHASHI, Akio

所属部門 南アジア部門

研究テーマ 東南アジアの農村社会



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1981年 京都大学経済学部経済学科卒業

1993年 博士（経済学）（京都大学）

1986年～1988年 ラングーン外国語学院留学

【職歴】

1981年 アジア経済研究所入所

1993年～1995年 ミャンマー農業省農業計画局上級研究員

1996年 アジア経済研究所退職

1996年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2002年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

【受賞歴】

1993年 発展途上国研究奨励賞

2002年 大平正芳記念賞

II. 取り組んでいるテーマ

ミャンマーの農村地域を中心に社会経済の歴史と現状に関する研究を行ってきた。現在は特に、経済体制の転換と農村社会経済の変容との関係、及びその地域的差異について、文献資料の分析と実態調査の二つの方向から研究を進めている。また、ミャンマーについては「東南アジアの村とは何か」について日本との比較研究を行っている。

III. 班研究

- ・ ミャンマー近現代史における「国」と「民」
- ・ 東南アジア近現代史像の再検討

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B) 「インドシナ稲作・精米・米輸出の150年と世界米市場」(2012～2015年)

度)

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ アジア政経学会
- ・ 東南アジア史学会
- ・ 棚田学会
- ・ 日本村落研究学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 経済学研究科現代経済専攻
- ・ 総合文化研究科地域文化専攻
- ・ 総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程		1	1
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- ・ 高橋昭雄 『ミャンマーの国と民—日緬比較村落社会論の試み—』 明石書店、2012. 11

学術論文

- ・ 高橋昭雄 「比較の中のミャンマー村落社会論——日本、タイ、そしてミャンマー」 『東南アジア歴史と文化(東南アジア学会誌)』 (2015. 5)、5-26.
- ・ 高橋昭雄 「ミャンマー・パテインの精米所経営と市場」 『東洋文化研究所紀要』 第167冊 東洋文化研究所 (2015. 3)、400-466.
- ・ 高橋昭雄 「『鎖国』と経済制裁—周回遅れの開発主義—」 田村克己、松田 正彦 編 『ミャンマーを知るための60章』 明石書店、2013. 10、299-303.

書評論文・書誌紹介

- 高橋昭雄 「新刊書紹介 中西嘉宏著『軍政ビルマの権力構造—ネー・ウィン体制下の国家と軍隊 1962-1988』」 『東南アジア，歴史と文化』 山川出版社（2011.11）、165-170. [\[Link\]](#)
-

口頭発表

- 高橋昭雄 「比較の中のミャンマー村落社会論—日本、タイ、そしてミャンマー」 東南アジア学会 立教大学 2014年12月20日. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「ミャンマー村落社会論構築の試み」 東南アジア学会関東例会 東京外国語大学本郷サテライト 2014年4月26日.
 - Takahashi, Akio. "Long-term Trend of Rice Production and Export of Myanmar (Burma) from 1872 to 2008." Presented at the *Burma Studies Conference 2010: Burma in the Era of Globalization held at Institut de Recherche sur le Sud-Est Asiatique (IRSEA-CNRS)*, Provence, France, July 6-9 2010.
-

一般向け記事

- 高橋昭雄 「ミャンマーの民主化と自由化を再考する（巻頭エッセイ）」 『アジア研ワールドトレンド』 第220号 アジア経済研究所（2014.2）、1.
-

新聞記事

- 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：AEC発足直後のタイ—ミャンマー国境へ（高橋昭雄東大教授の農村見聞録④）」 『東京ビジネスアイ』 2016年2月26日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：農業がNLDの経済政策の最優先事項（高橋昭雄東大教授の農村見聞録③）」 『東京ビジネスアイ』 2015年12月25日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「私の視点：問われるNLDの実行力—ミャンマー経済」 『朝日新聞』 2015年12月10日 朝刊、19、朝日新聞社.
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：アウンサン・スーチー氏の党の経済政策（高橋昭雄東大教授の農村見聞録②）」 『東京ビジネスアイ』 2015年11月27日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：総選挙前の村を歩いて（高橋昭雄東大教授の農村見聞録①）」 『東京ビジネスアイ』 2015年11月5日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
-

-
- 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：「農民」発展のための党と組合の課題（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑩） 『東京ビジネスアイ』 2015年10月2日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：パゴダが避難所 洪水の村を訪ねて（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑨） 『東京ビジネスアイ』 2015年9月18日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：千葉・富里で働く農業実習生（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑧） 『東京ビジネスアイ』 2015年8月7日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：仏教徒が豚を飼育すること（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑦） 『東京ビジネスアイ』 2015年7月3日 朝刊、産経新聞社.
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：人口・世帯調査の「意外な結果」（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑥） 『東京ビジネスアイ』 2015年6月12日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：内戦直前のコーカンの山村にて（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑤） 『東京ビジネスアイ』 2015年5月1日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：パラウンの村にも経済変容の波（高橋昭雄東大教授の農村見聞録④） 『東京ビジネスアイ』 2015年3月20日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：現代史生きたチツマイン長老（高橋昭雄東大教授の農村見聞録③） 『東京ビジネスアイ』 2015年1月23日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：村長と僧院長、全額自費で訪日（高橋昭雄東大教授の農村見聞録②） 『東京ビジネスアイ』 2014年12月19日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：NLD村長が招いた大騒動（高橋昭雄東大教授の農村見聞録①） 『東京ビジネスアイ』 2014年11月21日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：西瓜ブームと土地騰貴（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑩） 『東京ビジネスアイ』 2014年10月5日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：古本商、ジャパンジーの死を悼む（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑨） 『東京ビジネスアイ』 2014年8月1日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：村の組織はうたかたのごとし（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑧） 『東京ビジネスアイ』 2014年7月18日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：仏教徒慣習法に反して・・・（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑦） 『東京ビジネスアイ』 2014年6月20日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：財産分与は生前に（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑥） 『東京ビジネスアイ』 2014年6月13日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：門前町の繁栄で発生した金融講（高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑤） 『東京ビジネスアイ』 2014年5月9日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：経済効果享受の村民は半分（高橋昭雄東大教授の農村見聞録④） 『東京ビジネスアイ』 2014年4月4日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：パヤーが生み出す新しい職業（高橋昭雄東大教授の農村見聞録③） 『東京ビジネスアイ』 2014年3月28日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
-

-
- 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：社会の変化を映すパヤー （高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑫）」 『東京ビジネスアイ』 2014年3月21日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：ミャンマーの米価の決まり方 （高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑪）」 『東京ビジネスアイ』 2014年2月14日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：種子から始まるよいコメづくり （高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑩）」 『東京ビジネスアイ』 2014年1月3日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：加速化する電化と情報化 （高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑨）」 『東京ビジネスアイ』 2013年11月15日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「シャン高原のタンデー村」 『アジア研ワールドトレンド』 2013年11月8日、33-36、アジア経済研究所.
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：“多就業”とモータリゼーション （高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑧）」 『東京ビジネスアイ』 2013年11月8日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：急速に進む地方の“脱農化” （高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑦）」 『東京ビジネスアイ』 2013年10月24日 朝刊、26、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：コメ輸出復活 精米所にも活気 （高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑥）」 『東京ビジネスアイ』 2013年9月20日 朝刊、産経新聞社.
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：病魔が奪った大規模農家の座 （高橋昭雄東大教授の農村見聞録⑤）」 『東京ビジネスアイ』 2013年7月19日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：農地配分で村一番の大農家に （高橋昭雄東大教授の農村見聞録④）」 『東京ビジネスアイ』 2013年7月12日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：農業の近代化と農村社会の変化 （高橋昭雄東大教授の農村見聞録③）」 『東京ビジネスアイ』 2013年6月14日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：輸出急増 コメの国復活 （高橋昭雄東大教授の農村見聞録②）」 『東京ビジネスアイ』 2013年5月10日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
 - 高橋昭雄 「飛び立つミャンマー：農地を持たない世帯が半数 高い流動性 （高橋昭雄東大教授の農村見聞録①）」 『東京ビジネスアイ』 2013年4月12日 朝刊、産経新聞社. [\[Link\]](#)
-

VIII. 当該6年間の活動報告

日本の村落研究の成果と比較しつつ、ミャンマー村落の社会経済研究を進めている。2012年に単著『ミャンマーの国と民—日緬比較村落社会論の試み—』を出版した。さらにこの理論版として、2015年に「比較の中のミャンマー村落社会論——日本、タイ、そしてミャンマー」、2016年に「日本の村、ミャンマーの村—共同体とコミュニティー」を発表した。これら一連の研究により、抑圧的社会主义体制下や軍政下にあってもミャンマー人はなぜ自由で自立的であったか、という問いから出発して、日本の村は「生産と生活の共同体」であるのに対し、ミャンマーの村は「生活のコミュニティー」であることを解明した。

また一般向けに『ミャンマー農村見聞録』をフジサンケイビジネスアイ紙上で39回にわたって連載している。

ミャンマーだけでなく、科学研究費補助金「インドシナ稲作・精米・米輸出の150年と世界米市場」(2012～2015年度)の研究代表者として、アジアのコメ経済の比較研究を行った。なおその成果の一部は、「ミャンマー・パテインの精米所経営と市場」として2015年に公表された。

2013年6月、大韓民国亀尾(グミ)市で開催された、同国嶺南(ヨンナム)大学主催の国際会議、“The Prospect of Globalizing the Saemaul Spirit and Its Tasks, the Age of Sharing”に招待され、“The History of the Agricultural Policy in Myanmar and the Changes in the Rural Economy”と題する基調講演を行った。

「緬甸勉強会」を組織し、年2、3回の頻度で、東文研セミナーを開催している。

経済学研究科、総合文化研究科で大学院授業を担当し、修士課程4名の修了者の指導、5件の博士論文の副査を担当した。

学内では大学委員およびアジア生物資源センターの運営委員を務めた。

国際協力機構の短期専門家として、2013年に「農民参加による優良種子増殖普及システム確立計画プロジェクト」、2015年には「シャン州北部地域における麻薬撲滅に向けた農村開発プロジェクト」に派遣され、ミャンマーにおける日本の経済・技術協力に貢献した。

青山和佳 AOYAMA, Waka

所属部門 南アジア部門

研究テーマ 東南アジアの経済と宗教



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1991年 慶應義塾大学商学部商学科卒業

1994年 慶應義塾大学大学院商学研究科経営学・会計学専攻修士課程修了

2001年 東京大学大学院経済学研究科現代経済専攻博士課程単位取得退学

2002年 博士（経済学）（東京大学）

【職歴】

1997年～1999年 Visiting Scholar, Institute of Philippine Culture, Ateneo de Manila University

2001年 東京大学大学院経済学研究科・経済学部 助手

2004年 和洋女子大学人文学部 助教授

2007年 日本大学生物資源学部 准教授

2009年 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授

2013年～2014年 Visiting Scholar, Harvard-Yenching Institute

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

【受賞歴】

2001年「沖永賞」（受賞対象：「リーディング日本の労働」シリーズ（旧）日本労働研究機構の編著者全体として）

2002年「第2回井植記念アジア研究賞」（受賞対象：東京大学大学院経済学研究科提出博士学位論文）

2007年「第23回大平正芳記念賞」（受賞対象：『貧困の民族誌-フィリピン・ダバオ市のサマの生活』東京大学出版会、2006年）

2007年「国際開発学会優秀賞」（受賞対象：同上）

2008年 日本大学生物資源科学部学部長賞（受賞対象：大平賞受賞、国際開発学会優秀賞受賞）

2012年「第8回日本学術振興会賞」（受賞対象：フィリピンのサマ・バジャウ研究）

2013年 北海道大学教育総長賞（受賞対象：全学教育科目英語Ⅰの授業評価）

2014年 北海道大学教育総長賞（受賞対象：全学教育科目英語Ⅰの授業評価）

2014年 北海道大学グランド・エクセレント・ティーチャー（受賞対象：教育総長賞2年連続受賞）

II. 取り組んでいるテーマ

東南アジアの経済発展と人びとの暮らしの変化について民族誌的手法により研究してきた。特に、国民国家の「周縁部」とされる地域やエスニック集団の動態に注目している。メインとしている調査地は、フィリピンのミンダナオ島ダバオ市。現在は、サマ系住民のキリスト教の受容と実践についてフィールドワークを行っている。

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (C) 「ペンテコステ派とパール行商——サマが経験する 21 世紀の仕事と祈り」 (2014～2017 年度)
- ・ 基盤研究 (C) 「都市に生きるサマの民族誌——生業と信仰をめぐる選択の過程」 (2011～2014 年度)

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 東南アジア学会
- ・ アジア政経学会
- ・ Association of Asian Studies

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 「国際経済特論」（大学院経済学研究科）
- ・ 「地域文化研究特殊研究」（大学院総合文化研究科）
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			





2. 本学以外での教育活動

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- 青山和佳 受田宏之 小林誉明 初鹿野直美 東方孝之 宮地隆廣 『開発援助がつくる社会生活：現場からのプロジェクト診断』 大学教育出版、2010. 5.
-

学術論文

- Aoyama, Waka. "Living in the City as the Sama-Bajau: A Case Study of Bilaiya's Family." *Harvard-Yenching Institute Working Paper Series* 2016.3. [\[Link\]](#)
 - Aoyama, Waka. "Creating Living Space against Social Exclusions: The Experience of the Sama-Bajau migrants in Davao City, Philippines." *Harvard-Yenching Institute Working Paper Series* 2016.1. [\[Link\]](#)
 - Aoyama, Waka. "To Become "Christian Bajau": The Sama Dilaut's Conversion to Pentecostal Christianity in Davao City, Philippines." *Harvard-Yenching Institute Working Paper Series* 2014.12. [\[Link\]](#)
 - Aoyama, Waka. "Living in the City as the Sama-Bajau: A Case Study of Guwapo's Family." *Hakusan jinruigaku (Hakusan Journal of Anthropology)* 17 2014.3: 31-58.
 - 青山和佳 「書評 日下渉. 『反市民の政治学：フィリピンの民主主義と道徳』 『アジア・アフリカ地域研究』 第13号 (2013. 11), 52-56. [\[Link\]](#) 
 - 青山和佳 「未来を投企するフィリピン人：国内初の保健協同組合創設者の語りより」 『東南アジア研究』 第50巻 第1号 (2012. 7), 39-71. [\[Link\]](#) 
 - Aoyama, Waka. "Social Inequality among Sama-Bajau Migrants in Urban Settlements : A Case from Davao City." *Hakusan jinruigaku (Hakusan Journal of Anthropology)*, no. 15 2012.3: 7-44. [\[Link\]](#) 
 - 青山和佳 「開発援助の現場における解釈コミュニティの出現とアイデンティティの再構築：フィリピン・ダバオ市のサマ・バジャウを事例に(パネル3「島嶼部東南アジアの開発過程と境域-アイデンティティの再構築をめぐって-」, 第85回研究大会報告)」 『東南アジア学会会報』 第95号 (2011. 11), 23. [\[Link\]](#) 
-

口頭発表

- Aoyama, Waka. "Creating Living Space against Social Exclusions: The Experience of the Sama-Bajau in the Urban Philippines." Presented at the *SEASIA Conference*, Kyoto International Conference Center, December 2015.
 - 青山和佳 「交易と現地社会の再編：スルー王国における民族階層の構築」 中国社会文化学会 東京大学文学部 2015年7月.
-

-
- Aoyama, Waka. "What Do Disasters Reveal about the Society?: A Case Study of the Fire That Hit the Sama-Bajau Community in Davao City." Presented at the *PSA (Philippine Studies Association)*, The National Museum of the Philippines, November 2014.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

研究にかんしては、つぎの2つを柱としてきた。

(1) 「フィリピンにおける貧困の民族誌的研究-ダバオ市のサマの社会経済生活」というテーマのもとにおける継続的なフィールドワークによる事例研究。2010年4月以降、共著1冊、論文4本を発表するとともに、国際学会等で口頭報告を行った。2012年第8回日本学術振興会賞。2014年度～2017年度は科学研究費補助金基盤(C)を得ている。近年は、調査地の人びととの協働を通じて作る3部作(都市移民第一世代の民族誌、キリスト教受容の民族誌、第2世代女性の民族誌)を構想、準備中である。

(2) 「開発援助が作る社会生活-現場からのプロジェクト診断」というテーマのもとにおける文献研究および上記(1)のフィールドワークにもとづく事例分析。2005年頃より他大学や研究所の若手(博士号取得前後)研究者とともに、国際開発援助の社会的影響について学際的な共同研究を行ったもので、2010年4月以降において発表された成果としては、共編著1冊、論文2本がある。プロジェクト終了後、公共哲学への関心がひろがり、上記(1)を具体的なフィールドとしながら、排除と包摂、人びとによる生活空間の(再)創造などにかんして国際学会等での口頭報告(2015年)をはじめたところである。

教育にかんしては、2013年度まで在籍した北海道大学における英語教育について、教育総長賞2回およびグランド・エクセレント・ティチャーを受賞した。2014年度以降は、現在の所属先である東京大学において、経済学研究科と総合文化研究科での大学院授業(発展途上国都市経済論)を担当している。

組織運営では、国際委員会の委員を務めている。社会貢献では、兼業(無給)として、神奈川県社会起業家が経営する塾における知覚カウンセリングアドバイザーとして、すべてのひとが学びを通じてより生きやすくなるような制度の設計と実施にかかわっている。

古井龍介 FURUI, Ryosuke

所属部門 南アジア部門

研究テーマ 南アジア古代・中世初期史



I. 略歴

【学歴】

1998年 東京大学文学部歴史文化学科東洋史学専修課程卒業

2000年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修士課程修了

2006年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程単位取得退学

2007年12月 Ph.D. (Jawaharlal Nehru University)

【職歴】

2000年4月～2001年12月 日本学術振興会特別研究員(DC1)

2007年4月～2008年3月 日本学術振興会特別研究員(PD)

2008年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

2010年3月～2011年3月 ベルリン自由大学南アジア言語・文化研究所客員研究員

II. 取り組んでいるテーマ

専門は南アジア古代・中世初期史。碑文、特に銅板文書を始めとするサンスクリット史料の読解を通して農村社会とそこにおける権力関係を研究する。ベンガルを主な対象地域として、各地の碑文史料の収集も行なっている。

III. 班研究

- ・ 南アジア農村社会の歴史的研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 若手研究(A)「中世初期東インドにおける武力と武装集団：その性格と農村権力関係との関わり」(2014～2017年度)
- ・ 若手研究(B)「中世初期東インドにおける社会形成：規範の構築と諸社会集団間の交渉」(2010～2013年度)

V. 学外活動(学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本南アジア学会
- ・ インド考古研究会

- ・ 特定非営利活動法人南アジア文化遺産センター理事
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (2012～2014 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 特殊研究「南アジア前近代史における諸問題」 (人文社会系研究科 2012 年度)
- ・ 特殊研究「南アジア前近代史における諸問題」 (人文社会系研究科 2013 年度)
- ・ 特殊研究「南アジア前近代史の諸問題」 (人文社会系研究科 2014 年度)
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該 6 年間の研究業績

学術論文

-
- Furui, Ryosuke. "Bharat Kala Bhavan Copper Plate Inscription of Rājyapāla, year 2: Re-edition and Reinterpretation." *Puravritta* 1 2016.2: 41-56. [\[Link\]](#)
 - Furui, Ryosuke. "Characteristics of Kaivarta Rebellion Delineated from the Rāmacarita." *Proceedings of the Indian History Congress* 75 2015.12: 93-98. [\[Link\]](#)
 - Furui, Ryosuke. "Rajibpur Copper Plate Inscriptions of Gopāla IV and Madanapāla." *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series* 6 2015.11: 39-61. [\[Link\]](#)
 - 古井龍介 「バングラデシュ——開発・政治対立と文化財」 野口淳 安倍雅史 編 『イスラームと文化財』 新泉社、2015. 10、232-239.
 - Furui, Ryosuke. "Ājīvikas, Mañibhadra and Early History of Eastern Bengal: A New Copperplate Inscription of Vainyagupta and its Implications." *Journal of the Royal Asiatic Society* FirstView 2015.9. [\[Link\]](#)
 - 古井龍介 「インド亜大陸の社会と仏教」 新川登亀男 編 『仏教文明と世俗秩序：国家・社会・聖地の形成』 勉誠出版、2015. 3、3-27.
 - Furui, Ryosuke. "Variegated Adaptations: State Formation in Bengal from the Fifth to the Seventh Century." *Interrogating Political Systems: Integrative Processes and States in Pre-modern India*. Edited by Bhairabi Prasad Sahu and Hermann Kulke. New Delhi: Manohar, 2015.1 : 255-273. [\[Link\]](#)
-

-
- Furui, Ryosuke. "Agrarian Expansion and Local Power Relation in the Seventh and Eighth Century Eastern Bengal: A Study on Copper Plate Inscriptions." *Urbanity and Economy: The Pre Modern Dynamics in Eastern India*. Edited by Ratnabali Chatterjee. Kolkata: Setu Prakashani, 2013.12 : 96-110. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "The Kotalipada Copperplate Inscription of the Time of Dvādaśāditya, Year 14." *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series 4* 2013.12: 89-98. [[Link](#)]
 - 古井龍介 「ベンガル社会の形成—中世初期におけるその萌芽—」 『南アジア研究』 第25巻 (2013. 12)、45-53. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "Finding Tensions in the Social Order: a Reading of the Varṇasaṃkara Section of the Bṛhaddharmapurāṇa." *Revisiting Early India: Essays in Honour of D. C. Sircar*. Edited by Suchandra Ghosh et al. Kolkata: R. N. Bhattacharya, 2013.12 : 203-218. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "Brāhmaṇas in Early Medieval Bengal: Construction of their Identity, Networks and Authority." *Indian Historical Review* 40, no. 2 2013.11: 223-248. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "Merchant groups in early medieval Bengal: with special reference to the Rajbhita stone inscription of the time of Mahīpāla I, Year 33." *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 76, no. 3 2013.9: 391-412. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "Chaprakot Stone Inscription of the Time of Gopāla IV, Year 9." *Centenary Commemorative Volume (1913-2013)*. Dhaka: Bangladesh National Museum, 2013.6 : 110-117. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "Panchrol (Egra) Copperplate Inscription of the Time of Śaśāṅka: A Re-edition." *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series 2* 2011.12: 119-130. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "Rangpur Copper Plate Inscription of Mahīpāla I, Year 5." *Journal of Ancient Indian History* 27 2011.12: 232-245. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "Indian Museum Copper Plate Inscription of Dharmapala, Year 26: Tentative Reading and Study." *South Asian Studies* 27, no. 2 2011.10: 145-156. [[Link](#)]
 - Furui, Ryosuke. "Biyala Copperplate Inscription of Mahīpāla I." *Pratna Samiksha: A Journal of Archaeology, New Series 1* 2010.11: 99-106. [[Link](#)]
 - 古井龍介 「ジャガッジーバンプル銅板文書とナンダディールギー僧院址」 『インド考古研究』 第31号 (2010. 12)、1-16.
 - 古井龍介 「古代の歴史と社会」 奈良康明 下田正弘 編 新アジア仏教史1インドI 『仏教出現の背景』 佼成出版社、2010. 4、68-113.
-

書評論文・書誌紹介

- Furui, Ryosuke. Review of *The Changing Gaze: Regions and the Constructions of Early India*, by Bhairabi Prasad Sahu. *The Indian Economic and Social History Review* 52, no. 4 (2015.12): 554-556. [[Link](#)]
-

-
- Furui, Ryosuke. Review of *Hāth-Kāghaz: History of Handmade Paper in South Asia*, by Masatoshi A. Konishi. *The International Journal of Asian Studies* 12, no. 1 (2015.1): 118-120. [\[Link\]](#)
 - 古井龍介 「新刊紹介 Karashima Noboru, Ancient to Medieval: South Indian Society in Transition」 『史学雑誌』 第119巻 第6号 (2010.6)、115.
-

口頭発表

- Furui, Ryosuke. "Characteristics of Kaivarta Rebellion Delineated from the Rāmacarita." Presented at the *Section I: Ancient India, December 29, 2014 of Indian History Congress 75th Session, held at Jawaharlal Nehru University, 28-30 December 2014, New Delhi, December 2014.*
 - Furui, Ryosuke. "Variegated Adaptations: State Formation in Bengal from the 5th to the 7th Century." Presented at the *Session 3: Formation of State and Society during the Period of the 5th-14th Centuries, March 9, 2014 of The Second International Symposium of Inter-Asia Research Networks, State Formation and Social Integration in Pre-Modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society, held by Toyo Bunko, March 8-9, 2014, Tokyo, March 2014.*
 - Furui, Ryosuke. "Inscribed Powers: Copper Plate Inscriptions of Eastern India and their Changing Forms." Presented at the *Session Material II (Others), November 15, 2013 of CSMC Conference on "Manuscripts and Epigraphy", held by Centre for the Study of Manuscript Cultures, Universität Hamburg, November 14-16, 2013, Hamburg, November 2013.*
 - Furui, Ryosuke. "Bangladesh National Museum Vase Inscription of the Time of Devātideva and its Implications for the Early History of Harikela." Presented at the *Session 7: History, July 9, 2013 of Centenary Celebration of Bangladesh National Museum 1913-2013 International Seminar, held by Bangladesh National Museum, July 8-9, 2013, Dhaka, 2013.*
-

事典等項目

- 古井龍介 「アショーカ、ウィマ・カドフィセース、ガウタミープトラ・サータカルニ、カニシュカ1世、クジューラ・カドフィセース、サムドラグプタ、チャンドラグプタ、チャンドラグプタ2世、ビンビサーラ、プリトヴィーラージャ3世、メナンドロス」 岩波書店辞典編集部 編 『岩波世界人名大辞典』 岩波書店、(2013.12)。
-

VIII. 当該6年間の活動報告

中世初期東インドにおける社会形成を、識字エリート層による規範の構築と、その受容・抵抗という諸社会集団間の交渉の過程として捉えることを目的として「中世初期東インドにおける社会形成：規範の構築と諸社会集団間の交渉」と題する研究を行い、9点の銅板文書および2点の碑文を校訂・公表するとともに、それらを含む史料をもとに王権と従属支配者と

の緊張関係と交渉（‘Indian Museum Copper Plate Inscription of Dharmapala, Year 26: Tentative Reading and Study’ , *South Asian Studies*, Vol.27, No.2, 2011, pp.145-156）、農村における商人集団の活動と農村への商業拡大（‘Merchant groups in early medieval Bengal: with special reference to the Rajbhita stone inscription of the time of Mahīpāla I, Year 33’, *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol.76, Issue 3, 2013, pp.391-412）、識字エリートであるブラーフマナらのアイデンティティ強化・ネットワーク形成による権威の確立を論じ（‘*Brāhmanas in Early Medieval Bengal: Construction of their Identity, Networks and Authority*’ , *Indian Historical Review*, Vol.40, No.2, 2013, pp.223-248）、ベンガルにおけるカースト的社会秩序形成に結実する中世初期の社会変化の諸側面が明らかにした。

社会貢献としては、2013年より特定非営利活動法人南アジア文化遺産センターの理事を務め、南アジアにおける遺跡保護を目的として同センターが行う日本の市民への啓蒙活動およびパキスタンの現地研究者との国際交流活動に協力した。

馬場紀寿 BABA, Norihisa

所属部門 南アジア部門

研究テーマ 上座部仏教の思想と歴史



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

2000年 東京大学文学部思想文化学科卒業

2002年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻修士課程修了

2006年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程修了

2006年 博士（文学）（東京大学）

【職歴】

2006年 東京大学東洋文化研究所 助手

2007年 東京大学東洋文化研究所 助教

2006年10月 Research Associate, Darwin College, University of Cambridge

2009年4月 Visiting Research Fellow, HCBSS, Stanford University

2010年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

【受賞歴】

2009年 日本南アジア学会賞（日本南アジア学会）

（受賞対象：『上座部仏教の思想形成——ブッダからブッダゴーサへ』春秋社、2008年）

2011年 日本印度学仏教学会賞（日本印度学仏教学会）

II. 取り組んでいるテーマ

研究領域は古代インド仏教と上座部仏教。パーリ文献とサンスクリット文献・漢訳文献・チベット訳文献とを比較して、インド仏教史を解明することを目指している。特に、スリランカと東南アジア大陸部に広まる上座部仏教が成立する過程を研究している。

III. 班研究

- ・ 中国禅宗語録の研究
- ・ 上座部文献の研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 若手研究 (B) 「初期仏典伝承史の研究：パーリ經典の様式分析と北伝資料との比較に基づ

いて」(2012～2015年度)

V. 学外活動(学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本南アジア学会
- ・ 日本印度学仏教学会
- ・ 東方学会
- ・ 日本宗教学会
- ・ パーリ学仏教文化学会

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程		1	1
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該6年間の研究業績

学術論文

- ・ 馬場紀寿 「上座部大寺派のパーリ語主義」 『パーリ学仏教文化学』 (2015.12).
- ・ 馬場紀寿 「パーリ仏典圏の形成—スリランカから東南アジアへ」 『仏教文明の転回と表現 文字・言語・造形と思想』 勉誠出版、2015.3、3-23.
- ・ 馬場紀寿 「『宝篋印経』の伝播と展開—スリランカの大乗と不空、延寿、重源、慶派—」 『仏教学』 第54号 (2013.3).
- ・ 馬場紀寿 「上座部仏教と大乗仏教」 『シリーズ大乗仏教2 大乗仏教の誕生』 春秋社、2011.12、140-171.
- ・ 馬場紀寿 「阿羅漢の智慧と仏陀の智慧—初期仏典から大乗仏典へ(立正大学における第六十一回[日本印度学仏教学会]学術大会紀要(2))」 『印度學佛教學研究』 第59巻 第2号 日本印度学仏教学会 (2011.3)、885-879. [\[Link\]](#)
- ・ 馬場紀寿 「初期仏典と実践」 『新アジア仏教史 03 仏典からみた仏教世界』 東京：春秋社、2010.7、67-103.

VIII. 当該6年間の活動報告

①『阿羅漢の智慧と仏陀の智慧—初期仏典から大乘仏典へ—』（印度学仏教学研究，2011年）は日本印度学仏教学会により2010年度日本印度学仏教学会賞を授与された論文である。授賞理由として、「これまでの研究成果が極めて顕著」であることが挙げられた。②『上座部仏教と大乘仏教』（高崎直道監修、斎藤明編『シリーズ大乘仏教2 大乘仏教の誕生』春秋社，2011年）は、パーリ文献協会日本代表である森祖道博士により、「スリランカの大乗について…幅広く論じた新しい論文として注目に値するものである」と高く評価された（『スリランカの大乗仏教』大蔵出版，2015年、p.14）。③『「宝篋印経」の伝播と展開—スリランカの大乗と不空、延寿、重源、慶派—』（仏教学，2013年）は、スリランカの密教が東アジア伝来後、その地域に多大な影響を与えたことを論証したことが高く評価されことにより、ブータン国立ブータン学研究所が主催の国際会議“Buddhism without Borders”（ブータン・2012年5月21日）に招待されて行った講演、“Sri Lankan Impacts on East Asia: Transmission of a Dhāraṇī Sūtra”の日本語論文である。

西アジア部門

長澤榮治 NAGASAWA, Eiji

所属部門 西アジア部門

研究テーマ 近代アラブ社会経済史



I. 略歴

【学歴】

1976年 東京大学経済学部経済学科卒業

【職歴】

1976年 特殊法人アジア経済研究所入所

1981年2月～1983年6月 エジプト・カイロ大学文学部大学院にて海外派遣として在外研究に従事

1983年6月 帰国、同研究所調査研究部に配属

1992年2月 地域研究部副主任調査研究員

1995年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1998年～1999年 日本学術振興会カイロ研究連絡センター長

1998年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2002年～2005年 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 主任

2008年～2009年 東京大学東洋文化研究所副所長

2013年～2014年 東京大学東洋文化研究所副所長

2013年～現在 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター副センター長

II. 取り組んでいるテーマ

近代エジプト社会経済史を中心に、中東地域研究に取り組んでいる。現在、主要な研究課題として取り組んでいるのは、2011年に始まるアラブ革命と中東政治の構造変容について、エジプトの事例を中心にその動向を把握し、その歴史的な位置づけについての考察する研究である。また、エジプト社会研究に関して、これまで行ってきた家族をめぐる問題群に関する研究をまとめるため、その総括的な考察を準備している。この研究に関連して、エジプト社会学者の自伝（サイイド・オウエイヌ『私が背負った歴史』）の翻訳を継続して行っている。

III. 班研究

- ・ 中東の社会変容と思想運動

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (A) 「アラブ革命と中東政治の構造変動に関する基礎研究 (2012～2015 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本イスラム協会
- ・ オリエント学会
- ・ 日本中東学会 (理事) (2012～14 年度) 会長 (2009～10 年度)
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (海外拠点専門委員会委員) (2010～2015 年度)
- ・ 人間文化研究機構 (地域研究推進委員会イスラーム地域部会専門委員) (2012～2014 年度)
- ・ 公益財団法人日本国際問題研究所 (「グローバル戦略課題としての中東-2030 年の見通しと対応」研究会主査) (2013～14 年度)
- ・ 早稲田大学イスラーム地域研究機構 (共同利用・共同研究拠点運営委員会) (2013～14 年度)
- ・ 一橋大学大学院経済学研究科 (博士学位申請論文審査員) (2014 年度)
- ・ 日本貿易振興機構アジア経済研究所 (第 35 回「発展途上国研究奨励賞」選考委員長) (2014 年度)
- ・ 日本貿易振興機構アジア経済研究所 (第 36 回「発展途上国研究奨励賞」選考委員長) (2015 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	1	1	
博士課程	3	3	3
博士号取得者数	1	1	

2. 本学以外での教育活動

- ・ 上智大学 (2014 年度前期)
- 山梨県立大学 (2014 年度後期)

Ⅶ. 当該6年間の研究業績

著書

- 長沢栄治 『エジプトの自画像 ナイルの思想と地域研究(東洋文化研究所叢刊第27輯)』 平凡社、2013.3.
 - 長沢栄治 『アラブ革命の遺産 エジプトのユダヤ系マルクス主義者とシオニズム』 平凡社、2012.3.
 - 長沢栄治 『エジプト革命 アラブ世界変動の行方(平凡社新書)』 平凡社、2012.1.
-

編著

- 長沢栄治 編 『グローバル戦略課題としての中東—2030年の見通しと対応—(2014年度)』 日本国際問題研究所、2015.3.
 - 長沢栄治 編 『グローバル戦略課題としての中東—2030年の見通しと対応—(2013年度)』 日本国際問題研究所、2014.3.
-

学術論文

- 長澤栄治 「ナクバ〈以後〉を生きる 難民とパレスチナ問題」 川喜田敦子・西芳実 編 災害対応の地域研究 第4巻 『歴史としてのレジリエンス』 京都大学学術出版会、2016.3、177-219.
 - 長澤栄治 「「7月3日体制」下のエジプト」 『石油・天然ガスレビュー』 49.2 石油・天然ガス資源情報 (2015.3).
 - Nagasawa, Eiji. "Some Reflections on Scenario Planning for the Middle East (in Arabic)." *Mediterranean World*: Hitotsubashi University Mediterranean Studies Group, no. 22 2015.3: 169-82.
 - Nagasawa, Eiji. "Historical Dynamism of the Arab Revolution." *The Middle East Turmoil and Japanese Response – For a Sustainable Regional Peacekeeping System –*. Edited by Hitoshi Suzuki. Chiba: Institute of Developing Economies, 2013.7 : 104-122.
 - 長沢栄治 「革命とセクハラ—エジプト映画『678』をめぐって」 『地域研究』 第13巻 第2号 (2013.3)、399-404.
 - 長沢栄治 「アラブ革命と地域研究—特集Ⅰ「中東から変わる世界」を読んで」 『地域研究』 第13巻 第1号 (2013.3)、203-207.
 - 長沢栄治 「大統領選後のエジプト」 『学士会報』 第897巻 (2012.11)、27-31.
 - 長沢栄治 「アラブ革命の構想力—グローバル化と社会運動—」 『歴史学研究』 増刊号 898 (2012.10)、12-20.
-

-
- 長沢栄治 「門戸開放期エジプトの国家と社会」 柳沢悠・栗田禎子 編 『持続可能な福祉社会へ：公共性の視座から（第四巻アジア・中東）』 「門戸開放期エジプトの国家と社会」 勁草書房、2012. 7、239-68.
 - Nagasawa, Eiji. "Comparing Two Egyptian Revolutions." *Mediterranean World*, no. 21 2012.6: 267-81.
 - 長沢栄治 「2つのナショナリズム—ワタニーヤとカウミーヤ—」 鈴木恵美 編 『現代エジプトを知る 60 章』 明石書店、2012. 6、88-91.
 - 長沢栄治 「生命の絆を結ぶ大河—ナイル川—」 鈴木恵美 編 『現代エジプトを知る 60 章』 明石書店、2012. 6、34-37.
 - 長沢栄治 「革命を引き継ぐ者たち—民衆蜂起を支える学生運動—」 鈴木恵美 編 『現代エジプトを知る 60 章』 明石書店、2012. 6、130-134.
 - 長沢栄治 「二つのエジプト革命」 『国際問題』 第 605 卷 (2011. 10)、19-28.
 - 長沢栄治 「エジプト 1 月 25 日革命は何を目指すか」 水谷周 編 『アラブ民衆革命を考える』 国書刊行会、2011. 10、98-135.
 - 長沢栄治 「エジプト 1 月 25 日革命を考える—「腐敗」をキーワードにして—」 『中東研究』 第 511 卷 (2011. 6)、39-47.
 - 長沢栄治 「エジプト第二共和制への道は敷かれたか」 『現代思想』 第 39 卷 第 4 号 (2011. 3)、94-99.
 - 長沢栄治 「第一次世界大戦中のイギリスの秘密外交」 『歴史と地理 世界史の研究』 第 225 卷 (2010. 11)、47-49.
 - Nagasawa, Eiji. "Rashda: System of Irrigation and Cultivation in a Village in Dakhla Oasis." *Mediterranean World*, no. 20 2010.6: 1-46.
-

書評論文・書誌紹介

- 長澤栄治 「書評：北澤義之著『アラブ連盟』」 『イスラーム世界研究』 第 9 卷 (2016. 3)、344-346.
 - 長沢栄治 「書評：栗田禎子著『中東革命のゆくえ 現代史のなかの中東・世界・日本』 『経済』 第 234 号 新日本出版社 (2015. 3)、136-37.
-

口頭発表

- 長沢栄治 「アラブ現代史を見る視角～革命の四年間を振り返って」 日本ムスリム協会 日本ムスリム協会 2015 年 10 月 4 日.
 - 長沢栄治 「アズハルと 2011 年エジプト革命」 東京国際大学国際交流研究所 東京国際大学国際交流研究所 2015 年 5 月 30 日.
-

-
- 長沢栄治 「近代エジプトにおける革命の系譜～2011年革命への道」 日本中東学会 東京大学 2014年11月19日.
 - 長沢栄治 「アラブ革命の時代」 知の拠点セミナー (国立大学共同利用・共同研究拠点協議会) 京都大学 2014年9月19日.
-

一般向け記事

- 長沢栄治 「IS問題を考える—「文明」対「野蛮」の図式を超えて」 『市民の意見』 第154号 市民の意見30の会 (2016.2)、10-12.
 - 長沢栄治 「革命から四年後のエジプト」 『小日本』 第23号 坂の上の雲ミュージアム (2015.9)、16-18.
 - 長沢栄治 「エジプト革命の現在—反動の暗雲の下で」 『市民の意見』 第143号 市民の意見30の会 (2014.4)、24-25.
 - 長沢栄治 「エジプトに彷徨う「ナセルの亡霊」—7月3日が突きつけた課題」 『世界』 第849号 岩波書店 (2013.11)、243-47.
-

新聞記事

- 長沢栄治 「「テロとの戦い」の時代にひるまない—日本と中東」 『長周新聞』 2016年1月1日 朝刊、8、長周新聞社.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

主要な研究業績については、「研究業績説明書」に記したとおりであり、「現代エジプトの思想と政治変容に関する研究」の研究課題について今回の評価期間中に二冊の単著『アラブ革命の遺産 エジプトのユダヤ系マルクス主義者とシオニズム』(2012年)・『エジプトの自画像 ナイルの思想と地域研究』(2013年)としてまとめるとともに、2011年に始まるアラブ革命について『エジプト革命 アラブ世界変動の行方』(2012年)をはじめとして、26の論説・論文(アラビア語・英語を含む)を発表したほか、デジタル情報誌ASAHI中東マガジンに「アラブを見る眼」計17回の論説を連載した。また、19回の新聞(アラビア語紙含む)・TVなどでのインタビュー・解説・論評を行い、34回の研究会・セミナー・市民講座などで講演を行った。同様の社会貢献としては、日本国際問題研究所「グローバル戦略課題としての中東—2030年の見通しと対応」研究会(2013・14年度)の主査を務めた。学内では、大学院総合文化研究科地域文化専攻・大学院経済学研究科現代経済専攻において、大学院の教育に従事するとともに、教養学部後期課程においても演習授業を担当した。また、ASNETでもリレー授業の幹事教員となった。大学院の指導教員としては、期間中に修士課程6名、博士課程3名の学生を指導し、学位論文主査として2名の審査に当たった。また、本研究所に

においてはエジプト・オーストラリアからの訪問研究員を2名受け入れた。東洋文化研究所附属東洋学研究情報センターの副センター長を務め、センターの運営に当たった（2013～15年度）。社会活動としては、パレスチナ学生基金理事長としてパレスチナ難民学生の奨学金支援活動、および啓蒙活動に従事した。板橋区社会教育会館関係の市民平和団体の平和教育などの事業に協力した。

羽田正 HANEDA, Masashi

所属部門 西アジア部門

研究テーマ 世界史の再構築

個人ホームページ : <http://haneda.ioc.u-tokyo.ac.jp/index.html>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1976年 京都大学文学部史学科卒業

1978年 京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻修士課程修了

1983年 イラン学第3期博士（パリ第3大学）

【職歴】

1984年 日本学術振興会奨励研究員

1985年 日本学術振興会特別研究員

1986年 京都橘女子大学文学部助教授

1989年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1996年 ケンブリッジ大学東洋学部客員研究員

1997年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2000年 フランス CNRS 客員研究員

2002年 ケンブリッジ大学東洋学部客員研究員

2004年～2006年 東京大学東洋文化研究所副所長

2009年～2012年 東京大学東洋文化研究所所長

2012年～2014年 東京大学副学長・国際本部長

【受賞歴】

・1988年 日本オリエント学会奨励賞

・2002年 毎日出版文化賞（受賞対象『イスラーム辞典』）

・2006年 アジア太平洋賞特別賞（受賞対象『イスラーム世界の創造』）

・2010年 アジア太平洋出版協会出版賞学術書部門銀賞（アジア太平洋出版協会）

（受賞対象：Haneda Masashi ed., *Asian Port Cities 1600-1800. Local and Foreign Cultural Interactions* (Kyoto University Press & National University of Singapore Press, 2009)）

・2010年 ファーラービー国際賞（受賞対象：『イスラーム世界の創造』）

II. 取り組んでいるテーマ

歴史認識と世界史理解は、時代に応じて変化してゆく。その意味で、私たちの世界史理解

は常に問い直されねばならない。現代にふさわしい新たな世界史をどのように理解しどう描けばよいただろう。これはまず哲学的な問いであるが、同時に従来型の歴史学の研究方法への挑戦でもある。「ヨーロッパ」「イスラーム世界」「中国」など、これまでの歴史叙述の枠組みとなった概念や世界史を語る際の基本用語（国家、宗教、民衆、奴隷など）を国際的な場で再検討することからはじめ、世界史理解と叙述の全面的刷新、さらには文系学問の再構築をも視野に入れた研究活動を展開してゆきたい。

III. 班研究

- ・ 都市社会と宗教施設
- ・ 比較歴史学の課題と方法

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (S) 「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」 (2009～2013 年度)
- ・ 日本学術振興会 研究拠点形成事業 A. 先端拠点形成型 「新しい世界史／グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築」 (2014～2018 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本中東学会 (評議員)
- ・ 史学会
- ・ 東洋史研究会
- ・ 西南アジア研究会
- ・ Association pour l'avancement des e'tudes iraniennes
- ・ 三島海雲記念財団 (評議員) (2008～2015 年度)
- ・ 日本学術振興会 (特別研究員等審査会専門委員) (2004～2006, 2014 年度)
- ・ 日本学術振興会 (特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員) (2011, 2012 年度)
- ・ 日本学術振興会 (科研費委員会審査・評価第 1 部会委員) (2012, 2013 年度)
- ・ 日本学術振興会 (「課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業」事業委員会委員) (2013～2015 年度)
- ・ 日本学術会議 (連携会員) (2008～2013 年度)
- ・ 日本創生委員会 (日本創生委員会委員) (2012～2014 年度)
- ・ 日本創生委員会 (日本創生委員会タスクフォースグローバル人材育成 Table 委員) (2012～2014 年度)
- ・ 人間文化研究機構 (総合研究推進委員会委員) (2012～2015 年度)
- ・ 京都大学地域研究統合情報センター (共同研究課題選考委員会委員) (2012～2013 年度)
- ・ 奈良県 (「日本と東アジアの未来を考える委員会」委員) (2012 年度)
- ・ 文部科学省 (科学官) (2012～2014 年度)

- ・ 公益財団法人日本国際教育支援協会（理事）（2013～2015 年度）
- ・ 公益財団法人経団連国際教育交流財団（理事）（2013～2015 年度）
- ・ 国立教育政策研究所（高等学校学習指導要綱実施調査外部審査委員会委員）（2014 年度）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 総合文化研究科地域文化研究専攻
- ・ 人文社会系研究科アジア史専攻
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程	5	5	6
博士号取得者数	1	1	

2. 本学以外での教育活動

VII. 当該 6 年間の研究業績

著書

- ・ 羽田正 『“イスラム世界”概念的形成』 劉麗嬌 朱莉麗 訳 上海古籍出版社、2012. 12.（中国語）
- ・ 羽田正 『東インド会社とアジアの海（韓国語）』 李秀烈 具知瑛 訳 Sunin 出版、2012. 6.
- ・ 羽田正 『新しい世界史へー地球市民のための構想』 岩波書店、2011. 11.
- ・ 羽田正 『冒険商人シャルダン』 講談社、2010. 11

編著

- ・ 羽田正 編 『グローバルヒストリーと東アジア史』 東京大学出版会、2016. 3.
- ・ 羽田正 編 『輪切りで見る！パノラマ世界史① 世界史のはじまり』 大月書店、2016. 1.
- ・ 羽田正 編 『輪切りで見える！パノラマ世界史② さまざまな世界像』 大月書店、2015. 12.
- ・ 羽田正 編 『輪切りで見える！パノラマ世界史④大きく動きだす世界』 大月書店、2015. 8.
- ・ 羽田正 編 『輪切りで見える！パノラマ世界史⑤変わりつづける世界』 大月書店、2015. 6.
- ・ 羽田正 編 『海から見た歴史』 東京大学出版会、2013. 1.

翻訳

- 羽田正 著, 李秀烈 訳 『新しい世界史へ—地球市民のための構想— (韓国語)』 Sunin 出版、2014. 12.
 - 羽田正 著, Kim Nayeon Hyon Caiyeon 訳 『17-18 世紀アジアの港町』 Sunin 出版、2012. 1.
-

学術論文

- 羽田正 「新しい世界史と地域史」 羽田正 編 『グローバルヒストリーと東アジア史』 東京大学出版会、2016. 3、19-33.
 - 羽田正 「新しい世界史／グローバルヒストリーとは何か」 羽田正 編 『グローバルヒストリーと東アジア史』 東京大学出版会、2016. 3、1-15.
 - 羽田正 「新的世界史和地区史」 復旦大学文史研究院 編 『全球史、区域史与国別史』 中華書局、2015. 12、21-30. (中国語)
 - HANEDA, Masashi 「Japanese Perspectives on "Global History"」 『Asian Review on World Histories』 第 3 卷 第 2 号 (2015. 7)、219-234. [\[Link\]](#)
 - HANEDA, Masashi. "Key Challenges for Japanese Universities in the Age of Globalisation." *German-Japanese Symposium on the Role of Universities in the Age of Globalisation. Between Workforce Development and Personality Development, 8 October 2014/ Tokyo, Japan, Conference Proceedings: German Research and Innovation Forum Tokyo, 2015.6 : 3-7.*
 - 羽田正 「東インド会社という海賊とアジアの人々」 『東インド会社とアジアの海賊』 勉誠出版、2015. 4、1-35.
 - 羽田正 「東亜與世界史」 第 17 卷 『人文社会科学版』 澳門理工學報、2014. 、181-184.
 - 羽田正 「Global History, グローバルヒストリーと日本史」 第 20 卷 『岩波講座日本歴史月報 11』 岩波書店、2014. 、1-4.
 - 羽田正 「空間概念の歴史の意味とイスラームの東方への伝播」 国際歴史学韓国委員会 編 『世界史の中のイスラーム』 日韓文化交流基金、2014. 3、138-142.
 - 羽田正 「グローバル化社会と教養」 『教育研究』 第 1343 号 不味堂出版 (2014. 1)、14-17.
 - 羽田正 「東大教師が新入生にすすめる本」 『UP』 第 486 号 東京大学出版会 (2013. 4)、16-17.
 - 羽田正 「外向きの若者たち」 『月刊経団連 2013 年 3 月号』 日本経済団体連合会 (2013. 3)、49.
 - 羽田正 「「新しい世界史」とジェンダー史」 『ジェンダー史学』 第 8 号 ジェンダー史学会 (2012.)、163-164.
-

-
- 羽田正 「新しい世界史と大学の組織」 『学術の動向 2011年10月号』 (2011.10)、28-30.
 - 羽田正 「不対等的悖論——非西方言語于認識世界的意義」 『復旦學報 社會科學版』 第2卷 第2号 (2011.). (中國語)
 - 羽田正 「インド洋海域世界とイスラーム」 橋寺知子 森部豊 蛭川順子 新谷英治 編 『アジアが結ぶ東西世界』 関西大学出版部、2011.3、116-124.
-

書評論文・書誌紹介

- 羽田正 「セルデンの中国地図」 『公明新聞』 (2015.8).
-

口頭発表

- 羽田正 「自と他の弁証法：グローバルな人文社会科学は必要か」 第3回同志社大学グローバル地域文化学会 同志社大学 2015年12月9日.
 - HANEDA, Masashi. "World/Global History and the Positionality of Historians." Presented at the *Voyages, Migration and Maritime Silk Road, An International Symposium on China's Role in Global History*, Hong Kong Baptist University, December 7 2015.
 - 羽田正 「イスラーム教と「イスラーム世界」」 山梨科学アカデミー 2015年11月30日. [\[Link\]](#)
 - HANEDA, Masashi. "The Paradox of Asymmetry. Language as a Scale." Presented at the *Global History Collaborative, Workshop on Question of Scale in Global History*, EHESS, November 5 2015.
 - 羽田正 「Potential of Global History」 Global History Collaborative The University of Tokyo 2015年9月9日. (英語)
 - HANEDA, Masashi. "Global History and a New World History in Japan." Presented at the *Global History and Meiji Restoration*, University of Heidelberg, July 4 2015.
 - 羽田正 「新しい世界史とグローバルヒストリー」 山形大学歴史地理人類学会 山形大学 2015年6月15日.
 - HANEDA, Masashi. "Japanese Perspectives on Global History." Presented at the *3rd Congress of Asian Association of World Historians*, Nanyang Technological University, May 29 2015.
 - HANEDA, Masashi. "Japanese Perspectives on Global History." Presented at the *Institute of Japanese Studies, Seoul National University*, Seoul National University, April 2015.
 - HANEDA, Masashi. "Dialectics between the Self and the Other." Presented at the *IARU Presidents' Meeting*, The University of Tokyo, March 3 2015.
 - 羽田正 「アジア研究図書館の意味と使い方」 シンポジウム『むすび、ひらくアジア』、東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 東京大学 2015年1月.
-

-
- 羽田正 「新しい世界史とグローバルヒストリー」 Global History Collaborative 国立民族学博物館 2015年1月.
 - Haneda, Masashi. "Japanese Perspectives on Global History." Presented at the *Colloquium Global History*, Berlin Free University, December 8 2014.
 - Masashi, Haneda. "History of Japanese Historiography and “Global History”." Presented at the *Workshop “Is Global History Truly Global: Positionality of Historians”*, Humboldt University Berlin, December 5 2014.
 - 羽田正 「最近の中東・アフリカ情勢—イスラーム世界の内部分裂？」 TM研究会 三井住友銀行呉羽橋クラブ 2014年10月9日.
 - 羽田正 「現代世界と新しい世界史 地域世界概念は新しい世界史に有効か？」 2014年度第49回徳島県高等学校教育研究大会 地歴学会 徳島県立小松島高等学校 2014年8月22日.
 - 羽田正 「三木史学をめぐる—新しい世界史を中心に」 UTCMES 公開シンポジウム『悪としての世界史：三木亘の中東地域文化論』 東京大学駒場キャンパス 2014年4月20日.
 - 羽田正 「世界史と西アジア史」 新学術領域研究「西アジア文明」研究会 筑波大学東京 2014年3月9日.
 - 羽田正 「東アジアと世界史」 3研究所合同シンポジウム『東アジアから世界史を見る/考える』 京都大学人文科学研究所 2014年1月24日.
 - Haneda, Masashi. "Education of World/Global History in Japan and Japanese Scholarship." Presented at the *Graduate Conference on World/Global History*, Princeton University, December 19 2013.
 - 羽田正 「東アジアと世界史」 第3回復旦・プリンストン・東大国際学術会議「せめぎあう「世界史」：中国、日本、アメリカの視点から」 プリンストン大学 2013年12月16日.
 - 羽田正 「空間概念の歴史の意味とイスラームの東方伝播」 第13回日韓歴史家会議「世界史の中のイスラーム」 東北亜歴史財団（ソウル） 2013年10月26日.
 - Haneda, Masashi. "Age of Global Humanities." Presented at the *The 2013 ACHRC Annual Meeting, Spaces and Networks in Humanities*, The University of Western Australia, July 9 2013.
 - Haneda, Masashi. "Is the Framework of East Asia Effective in Designing New World/Global History?" Presented at the *Workshop East Asia in World History: Dialectics Between the National and Global*, Berlin Free University, June 22 2013.
 - 羽田正 「未来のための世界史」 中国社会科学院世界歴史研究所 2013年4月9日.
 - Haneda, Masashi. "Towards a History of the World for Global Citizens." Presented at the *Workshop on Maritime Perspectives in Eurasian and Indian Ocean World History: Towards a Global History*, Indian Ocean World Centre, McGill University, February 17 2013.
 - 羽田正 「招待講演. 新しい世界史へとその後。」 愛知県世界史教育研究会第30回記念大会. 愛知県世界史教育研究会 名古屋経済大学サテライトキャンパス 2012年12月26日.
-

-
- Haneda, Masashi 「Comments to Professor Conrad's presentation」 *Global History: Promises, Challenges and Limits*, 科研費共同研究「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」 東京大学東洋文化研究所 2012年10月6日. (英語) [[Link](#)]
 - 羽田正 「招待講演. 新しい世界史へ.」 北海道世界史教育研究会年次大会. 北海道世界史教育研究会 札幌大学 2012年9月29日.
 - 羽田正 「招待講演. 「新しい世界史へ」という運動.」 大阪大学歴史教育研究会特別例会. 大阪大学歴史教育研究会 大阪大学文学部本館 2012年4月7日.
 - 羽田正 「『新しい世界史へ』合評会に著者として出席. コメント・質疑に答える」 日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会・合評会. 日本学術会議 東京大学東洋文化研究所 2012年3月29日.
 - 羽田正 「報告「新しい世界史」とジェンダー史」 ジェンダー史学会第8回シンポジウム 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 2012年3月4日.
 - Haneda, Masashi. "2012.1.12. A New World History and its Limits?" Presented at the *UTCP International Meeting 2012 "ALL ENDS UP: Toward the Society of Co-existence"*, University of Tokyo, Komaba, January 12 2012.
 - 羽田正 「世界史と地域史」 国際学術会議「世界史／グローバル・ヒストリーの文脈における地域史：文化史の事例研究」 東京大学東洋文化研究所、復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア研究学部・研究所共催 東大小柴ホール 2011年12月19日.
 - Haneda, Masashi. "Introduction of the Concept of the 'Islamic World' into Japan and a World History in Japanese Style." Presented at the *Todai Forum 2011 in France, Workshop, Local History in the Context of World/Global History*, ENS at Lyon, October 20 2011.
 - Haneda, Masashi. "Modernity and World History." Presented at the *International conference "Sites of Modernity"*, Department of History, Chulalongkorn University, July 20 2011.
 - 羽田正 「新しい世界史の構想」 東京大学東洋文化研究所定例研究会 2011年6月23日.
 - Haneda, Masashi. "The Concept of the 'Islamic World' in Japan in the 1930s and its Significance on the Japanese Worldview." Presented at the *Department of East Asian Studies*, Princeton University, May 5 2011.
 - 羽田正 「コメンテーター「東アジアにおける知の流通—近代を中心に—」」 東大東洋文化研究所、京大人文科学研究所、成均館大学校共催 京都大学人文科学研究所 2011年1月28日.
 - 羽田正 「日本における「イスラーム世界」概念の形成と歴史研究」 全歴研研究紀要 東京 2010年5月、23-29.
-

一般向け記事

- 羽田正 「21 世紀世界のビジョンと日本の貢献—普遍化と地域性」 『戦後 70 年談話の論点』 日本経済新聞出版社 (2015.8)、238-250.
 - 羽田正 「世界史の文脈から考える平戸 (講演記録)」 『平戸—海外に開かれた自由な港市—』 平戸市教育委員会 (2011.)、22-26.
-

新聞記事

- 羽田正 「論点 世界史 国境越えた研究必要」 『読売新聞』 2016 年 1 月 22 日、論説面.
 - 羽田正 「インタビュー. 羽田正談新世界史構想」 『東方早報・上海書評』 2012 年 7 月 1 日.
 - 羽田正 「「共生の世界史」の創造へ」 『聖教新聞』 2012 年 5 月 2 日.
-

VIII. 当該 6 年間の活動報告

『「新しい世界史／グローバル・ヒストリーの方法と実践」に関する研究』は、現在、世界の歴史学研究において大きな潮流となっているグローバル・ヒストリーの先導的研究である。特に①『新しい世界史へ—地球市民のための構想』(岩波書店, 2011 年)は、当該研究の中核をなす著作で、『歴史学研究』(899 号、2012 年)などの有力誌(その他 6 誌)で書評に取り上げられており、Asian Review of World Histories (1-1、2013 年)では、本書が「世界史の研究と教育に、新しいマニフェストを提供する」として高く評価されている。また有力新聞各紙でも好意的に書評されている(朝日(2012 年 10 月 27 日)・読売(2012 年 3 月 4 日)・日経(2012 年 1 月 8 日)・毎日(2012 年 1 月 4 日))。プリンストン大学での講演“The Concept of the ‘Islamic World’ in Japan in the 1930s and its Significance on the Japanese Worldview”(2011 年 5 月)を始めとして、海外大学等で 10 数回もの招待講演を行っている。さらに、2014 年度から、独・仏・米の大学と共同で、新しい世界史／グローバルヒストリー研究の共同研究拠点構築事業を開始している。その独創的、かつ先端的な研究は、2010 年にアジア太平洋出版協会出版賞学術書部門銀賞、ファーラービー国際賞を受賞した。

教育に関しては、大学院総合文化研究科と人文社会系研究科で、「世界史研究の方法」を担当し、主査として 3 人、副査として 4 人の学位論文審査を行った。

2010~11 年度に東洋文化研究所長、2012~14 年度に東京大学副学長・国際本部長を務めた。また、社会貢献として、文部科学省科学官(2013~14 年度)、科学技術・学術審議会学術分科会臨時委員(2015 年度)、中央教育審議会専門委員(2015 年度)、総理大臣官邸「20 世紀を振り返り 21 世紀の世界秩序と日本の役割を構想するための有識者懇談会(21 世紀構想懇談会)」委員(2015 年 2 月~8 月)を務めた。

柘屋友子 MASUYA, Tomoko

所属部門 西アジア部門

研究領域 イスラーム地域における美術と社会



I. 略歴

【学歴】

- 1986年 東京大学文学部美術史学専修課程卒業
- 1989年 ニューヨーク大学大学院美術研究所修士課程修了
- 1990年 東京大学大学院人文社会系研究科美術史学専攻修士課程修了
- 1997年 ニューヨーク大学大学院美術研究所博士課程修了

【職歴】

- 1992年～94年 メトロポリタン美術館イスラーム部ハゴップ・ケヴォルキアン学芸研究員
- 1997年～99年 国立民族学博物館第2研究部（のち博物館民族学研究部）助手
- 1999年 東京大学東洋文化研究所 助教授
- 2007年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

II. 取り組んでいるテーマ

西アジア、中央アジア、北アフリカにおけるイスラーム時代の美術史を、物質資料及び文字資料に基づいて研究・調査を行っている。特に13～14世紀のモンゴル時代における文化の東西交流に関心を持つ。

III. 班研究

- ・ イスラーム美術の諸相

IV. 外部資金による研究

日本学術振興会科学研究費研究成果公開促進費学術図書（2013年度、『イスラームの写本絵画』）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本中東学会
- ・ 日本オリエント学会（理事2010年4月～2014年5月；監事2014年5月～）
- ・ 美術史学会
- ・ Historians of Islamic Art Association
- ・ 東洋陶磁学会

- ・ 岡山市立オリエント美術館との研究協力協定（2007年2月～）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 「イスラーム美術史」（大学院人文社会研究科基礎文化研究専攻美術史学専門分野、文学部美術史学専修課程共通）
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程			
博士課程	1		
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 東京外国語大学（2004～2006, 2013年度）

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- ・ 榊屋友子 『イスラームの写本絵画』 名古屋大学出版会、2014. 2.
- ・ フェアチャイルド・ラッグルズ 『図説イスラーム庭園』 木村高子 訳 榊屋友子 監修原書房、2012. 9.

学術論文

- ・ 榊屋友子 「スルターン・アフマド・ジャラーイル詩集の彩飾画」 第1428巻 『國華』 國華社、2014. 10、9-21.
- ・ Masuya, Tomoko. "Seasonal Capitals with Permanent Buildings in the Mongol Empire." *Turco-Mongol Rulers, Cities and City Life*. Edited by D. Durand-Guédy. Leiden: Leiden, 2013.12 : 223-56.
- ・ 榊屋友子 「アブー・ナスル・アル＝バスリー作押し型装飾鉛釉断片」 『國華』 第1416巻 國華社（2013. 10）、35-37.
- ・ 榊屋友子 「アラビア文字とイスラーム美術」 須藤寛史 編 『銘文に秘められたオリエントの世界』 岡山市立オリエント博物館、2012. 11、28-29.
- ・ 榊屋友子 「獨門焼—イスラーム的神祕虹彩：中東和近東的虹彩陶器史」 嚴雅美 訳 『典藏』（2012. 7）.

-
- 榊屋友子 「トルコ・イランのタイル」 『武庫川女子大学トルコ文化研究センターシルクロード建築文化展示室セラミック室』 武庫川女子大学トルコ文化研究センター (2011.10)、5-41.
 - 榊屋友子 「イスラーム時代のペルシアの絵画」 『栄光のペルシア』 山川出版社 (2010.8)、120.
 - 榊屋友子 「12~14世紀イランのカーシャーン製陶器における銘文」 『美術史論壇』 第30号 (2010.6)、303-352.
-

口頭発表

- 榊屋友子 「大モンゴル『シャーナーメ』写本の挿絵を読む」 名古屋大学大学院研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター公開セミナー 2015年11月14日.
 - 榊屋友子 「大原美術館所蔵のフーケ・コレクション、イスラーム陶器片概要」 第6回コプト・イスラーム物質文化公開研究会「エジプト・イスラーム美術の諸相」 2015年10月26日.
 - 榊屋友子 「イスラーム美術と文様」 愛知芸大芸術講座 愛知県立芸術大学 2015年10月6日.
 - 榊屋友子 「イスラーム・タイルの世界」 第88回UTalk 2015年7月11日.
 - 榊屋友子 「児島虎次郎とフーケ・コレクションのイスラーム陶器片」 特別展「児島虎次郎は見た！ オリエント文化 東西の架け橋」 関連シンポジウム「児島虎次郎の見た世界」 岡山市立オリエント美術館 2014年12月20日.
 - 榊屋友子 「大モンゴル『シャーナーメ』写本の挿絵を読む」 復旦大学文史研究院、プリンストン大学東アジア学部、東京大学東洋文化研究所共催 「宗教、文学と画像 国際シンポジウム」 2014年12月15日.
 - Masuya, Tomoko. "Images of Iranian Kingship on the Ilkhanid Tiles,." Presented at the *The Idea of Iran: post-Mongol politics and the reinvention of Iranian identities*, SOAS, University of London, November 22 2014.
 - 榊屋友子 「陶器の華：イズニクの器とタイル」 さくら一れ (日本トルコ女性交流会) 2014年11月2日.
 - 榊屋友子 「イスラーム宗教建築とその周辺」 2014年度京都国立博物館第81回夏期講座 京都国立博物館 2014年8月1日.
 - 榊屋友子 「エジプトのイスラーム美術：魅力と重要性」 第1回エジプト・コプト&イスラーム物質文化研究会 2014年5月14日.
 - 榊屋友子 「イスラーム美術とラスター彩タイルの魅力」 INAX ライブミュージアム 2013年11月16日.
-

-
- 榊屋友子 「大原美術館所蔵フーケ・コレクションのイスラーム陶片について」 シンポジウム「大原美術館古代エジプト・西アジア関係資料について考える」 大原美術館 2013年9月22日.
 - Tomoko, Masuya. "The Study of Islamic Art in Japan,." Presented at the *WIAS International Seminar "Islamic Art in East and Southeast Asia,,"* WASEDA University, January 12 2013.
 - 榊屋友子 「アラビア文字とイスラーム美術」 「銘文に秘められたオリエントの世界」 特別講演会 岡山市立オリエント美術館 2012年12月15日.
 - 榊屋友子 「イラン的な場面が描かれた刺繍ショールについて」 第3回シルクロード研究会 2012年12月8日.
 - 榊屋友子 「关于伊斯兰写本绘画：鉴赏的趣味（曾诚訳）」 外国国情研究系列学術講座3 華中科技大学外国語学院 2012年4月1日.
 - 榊屋友子 「文系研究者という仕事」 豊島岡女子学園 2012年3月16日.
-

一般向け記事

- 榊屋友子 学術協力「もっと知りたい、宗教のこと。」 『pen』 第383巻(2015.6)、82-83.
 - 榊屋友子 取材協力「美しきイスラームという場所 2015」 『TRANSIT』 特別編集号(2015.6)、68-73.
 - 榊屋友子 「読書案内：イスラーム美術」 『歴史と地理』 第669巻 山川出版社(2013.11)、33-36.
 - 榊屋友子 「ラスター彩とイスラームの美術 ほか4項目」 『INAX ライブミュージアム「世界のタイル博物館」コレクション、ラスター彩タイル：天地水土の輝き』 INAX ライブミュージアム(2013.9)、2-16.
 - 牧野洋子 榊屋友子 監修「コーヒーと世界遺産4：贅の限りを尽くした、コーヒーカップ受け。トプカプ宮殿博物館」 『コーヒブレイク』 社団法人全日本コーヒー協会(2013.7)、22-23.
 - 榊屋友子 協力「イスラムとは何か。」 『pen Books』 (2013.3)、82-93.
 - 榊屋友子 「イスラーム陶器史研究におけるデータ収集」 『明日の東洋学』 第28号 東洋文化研究所(2012.10)、2-5.
 - 榊屋友子 協力「完全保存版 いまこそ知りたい、イスラム」 『pen plus』 阪急コミュニケーションズ(2012.5)、94-98.
 - 榊屋友子 監修「ダマスカス国立博物館」 『週刊一度は行きたい世界の博物館』 朝日新聞出版(2012.1)、24.
 - 榊屋友子 監修「メトロポリタン美術館」 『週刊一度は行きたい世界の博物館』 第14巻 朝日新聞出版(2011.11).
-

-
- 榊屋友子 監修「ルーブル美術館 II」 『週刊一度は行きたい世界の博物館』 第9巻 朝日新聞出版 (2011.10)。
 - 榊屋友子 監修「トプカプ宮殿博物館」 『週刊一度は行きたい世界の博物館』 第7巻 朝日新聞出版 (2011.9)。
 - 榊屋友子 監修「ベルリン美術館」 『週刊一度は行きたい世界の博物館』 第5号 朝日新聞出版 (2011.9)。
 - 榊屋友子 協力「完全保存版 いまこそ知りたい、イスラム」 『pen』 阪急コミュニケーションズ (2011.8)、88-93。
-

新聞記事

- 榊屋友子 「日本で見えるペルシャの美 (「4で知るアート」、4回連載)」 『朝日新聞』 2014年、3。
 - 榊屋友子 「イスラムの天空世界 (12回連載)」 『時事通信社』 2014年。
 - 榊屋友子 「杯 鎖帷子を着た十字軍兵士 (地中海の息吹—ルーヴル美術館展から—4)」 『日本経済新聞』 2013年8月、1。
 - 榊屋友子 「イスラムの動物十選 (10回連載)」 『日本経済新聞』 2012年。
-

VIII. 当該6年間の活動報告

研究業績としては、イルハーン朝時代 (13-14世紀) のイランにおけるモンゴル人君主に関連する建築及び美術、大原美術館所蔵のイスラーム陶片調査の結果、イスラーム写本絵画についての論文を発表すると共に、長年の研究を『イスラームの写本絵画』として1冊の著書にまとめ、出版した (2014年)。ラッグルス著木村高子訳『図説イスラーム庭園』の監修を行った (2012年)。武庫川女子大学トルコ文化研究センター所蔵のイスラーム・タイルの調査を行い、図録を執筆した。班研究「イスラーム美術の諸相」の一環として、イスラーム考古学者真道洋子氏と共に継続的に「コプト・イスラーム物質文化研究会」を開催した。

アメリカ、イギリス、日本においていくつかの国際的なイスラーム美術史のシンポジウムに招聘され英語で発表を行ったほか、中国、台湾でも招聘講演を行った。名古屋大学、愛知県立芸術大学など国内大学でも講演を行った。

東京大学文学部美術史学専修課程・東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究先行美術史学専門課程にてイスラーム美術史についての美術史学特殊講義を行ったほか、実践女子大学、東京外国語大学、上智大学、品川シルバー大学いきいきコースでもイスラーム美術史の講義を担当した。

期間中に東洋文化研究所研究企画委員長を継続して努め、学内委員としては大学委員を務めた (2015年度)。日本オリエント学会の理事および監事として活動した。

岡山市立オリエント美術館との共同研究者として「銘文に秘められたオリエントの世界」

展に協力し、常滑市世界のタイル博物館では「ラスター彩とイスラームの美術」展の作品選定、図録執筆を行った。上記2美術館、大原美術館、京都国立博物館において講演を行った。イスラーム美術史に関する一般向け連載を日本経済新聞、朝日新聞、時事通信社にて行った。豊島岡女子学園にて中高生向けに文系研究者としての職業について講演を行った。

鎌田 繁 KAMADA, Shigeru

所属部門 西アジア部門

研究テーマ イスラーム宗教思想の構造と展開



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1974年 東京大学文学部第一類(文化学)卒業

1976年 東京大学大学院人文科学研究科宗教学宗教史学専門課程修士課程修了

1977年～1982年 マッギル大学イスラーム学研究所留学

【職歴】

1982年～1984年 東京大学文学部 助手

1984年 東京外国語大学非常勤講師

1984年 東京大学東洋文化研究所 助教授

1989年～1990年 日本学術振興会カイロ研究センター派遣

1995年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2000年～2001年 ハーヴァード大学近東言語文明学科客員研究員

2006年～2008年 東京大学東洋文化研究所副所長

【受賞歴】

1983年 第5回日本オリエント学会奨励賞（社団法人日本オリエント学会）

1984年 第17回流沙海西奨学会賞（流沙海西奨学会）

II. 取り組んでいるテーマ

シーア派の神秘思想を中心にイスラームの思想を研究してきた。神秘思想（イルファーン）の世界観・人間（靈魂）観を、主にアラビア語の文献資料に基づいて考察している。クルアーン解釈と思想表現がどのように結びついているかにも関心をもつ。

具体的な課題

- (1) モッター・サドラーのクルアーン解釈の方法と特徴の解明
- (2) モッター・サドラーの人間理解の思想的、比較思想的探求
- (3) イスラームの思想を統合的に把握するための視点の構築
- (4) イスラームの思想的テキストの翻訳

Ⅲ. 班研究

- ・ イスラーム思想の文献学的研究

Ⅳ. 外部資金による研究

Ⅴ. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本オリエント学会（会長） 2012～2016 年度
- ・ 日本宗教学会（評議員・理事）
- ・ 日本イスラム協会（評議員）
- ・ 西南アジア研究会
- ・ 比較思想学会
- ・ 井筒ライブラリー編集委員

Ⅵ. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 人文社会系研究科アジア文化研究イスラム学（1985-2014 年度）
- ・ 文学部宗教学・宗教史学（2008, 2012 年度）
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程			
博士課程			1
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 長崎大学歯学部（2004-2015 年度）
- ・ 京都大学文学研究科・文学部（2014 年度）
- ・ 東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科（2002, 04, 06, 08, 10, 12 年度）

Ⅶ. 過去 3 年間の研究業績

【学術論文】

鎌田繁 「イスラームと仏教」 『東洋学術研究』 53-2 東洋哲学研究所（2014）、25-51.

鎌田繁 「イスラーム思想と井筒「東洋哲学」」 『宗教研究』 87 別冊 日本宗教学会（2014）、36-37.

鎌田繁 「イスラーム神秘主義と流出論」 市川裕 編 『世界の宗教といかに向き合うか（月本昭男先生退職記念献呈論文集第 1 巻）』 聖公会出版、2014、103-119.

鎌田繁 「他者との共生とイスラーム」 『国際哲学研究』 別冊 3 東洋大学国際哲学研究センター (2013)、101-112.

鎌田繁 「聖典解釈と哲学 イスラーム神秘思想の営み」 『比較思想研究』 第 39 卷 比較思想学会 (2012)、143-148.

鎌田繁 「マハディーとマイトレヤ (弥勒仏) - イスラームと仏教における救済者 -」 『一神教学際研究』 第 8 卷 同志社大学一神教学際研究センター (2012)、63-79.

Kamada, Shigeru. "Mahdi and Maitreya (Miroku): Saviors in Islam and Buddhism." *Journal of the Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions*, Kyoto: Center for the Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions, Doshisha University 8 2012: 59-76.

鎌田繁 『『存在認識の道』一井筒東洋哲学を支えるもの』 坂本勉 松原秀一 編 『井筒俊彦とイスラーム』 慶應義塾大学出版会、2012、379-388.

【事典等項目】

鎌田繁 「イスラーム概説」 世界宗教百科事典編集委員会 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012、162-165.

鎌田繁 「シーア派」 世界宗教百科事典編集委員会 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012、182-185.

鎌田繁 「イスラーム文化圏」 世界宗教百科事典編集委員会 編 『世界宗教百科事典』 丸善出版、2012、629.

森本一夫 MORIMOTO, Kazuo

所属部門 西アジア部門

研究領域 ムスリム諸社会の宗教社会史

個人ホームページ : <http://homepage3.nifty.com/morikazu/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1992年 東京大学文学部第二類(史学)卒業

1995年 東京大学大学院人文社会系研究科東洋史学専攻修士課程修了

1996年 東京大学大学院人文社会系研究科アジア文化研究専攻博士課程退学

1996年9月～1998年9月 文部省アジア諸国等派遣留学生 (受入：テヘラン大学人文学部)

2004年 博士(文学)(東京大学)

【職歴】

1996年 東京大学東洋文化研究所 助手

2001年 北海道大学大学院文学研究科 助教授

2004年 東京大学東洋文化研究所 助教授

2007年～現在 東京大学東洋文化研究所 准教授

2010年1月 プリンストン大学近東学部 Visiting Fellow

【受賞歴】

2008年 イラン政府、第一回ファーラービー国際賞

(受賞対象：『サイド・系譜学者・ナキーブ』東京大学博士学位論文、2004)

II. 取り組んでいるテーマ

「ライフ・ワーク」としているのは、イスラーム教の預言者ムハンマドの一族とされる人々、すなわち「サイド」「シャリーフ」などと呼ばれる人々に関する研究である。彼らの姿を解明することを通して、イスラーム教という可変的な宗教伝統がとってきた多様なあり方や、人間社会において血統という観念が受けてきた扱いについて、よりよく理解したいと思っている。

また、主にアラブの侵入とモンゴル侵入に挟まれた時期のイラン高原の宗教社会史・文化史にも関心がある。

現在取り組んでいる具体的な課題：

- ・9世紀後半から15世紀の中東地域におけるサイド／シャリーフ系譜学に関する社会史的研究。

- ・ サイド／シャリーフの特殊性を説く「美質もの」文献を通した、彼らをめぐる言説の研究。
- ・ サイド／シャリーフ研究のよりよいあり方に関する模索。
- ・ ペルシア語が話されていた 12 世紀後半の東イランでアラビア語の素養が帯びていた意義についての研究。

III. 班研究

- ・ ペルシア語文化圏研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (C) 「イスラーム法から見たムハンマド一族」 (2012～2014 年度)

V. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 史学会
- ・ 日本オリエント学会 (理事・編集委員長)
- ・ 日本中東学会 (理事)
- ・ 日本イスラム協会 (監事)
- ・ The International Society for Iranian Studies
- ・ Middle East Studies Association of North America
- ・ 上智大学アジア文化研究所共同研究所員 (2008 年度より)
- ・ 慶應義塾大学言語文化研究所共同研究所員 (2010～13 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 大学院人文社会系研究科アジア史専攻
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	2	1	
博士課程	1	2	2
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

- ・ 九州大学大学院人文科学府 (2014 年度)

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- 近藤和彦ほか11名 森本一夫含む『『世界の歴史』(81 山川世 A308)』 山川出版社、2014. 4.
 - 森本一夫 『聖なる家族：ムハンマド一族』 山川出版社、2010. 2.
-

編著

- Morimoto, Kazuo, ed. *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: Living Links to the Prophet*. Abingdon, Oxon: Routledge, 2012.7.
-

学術論文

- 森本一夫 「ティムール家のアリー裔血統主張に関する新証拠」 『『オリエント』』 第57巻 第2号 (2015. 3).
 - Morimoto, Kazuo. "Keeping the Prophet's Family Alive: Profile of a Genealogical Discipline." *Genealogy and Knowledge in Muslim Societies: Understanding the Past*. Edited by Sarah Bowen Savant and Helena de Felipe: Edinburgh: Edinburgh University Press, 2014.4 : 11-23.
 - 森本一夫 「ナーセル・ホスロウとその《旅行記》：屋上に牛はいたのか」 長谷部史彦 編 『地中海世界の旅人：移動と記述の中近世史』 慶應義塾大学出版会、2014. 4、237-256.
 - Morimoto, Kazuo. "The Prophet's Family as the Perennial Source of Saintly Scholars: Al-Samhudi on 'Ilm and Nasab." *Family Portraits with Saints: Hagiography, Sanctity, and Family in the Muslim World*. Edited by Catherine Mayeur-Jaouen and Alexandre Papas: Berlin: Klaus Schwarz Verlag and École des Hautes Études en Sciences Sociales, 2014.1 : 106-124.
 - `Abd Allah b. Muhammad Ibn Katila Husayni; Kazuo Morimoto, ed. "Bayan al-Ad'iyā." *Jashn-namah-i Ustad Sayyid Ahmad Ishkiwari*. Edited by Rasul Ja'fariyan: Tehran: Nashr-i `Ilm, Qom: Kitabkhanah-i Takhassusi-i Tarikh-i Islam wa Iran and [Tehran:] Khanah-i Kitab-i Tihran, 2013.9 : 959-1004.
 - Morimoto, Kazuo. "The Hui People and the Muslim World: A Study of an Arabic Inscription Text in Henan Province." *East Asia in the Context of World/Global History* (2012.12): 391-392.
 - 森本一夫 「回民和伊斯兰世界：从河南省某阿拉伯语碑文说起」 『世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア』 (2012. 12)、98-105. (中国語)
 - 森本一夫 「回民とイスラーム世界：河南省のあるアラビア語碑文の検討から」 『世界史/グローバル・ヒストリーにおける東アジア』 (2012. 12)、219-227.
-

-
- 森本一夫 「「イスラームを知る」という隘路」 福井憲彦, 田尻信壹 編 『歴史的思考力を伸ばす世界史授業デザイン：思考力・判断力・表現力の育て方』 明治図書出版、2012. 9、37-42.
 - Morimoto, Kazuo. "Introduction." *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet*. Edited by Kazuo Morimoto: London and New York: Routledge, 2012.5 : 1-12.
 - Morimoto, Kazuo. "How to Behave toward Sayyids and Sharīfs: A Trans-sectarian Tradition of Dream Accounts." *Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet*. Edited by Kazuo Morimoto: London and New York: Routledge, 2012.5 : 15-36.
 - 中西竜也, 森本一夫, 黒岩高 「17・18世紀交替期の中国古行派イスラーム：開封・朱仙鎮のアラビア語碑文の検討から」 『東洋文化研究所紀要』 第162巻 (2012. 3)、120 (223)–55 (288).
 - 森本一夫 「ムハンマド一族の研究」 『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究』 第82巻 (2012. 3)、119-123.
 - Khakpur, Kazuo Morimoto; `Ali trans. "Awwalin Neshan az Siyadat-i Safawiyan dar Kutub-i Ansab: Madraki Jadid barayi Iddi`a-yi pish-Safawi-yi Siyadat-i Safawiyan." *Payam-i Baharistan* 11 (2nd series; 3rd year) 2011.9: 241-263.
 - 森本一夫 「私は貧しいサイドです：フムス受給資格証明書書式二通」 近藤信彰 編 『ペルシア語文化圏史研究の最前線』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2011. 3、99-111.
 - Morimoto, Kazuo. "The Earliest `Alid Genealogy for the Safavids: New Evidence for the Pre-dynastic Claim to Sayyid Status." *Iranian Studies* 43-4 2010.10: 447-469.
 - Kazu'u Murimutu. "Darkhwast-i Shakhshi: Ahamiyyat-i Intishar-i Athar-i Ibn-i Funduq dar Zaminah-i Adabiyyat-i `Arabi." *Guzarish-i Mirath* 39 2010.6: 74-76.
-

書評論文・書誌紹介

- Morimoto, Kazuo. "Arnold E. Franklin, *This Noble House: Jewish Descendants of King David in the Medieval Islamic East*, Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 2013, xv + 297 pp." *International Journal of Asian Studies* 11, no. 2 (2104.7): 211-213.
 - Morimoto, Kazuo. "Stephennie Mulder, *The Shrines of the `Alids in Medieval Syria: Sunnis, Shi`is and the Architecture of Coexistence*, Edinburgh: Edinburgh University Press, 2014, xiv, 297 pp." *Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 77, no. 3 (2014.10): 577-579.
 - 森本一夫 「新刊紹介：堀池信夫（総編集），堀川徹（編）『知の継承と展開：イスラームの東と西』 知のユーラシア 2, 明治書院, 2014年」 『『オリエント』』 第57巻 第1号 (2014. 9)、95-96.
-

事典等項目

- Morimoto, Kazuo. "Tadwin, al-." *Encyclopaedia Iranica*. Edited by Ehsan Yarshater : online publication, 2016.1 : online. [\[Link\]](#)
 - Morimoto, Kazuo. "Ketāb al-naqž." *Encyclopaedia Iranica*. Edited by Ehsan Yarshater : Online publication, 2015.3 : online.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

①『Sayyids and Sharifs in Muslim Societies: The Living Links to the Prophet』（2012年）は広く預言者一族を主題とする学際的な論集である。同主題における世界初の本格的な書籍として世界的に広く利用されている（Worldcat でカバーされている範囲で 111 の所蔵機関）。論集という書評に取りあげられにくい形態であるにもかかわらず、Bulletin of the School of Asian and African Studies や International Journal of Asian Studies, Arab Studies Quarterly など書評に取りあげられ、預言者一族研究を一つの研究領域として広く認知させる業績として高く評価された。②『The Prophet's Family as the Perennial Source of Saintly Scholars: Al-Samhudi on 'Ilm and Nasab』（in Catherine Mayeur-Jaouen and Alexandre Papas (eds.), Family Portraits with Saints: Hagiography, Sanctity, and Family in the Muslim World, 2014年）は新発見の重要史料の紹介と研究である。イラン研究の代表的な国際誌である Iranian Studies に掲載された。M. Farhat が同誌に 2014 年に発表した論文など、サファヴィー朝の初期史や同王朝の統治イデオロギーに関する研究においては言及が当然視される業績となっている。2011、12 年にはイランでペルシア語訳が刊行された。③『The Earliest 'Alid Genealogy for the Safavids: New Evidence for the Pre-dynastic Claim to Sayyid Status』（Iranian Studies, 2010年）は、森本の預言者一族に関する研究に注目したフランスの編者たちの依頼を受けて執筆した論文。フランスの社会科学高等研究院が刊行する叢書の一冊に収録された。

森本の預言者一族研究は、一義的には国際的なイスラーム研究の発展に資することを志向するものであるが、世界に広く分布する預言者一族の人々、またそれを取り巻くイスラーム教徒の間でも読者を獲得しており、彼らが預言者一族という身近な聖なる存在をより客観的に認識しようとする際の一つのよりどころとなっている。このことは、森本に直接 e-mail など寄せられる質問や、インターネット上での森本の研究への言及などから明らかである。客観的な根拠を示すのは難しいが、人間とその社会に対する認識枠組みのあり方を徐々にではあっても刷新していくという、人文学の社会的な役割を果たしつつあると言える。

新世代アジア部門

菅 豊 SUGA, Yutaka

所属部門 新世代アジア部門

研究領域 東アジアの自然と文化

個人ホームページ : <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~suga/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1986年 筑波大学第一学群人文学類卒業

1989年 修士（文学）（筑波大学）

1991年 筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科退学

1998年 博士（文学）（筑波大学）

【職歴】

1991年4月 国立歴史民俗博物館研究部 助手

1996年1月 文部省在外研究員（華東師範大学中文系：中国）

1996年10月 北海道大学文学部 助教授

1999年10月 東京大学東洋文化研究所 助教授

2001年1月 中央民族大学民族学與社会学学院客員教授（中国）

2002年7月 ハーバード大学イェンチン研究所 Visiting Scholar（アメリカ）

2006年12月 復旦大学芸術人類学與民間文学研究中心特邀研究員（中国）

2007年4月 東京大学東洋文化研究所 准教授

2007年9月～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2012年11月 山東大学文化遺産研究院流動崗 教授（中国）

2014年4月～2016年3月 東京大学東洋文化研究所副所長

2014年12月 復旦大学文史研究院訪問学者（中国）

【受賞歴】

1993年 第13回日本民俗学会研究奨励賞受賞（日本民俗学会）

II. 取り組んでいるテーマ

日本と中国をフィールドに、地域社会における自然資源や文化資源の利用や管理のあり方、コモンズ論、無形文化遺産の管理論、伝統文化のトランス・ナショナリズムなどについて民俗学の方面から研究している。また、日本における公共民俗学の創出に関する理論的研究も

行っている。

具体的課題

「闘牛—人間幸福のための文化資源の順応的管理に関する研究」

「錦鯉—日本の伝統文化の創造と全球的拡散、トランス・ナショナリズムに関する動態的研究」

「中国における創られた動物に関する研究—あるべき自然が投影された動物たち—」

「根芸—人為と非人為の狭間に生まれる文化・花鳥魚虫文化の本質と構築に関する研究」

『奇』の文化誌的研究」

「闘コオロギに見る中国漢人の自然観の研究」

「日本のサケ民俗と北方文化とのシンクレティズムの研究」

「宗教者、とくに修験道と民俗文化の関連性の研究」

「河川漁撈技術と環境に関する研究」

『水辺』の環境民俗学的研究」

「コモンズとしての『水辺』の研究」

「総有制—日本的コモンズ理論的研究」

「中国の土地資源利用と所有に関する研究」

「民俗学の実践—公共民俗学の可能性と課題に関する研究」

Ⅲ. 班研究

- ・ 東アジアにおける「民俗学」の方法的課題

Ⅳ. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B)「現代市民社会における「公共民俗学」の応用に関する研究—「新しい野の学問」の構築—」(2013～2015 年度)
- ・ 基盤研究 (B)「現代市民社会に対応する公共民俗学創成のための基礎研究」(2010～2012 年度)

Ⅴ. 学外活動 (学会、委員、社会活動等)

- ・ 日本学術会議 (連携会員 2014～2020 年)
- ・ 日本民俗学会 (理事・評議員 2004～2006 年、2010～2012 年)
- ・ American Folklore Society
- ・ 中国民俗学会 (China Folklore Society)
- ・ 現代民俗学会 (運営委員 2008～2012 年、2014～2016 年)
- ・ 日本民具学会
- ・ 生き物文化誌学会 (評議員 2009～2015 年、常任理事 2015～2019 年)

- ・ 日本応用動物行動学会（評議員 2002～2013 年）
- ・ ヒトと動物の関係学会
- ・ 在来家畜研究会
- ・ 山東大学主幹《民俗研究》編輯委員会委員（2015 年～現在）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 通文化研究基礎論（大学院総合文化研究科地域文化研究専攻）
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	1	1	1
博士課程			
博士号取得者数			

2. 本学以外での教育活動

お茶の水女子大学非常勤講師（2013 年）

上智大学文学部非常勤講師（2015 年）

首都大学東京人文科学研究科非常勤講師（2015 年）

VII. 当該 6 年間の研究業績

著書

- ・ 菅豊 『「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会实践をつなぐために—』 岩波書店、2013. 5.
- ・ 福田アジオ、菅豊、塚原伸治 『「二〇世紀民俗学」を乗り越える—私たちは福田アジオとの討論から何を学ぶか』 岩田書院、2012. 12.

編著

- ・ 岩本通弥、菅豊、中村淳 編 『民俗学の可能性を拓く—「野の学問」とアカデミズム—』 青弓社、2012. 11.
- ・ 菅豊・三俣学・井上真 編 『ローカル・コモンズの可能性—自治と環境の新たな関係—』 ミネルヴァ書房、2010. 6.

報告書

- タイ国日本研究国際シンポジウム 2014 論文報告書編集委員会編 『タイ国日本研究国際シンポジウム 2014 論文報告書』 「日本文化のトランスナショナリズム—グローバル化時代における文化研究のひとつの方法—」(3-20) を分担執筆、チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科日本語講座、2015.
 - 研究代表者福田アジオ編 『中国江南山間地域の民俗文化とその変容—浙江省江山市廿八都と龍遊県三門源』 「古村開発と地域文化の変容—三門源—」(275-281) を分担執筆、学術振興会科学研究費補助金(基盤(A)、海外学術調査、2011).
 - 研究代表者福田アジオ編 『中国江南山間地域の民俗文化とその変容—浙江省江山市廿八都と龍遊県三門源』 「古鎮開発と地域文化の変容—廿八都—」(99-120) を分担執筆、学術振興会科学研究費補助金(基盤(A)、海外学術調査、2011).
 - 研究代表者陳玲編 『中越地震後の山古志への「帰村」に関する民俗学的研究』 「越後の錦鯉と角突き文化」(91-105) を分担執筆、学術振興会科学研究費補助金(基盤(C)、2010).
-

学術論文

- 菅豊 「『日本』民俗学以前の事—一九世紀イギリスにおける folklore の誕生と日本—」 桑山敬己 編 『日本はどのように語られたか—海外の文化人類学的・民俗学的日本研究—』 昭和堂、2016.3、267-345. [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「闘牛を育てる、『伝統』を育てる」 『FIELDPLUS』 第15号 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2016.1)、18-19.
 - Suga, Yutaka. "Historical Changes in Communal Fisheries in Japan." *Community, Commons and Natural Resource Management in Asia*. Edited by Haruka Yanagisawa: Singapore: National University of Singapore Press, 2015.9 : 113-135.
 - 菅豊 「中国における「遺産」政策と現実との相克—ユネスコから「伝統の担い手」まで」 鈴木正崇 編 『アジアの文化遺産—過去・現在・未来』 慶應義塾大学出版会、2015.8、269-307.
 - Suga, Yutaka. "Những chuyên gia lợi dụng thảm họa - Quản trị hợp đồng (collaborative governance): lí tưởng và hiện thực." *Bài giảng chuyên đề nghiên cứu Nhật Bản - Thảm họa và Phục hưng*. Edited by Võ Minh Vũ: Nhà xuất bản Thế giới, 2015.4 : 55-73.
 - 菅豊 「フィールドワークから現実ができる」 床呂郁哉 編 『人はなぜフィールドに行くのか—フィールドワークへの誘い』 東京外国語大学出版会、2015.3、188-207.
 - 菅豊 「自然資源は誰のものか?—コモンズの思想」 福田アジオ 編 『知って役立つ民俗学—現代社会への40の扉』 ミネルヴァ書房、2015.3、132-137.
-

-
- 張曉鳴・菅豊 「《地域資源與歴史的的正統性—從伝説到歴史》問答、評議與討論」 『民族藝術』 2014年5期 広西民族文化藝術研究院 (2014.9)、26-29. (中国語)
 - 菅豊 「地域資源與歴史的的正統性—從伝説到歴史」 『民族藝術』 2014年5期 広西民族文化藝術研究院 (2014.9)、22-25. (中国語)
 - 菅豊 「文化遺産時代の民俗学—「間違った二元論 (mistaken dichotomy)」を乗り越える」 『日本民俗学』 第279号 日本民俗学会 (2014.8)、33-41. * (「跨越“錯誤的二元論 (mistaken dichotomy)”」 『民間文化論壇』 2014年第2期 (総第225期) の翻訳)
 - 菅豊 「ガバナンス時代のcommons論—社会的弱者を包括する社会制度の構築— 三俣学編 『エコロジーとcommons—環境ガバナンスと地域自立の思想—』 晃洋書房、2014.5、233-252. * (「現代的commonsに内在する排除性の問題」 『大原社会問題研究所雑誌』 第655号の改訂転載)
 - 菅豊 「日本の鮭文化」 『EPTA』 第66号 エプタ編集室 (2014.4)、49-54.
 - 菅豊 「跨越“錯誤的二元論 (mistaken dichotomy)”」 『民間文化論壇』 2014年第2期 (総第225期) 中国文学芸術界聯合会 (2014.4)、20-23. (中国語)
 - 菅豊 「前沿話題・為了從中国的非物質文化遺產保護中學習」 『民間文化論壇』 2014年第2期 (総第225期) 中国文学芸術界聯合会 (2014.4)、20-23. (中国語)
 - Suga, Yutaka. "The Substituted Forest: Political and Social Effects on Japan's Spaces of Worship." *The Memoirs of the Institute for Advanced Studies on Asia: Institute for Advanced Studies on Asia*, no. 164 2013.12: 1-20. [\[Link\]](#) * (「被置換了的森林—政治以及社会对日本信仰空間的影響」 『文化遺産』 2010年第2期の改訂翻訳)
 - 菅豊 「自然世界と民俗世界—自然と人間との「不完全」な関係性の再評価— 鳥越皓之編 『環境の日本史5 自然利用と破壊—近現代と民俗—』 吉川弘文館、2013.6、150-174. [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「「現代的commonsに内在する排除性の問題」 『大原社会問題研究所雑誌』 第655号 法政大学大原社会問題研究所 (2013.5)、19-32. [\[Link\]](#)
 - Suga, Yutaka. "The Tragedy of the Conceptual Expansion of the Commons." *Local Commons and Democratic Environmental Governance*. Edited by Takeshi Murota and Ken Takeshita: Tokyo: United Nations University Press, 2013.3 : 3-18. [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「特集にあたって—日本の民俗学を世界から孤立させないために」 『日本民俗学』 第273号 日本民俗学会 (2013.2)、1-8. [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「民俗学の喜劇—「新しい野の学問」世界に向けて—」 『東洋文化』 第93号 東京大学東洋文化研究所 (2012.12)、219-243. [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「民俗学の悲劇—アカデミック民俗学の世界史的展望から—」 『東洋文化』 第93号 東京大学東洋文化研究所 (2012.12)、3-53. [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「公共民俗学の可能性」 岩本通弥、菅豊、中村淳 編 『民俗学の可能性を拓く』 青弓社、2012.11、83-140.
-

-
- 菅豊 「日本節日文化的現代形態—以日本都市的元旦文化改編為題材」 『温州大学学报』 第25卷第4期 温州大学 (2012.7)、3-9. (中国語) [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「日本のコモンズ—生活の安全保障の視点から—」 柳澤悠・栗田禎子 編 『持続可能な福祉社会へ：公共性の視座から 第4巻アジア・中東—共同体・環境・現代の貧困』 勁草書房、2012.7、13-35. [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「反・供養論—動物を「殺す」ことは罪か？」 秋道智彌 編 『日本の環境思想の基層』 岩波書店、2012.3、225-248.
 - 菅豊 「グローバル時代を生きる錦鯉—日本文化の拡散と脱国籍化、現地化—」 松井健、野林厚志、名和克郎 編 『生業と生産の社会的布置—グローバリゼーションの民俗誌のために—』 岩田書院、2012.3、269-298.
 - 菅豊 「公共民俗学の創造に向けて—フィールドにおける実践の『ひとつ』のかたち—」 『SEEDer』 第6号 昭和堂 (2011.12)、69-72.
 - 菅豊 「日本現代民俗学的“第三条路”—文化保護政策、民俗学主義及公共民俗学」 『復印報刊資料・文化研究』 2011年第10期 山東大学 (2011.10)、69-79. (中国語)
 - 菅豊 「不完全のすゝめ—『めぐるめぐみ』を享受するための自然とのかかわり方—」 『季刊やま かわ うみ』 第2号 アーツアンドクラフツ (2011.9)、54-60.
 - 菅豊 「シェアする暮らしは協治社会への第一歩」 『環境会議』 2011年秋号 宣伝会議 (2011.9)、184-191.
 - 菅豊 「日本現代民俗学的“第三条路”—文化保護政策、民俗学主義及公共民俗学」 『民俗研究』 2011年第2期 (総第98期) 山東大学 (2011.6)、52-71. (中国語) [\[Link\]](#)
 - 菅豊 「中国的根藝創造運動—生成資源之“美”の本質與建構」 周星 編 『中国藝術人類学基礎読本』 学苑出版社、2011.6、507-525. (中国語)
 - 菅豊 「福田アジオ、そして20世紀民俗学を乗り越えなければならない」 『現代民俗学研究』 第3号 現代民俗学会 (2011.5)、96-98.
 - 菅豊 「暗闇のなかのヒツジ」 『季刊民族学』 第136号 財団法人千里文化財団 (2011.4)、56-61.
 - 菅豊 「現代社会でコモンズ理論をどのように使うべきか？—ローカル・コモンズという原点回帰—」 間宮陽介・廣川祐司編 編 『「コモンズと現代」シンポジウム講演録報告書』 京都大学、2010.12、4-17.
 - 菅豊 「「里山」を再考する—民俗学のフィールドワークから—」 『生命のざわめき・水辺のにぎわい—水辺環境の未来と生物多様性』 リバーフロント整備センター、2010.10、20-22.
 - 菅豊 「關於自然之民俗研究的三大潮流」 王晓葵・何彬 編 『現代日本民俗学的理論與方法』 学苑出版社、2010.10、268-286. (中国語)
 - 菅豊 「歴史のなかの環境とコモンズ—日本のサケの資源利用—」 水島司 編 『環境と歴史学—歴史研究の新地平』 勉誠出版、2010.9、74-81.
-

-
- 菅豊 「現代アメリカ民俗学の現状と課題—公共民俗学 (Public Folklore) を中心に—」 『日本民俗学』 第 263 号 日本民俗学会 (2010.8)、94-126.
 - 菅豊 「非物質文化的創造—以浙江省寧波市象山区的竹根彫為例」 王恬 編 『觀念與方式—中日非物質文化遺產保護 (鄞州) 論壇論文集』 中国文聯出版社、2010.7、261-270. (中国語)
 - 菅豊 「「水辺」に込められた現代的価値」 出口正登 出口晶子 編 『琵琶湖周航—映像地理学の旅』 昭和堂、2010.7、206-208.
 - 菅豊 「天然アユと養殖アユのあいだ」 古川彰 高橋勇夫 編 『アユを育てる川仕事』 築地書館、2010.6、17-20.
 - 菅豊 三俣学 井上真 「グローバル時代のローカル・コモنز論」 三俣学 菅豊 井上真 編 『ローカル・コモنزの可能性—自治と環境の新たな関係—』 ミネルヴァ書房、2010.6、1-9.
 - 三俣学 菅豊 井上真 「実践指針としてのコモنز論」 三俣学 菅豊 井上真 編 『ローカル・コモنزの可能性—自治と環境の新たな関係—』 ミネルヴァ書房、2010.6、197-217.
 - 菅豊 「被置換了的森林—政治以及社会对日本信仰空間的影響」 『文化遺産』 2010 年第 2 期 (総第 11 期) 中山大学 (2010.4)、124-129. (中国語) [\[Link\]](#)
-

書評論文・書誌紹介

-
- 菅豊 「板垣貴志著『牛と農村の近代史—家畜預託慣行の研究—』」 『日本民俗学』 第 280 卷 日本民俗学会 (2014.11)、70-74.
 - 菅豊 「DVD 新編粥川風土記—清流・長良川の源流域に暮らす」 『季刊地域』 第 3 号 農山漁村文化協会 (2010.11)、118.
-

口頭発表

-
- 菅豊 「争いのゾーン・都市の周縁部—リヴァーサイドは誰のものか? : 招待講演」 大阪市立大学 2015 年度国際シンポジウム『文化接触のコンテクストとコンフリクト—EU 諸地域における環境・生活圏・都市—』 大阪市立大学、大阪市 2015 年 12 月 5 日.
 - 菅豊 「試論“異端的民間芸術論” : 基調講演」 2015 年中国芸術人類学学会国際学術検討会 中国・無錫市・江南大学 2015 年 10 月 24 日.
 - 菅豊 「「無形文化遺産」という言葉が喚起したもの—私の地域文化への介入、そして地域の人びとの「ずれた／ずらした」レスポンス—」 日本民俗学会第 66 回年会 関西学院大学、西宮市 2015 年 10 月 11 日.
 - 菅豊 「公共歴史学 Public History : 招待講演」 山東大学文化遺産研究院講演会 中国・済南市 2015 年 5 月 25 日.
-

-
- 菅豊 「公益與共益的互動：招待講演」 山東大学文化遺産研究院主催 「“礼俗互動：近現代中国社会研究” 国際學術検討会 山東大学、中国・済南市 2015年5月.
 - 菅豊 「文化空間の解剖学—古鎮文化複雑化的推動力—：招待講演」 華東師範大学社会發展学院百場内校学級學術講座 華東師範大学、中国・上海市 2015年3月.
 - 菅豊 「文化政策與地方文化的相克論：招待講演」 温州大学人文学院講演会 温州大学、中国・温州市 2015年3月.
 - 菅豊 「現代社会與民族志研究法—来自民俗学的視角：招待講演」 上海大学社会学院 E-研究院系列講座 2014年第27講総第360講 上海大学、中国・上海市 2014年12月.
 - 菅豊 「新地方史—重新审视微观史学（micro-history）：招待講演」 復旦大学文史研究院第92回學術研究会 復旦大学、中国・上海市 2014年12月.
 - 菅豊 「無形文化遺産を人びとはどう受けとめたのか？—制度がずれる／制度をずらす：招待講演」 国立民族学博物館主催《機関研究成果公開》公開フォーラム『文化遺産の人類学』 国立民族学博物館、伊丹市 2014年11月.
 - 菅豊 「民俗学から考える動物の恵みと供養—『殺す』ことは罪か？：招待講演」 東京大学第120回公開講座「恵み」 東京大学、東京 2014年11月.
 - 菅豊 「民俗行政のコラボラティブ・ガバナンス」 日本民俗学会第66回年会 岩手県立大学・滝沢市 2014年10月12日.
 - 菅豊 「日本文化のトランスナショナリズム—グローバル化時代における文化研究のひとつの方法—：招待講演」 タイ・チュラーロンコーン大学主催『タイ国日本研究国際シンポジウム2014』 タイ・バンコク 2014年8月26日.
 - 菅豊 「民俗学における多様なエスノグラフィーへの挑戦：パネリスト」 現代民俗学会2014年度年次大会シンポジウム『民俗誌はもういらぬ？—現代民俗学のエスノグラフィー論—』 お茶の水女子大学、東京 2014年5月18日.
 - 菅豊 「多様化的民族志方法與民俗学：招待講演」 中国民俗学会主催、日本民俗学会協力「首届中日民俗学高層論壇」 貴州民族大学、中国貴陽市 2014年4月19日.（中国語）
 - 菅豊 「public folklore から公共民俗学へ—人びとの、人びとによる、人びとのための知識生産と社会实践」 日本文化人類学会課題研究懇談会、現代民俗学会第21回研究会、東アジア人類学研究会、「新しい野の学問」研究会共催『パブリック民俗学とパブリック人類学の対話可能性』 東京・東京大学 2013年12月15日.
 - 菅豊 「中国の無形文化遺産から学ぶために」 日本民俗学会第65回年会国際シンポジウム『無形文化遺産政策のホットスポット・中国—中国民俗学の経験から学ぶ—』 新潟大学、新潟市 2013年10月13日.
 - 菅豊 「研究者・専門家の実践をとらえなおす—菅豊著『新しい野学問』時代へ知識 生産と社会实践をつなぐために』を題材に：招待講演」 STS Network Japan 夏の学校2013 静岡県静岡市旅館伯梁、静岡市 2013年8月30日.
-

-
- 菅豊 「知識生産と社会実践のガバナンス-菅豊『「新しい野の学問」の時代へ』をめぐって：基調講演」 環境社会学会例会、追手門学院大学地域文化創造機構主催「文化復興と芸術創造に関する総合的研究」第1回公開フォーラム 追手門学院大阪梅田サテライト、大阪市 2013年8月10日.
 - 菅豊 「面向“新的在野之学”的時代—日本民俗学的一種選択」 中国民俗学会成立30周年記念大会暨學術報告会 中国・北京市・中国社会科学院社科会堂 2013年5月30日. (中国語)
 - 菅豊 「錦鯉の歴史と系統観」 生き物文化誌学会第51回例会「金魚と錦鯉—その美の系譜—」 東京・東京農大 2013年4月20日.
 - 菅豊 「小千谷の地域文化の昔といま—外とのつながりから考える—：文化講演会」 越後おぢや農業協同組合主催、小千谷闘牛振興協議会、社団法人新潟県錦鯉協議会協賛、小千谷市・小千谷市教育委員会、小千谷観光協会、新潟日報社、小千谷新聞社後援 小千谷市 2013年4月14日.
 - Suga, Yutaka. Into the Bullring: The Significance of "Empathy." American Folklore Society 2012 Annual Meeting New Orleans, Louisiana, USA 2012.10.27.
 - 菅豊 「奇美拉(喀迈拉、嵌合体、chimera)化的古镇文化—以民間工芸的地方性展開為中心—」 2012年中国藝術人類学会年会 中国・フフホト市 2012年7月20日.
 - 菅豊 「アメリカ民俗学の日本研究のアウトライン」 第863回日本民俗学会談話会・国際交流関係シンポジウム「海外研究者がみた日本というフィールド—アメリカ研究者編—」 東京 2012年7月8日.
 - 菅豊 「200年まえの『えちごのつづき』：講演」 小千谷市立東山小学校主催「2011年度小千谷市立東山小学校文化祭」 東山小学校、小千谷市 2011年11月13日.
 - 菅豊 「民俗学学科建設的困難性—来自日本、美国、德国的民俗学比較—」 中国民俗学会2011年年会 中国・濰坊 2011年10月29日.
 - 菅豊 「小千谷・牛の角突きの魅力を語る：講演」 全国闘牛サミット協議会主催「第14回全国闘牛サミット」 小千谷市総合産業会館、小千谷市 2011年9月11日.
 - 菅豊 「公共民俗学—社会における民俗学の再定置—」 第858回日本民俗学会談話会・国際交流関係シンポジウム「公共民俗学とはなにか—社会における知的実践のかたち—」 東京 2011年9月10日.
 - 菅豊 「日本記紀神話中的創世場景：パネリスト」 中国民俗学会、青海省社会科学院他主催シンポジウム「崑崙神話與世界創世神話國際學術論壇」 小島賓館學術報告庁, 中国西寧市 2011年7月18日.
 - 菅豊 「キメラ化する地域文化—中国浙江省における政治と「古鎮化」現象をめぐって—」 キメラ化する地域文化—中国浙江省における政治と「古鎮化」現象をめぐって— 東京外国語大学、東京 2011年2月12日.
-

- 菅豊 「異質性社会のなかの野生動物管理—異質なアクターが構築する「歴史」のレジティマシー—」 東京農工大学「統合的な野生動物管理システムの構築—地域連携による里地里山における生物多様性の保全と地域価値の向上—」プロジェクト主催「第12回野生動物管理システムフォーラム」 東京農工大学、府中市 2011年1月21日.
- 菅豊 「日本節日文化的現代之状況—以日本都市部の正月(元旦)文化再編為題材—:パネリスト」 海峡兩岸春節傳統節日文化高峰論壇組織委員會主催シンポジウム「第十二屆安昌古鎮臘月風情節暨2011年海峡兩岸春節傳統節日文化高峰論壇」 中国浙江省紹興縣安昌鎮政府, 中国紹興 2011年1月1日.
- 菅豊 「資源としての『自然』と『文化』—客体化され管理される対象の異質性と同質性:パネリスト」 現代民俗学会第8回研究会「自然保護と文化保護、何が違うのか?—その異同を考える」 東京大学 2010年11月27日.
- 菅豊 「河川敷/住民管理/排他性—都市空間における河川敷のディレンマ—:講演」 ストリート研究会 早稲田大学、東京 2010年11月20日.
- 菅豊 「中国の「奇」の文化誌:講演」 第10回東文研公開講座 東京大学東洋文化研究所、東京 2010年10月23日.
- 菅豊 「中華料理の美:講演」 東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク、東京大学AGS、東京大学地球持続戦略研究イニシアティブ主催「アジアの食文化とグローバリゼーション」 東京大学、東京 2010年10月20日.
- 菅豊 「伝統文化的跨国性—日本錦鯉文化的のグローバル化與本土化:パネリスト」 中国社会科学院民族学與人類学研究所・復旦大学社会科学高等研究院・中央民族大学中国少数民族研究中心主催シンポジウム「第一屆亞州人類学民族学論壇」 中国中央民族大学, 中国北京 2010年10月9日.
- 菅豊 「文化的客体化—浙江省廿八都的觀光化帶來的傳統文化的變容—:パネリスト」 中国民間文芸家協會主催シンポジウム「中日非物質文化遺產保護論壇」 北京前門建国飯店, 中国北京 2010年8月9日.
- 菅豊 「《討論》福田アジオを乗り越える—私たちは『20世紀民俗学』から飛躍できるのか?—:コーディネーター」 第6回現代民俗学会研究会、現代民俗学会、女性民俗学研究会、東京大学東洋文化研究所班研究「東アジアにおける「民俗学」の方法的課題」 東京大学、東京 2010年7月31日.

一般向け記事

- 菅豊 「制度的な学問が掬い上げられない等身大の世界—『忘れられた日本人』宮本常一—」 『東大教師 青春の一冊』 信山社 (2013.3)、81-83.
- 菅豊 「2 東北地方のようす—文化をテーマに—」 『中学社会 地理的分野』 日本文教出版 (2012.2)、196-207.

-
- 菅豊 「生き物は人を映し出す鏡」 『BIOSTORY』 第13号 生き物文化誌学会 (2010.6)、110.
-

新聞記事

- 菅豊 「封じられてきた兵士の叫び—保阪正康著『戦場体験者 沈黙の記録』 『公明新聞』 2015年9月21日、書評.
 - 菅豊 「現代日本人へ向けた警醒の書—岡本雅享著『民族の創出』 『公明新聞』 2014年11月24日、書評.
 - 菅豊 「苦闘し獲得した日本人に学ぶ—吉見義明著『焼跡からのデモクラシー〈上・下〉』 『公明新聞』 2014年6月16日、書評.
 - 菅豊 「鳥越皓之著『琉球国の滅亡とハワイ移民』 『沖縄タイムス』 2014年3月29日朝刊、書評.
 - 菅豊 「(書評)「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会实践をつなぐために 今週の本棚・本と人 被災地と研究者の関係を問う」 『毎日新聞』 2013年8月18日、朝刊.
 - 菅豊 「(書評)「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会实践をつなぐために 民俗学への根源的な問い直し」 『佐賀新聞』 2013年7月28日、共同通信社.
 - 菅豊 「この人と一牛と人間 共感する人生」 『読賣新聞』 2013年7月28日、朝刊、新潟南.
 - 菅豊 「(書評)「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会实践をつなぐために 民俗学への根源的な問い直し」 『京都新聞』 2013年7月21日、共同通信社.
 - 菅豊 「堀米薫著『ぼくらは闘牛小学生!』 『新潟日報』 2011年10月2日朝刊、書評.
 - 菅豊 「インタビュー科学と技術・江戸の知恵15錦鯉」 『日経新聞』 2011年10月2日、朝刊.
 - 菅豊 「住民主体で管理の工夫を」 『朝日新聞』 2010年9月25日、朝刊.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

当該期間で単編著4冊、学術論文46件(翻訳・改訂転載等を含む、うち中国語11件、英語3件、ベトナム語1件)、口頭発表40件を発表した。とくに『「新しい野の学問」の時代へ—知識生産と社会实践をつなぐために—』(岩波書店、2013年)は研究の中核をなす著作で、『科学史研究』(第III期53巻271号、2014年)や『文化人類学』(79巻4号、2014年)等の学術誌で書評され、「新たな知識生産の方法論を提唱する野心的な問題提起の書」であり「人類学をはじめ他分野の研究者にとっても学ぶことの多い優れた著作」であるなど、高い評価を受けている。また毎日新聞や17地方紙で書評に取り上げられ、「『新しい野の学問』を進化させるための示唆に富む」等の好評を博した。また本業績に関連して、中国民俗学会成立30周年記念大会暨学術報告会(中国社会科学院、2013年5月30日)で「面向“新

「在野之学」的時代—日本民俗学的一种選択」の演題で招待講演を行うなど、その他国内外の学会等を含め計18回の招待講演を行っている。また、『「二〇世紀民俗学」を乗り越える—私たちは福田アジオとの討論から何を学ぶか』（共編著、岩田書院、2012年）は読賣新聞や図書新聞などの書評で取り上げられている。このような学術研究とともに、菅はさらに社会貢献活動として、調査地（新潟県小千谷市）の震災復興過程で地域文化（越後の牛の角突き）の運営や管理に直接参画するという独創的な実践研究手法を採用することにより、地域住民との緊密な連携・協働に成功している。その結果、地域団体、住民主催の講演会等に招聘され（計5回）、そのような活動を通じて研究成果を地域社会へ積極的に普及・還元した。地域社会へ寄与するそのユニークな研究活動は読賣新聞（2013年7月28日）で紹介され、「他人と共感し、体感しながら理解し、共に問題を乗り越える方法を見いだす学問の手法」という点で評価されている。

佐藤仁 SATO, Jin

所属部門 新世代アジア部門

研究テーマ 資源と人間

個人ホームページ : <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/satoj/index.html>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1992年 東京大学教養学部教養学科卒業

1994年 ハーバード大学ケネディ行政学大学院修士課程修了（公共政策）

1995年 東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻修士課程修了（学術）

1998年 東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻博士課程修了、博士（学術）

1998年 博士（学術）東京大学

【職歴】

1995年8月 Regional Community Forestry Training Center（タイ）客員研究員

1998年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）

1998年9月 イェール大学 Agrarian Studies Program ポスドク・フェロー

1999年 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻 助手

2000年 東京大学大学院新領域創成科学研究科 助教授

2004年 タイ国天然資源環境省政策アドバイザー（JICA 専門家）

2007年 東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授

2009年 東京大学東洋文化研究所 准教授

2010年8月 プリンストン大学 Democracy and Development Fellow（フルブライト研究員）

2011年9月 東京大学東洋文化研究所に復帰

2014年2月～6月 プリンストン大学東アジア学部客員准教授

2014年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授

2015年2月～6月 プリンストン大学ウッドローウィルソン公共政策大学院客員教授

【受賞歴】

1993年 第16回国際協力推進協会論文コンテスト奨励賞（国際協力推進協会）（受賞対象：論文「Development, Culture, and the Standard of Living」）

1994年 国際協力研究誌20周年記念論文コンテスト1等（国際協力事業団）（受賞対象：論文「開発と環境の二者択一パラダイムを超えて」）

2003年 国際開発学会学会賞・著作部門（国際開発学会）（受賞対象：『援助と社会関係資本』2002年，共著，アジア経済研究所）

- 2003年 国際開発学会学会賞・著作部門（国際開発学会）（いずれも授賞対象：『稀少資源のポリティクス：タイ農村にみる開発と環境のはざま』2002年，東京大学出版会）
- 2003年 第24回発展途上国研究奨励賞（アジア経済研究所）
- 2013年 国際開発学会奨励賞（授賞対象："Emerging Donors from a Recipient Perspective: Institutional Analysis of Foreign Aid in Cambodia" 2011年，共著，World Development.）
- 2013年 第10回日本学術振興会賞（授賞対象：『資源』の認識と分配に着目した国際協力研究）
- 2014年 第10回日本学士院学術奨励賞

II. 取り組んでいるテーマ

「そこに見出されるもの」としての「資源」、「よそから持ち込まれるもの」としての「援助」。それぞれをめぐる統治と両者の組み合わせのあり方を東南アジアの文脈で研究している。

・具体的な課題：

- 1) 東南アジアにおける民衆による資源利用知と国家への抵抗戦略の解明
- 2) 東南アジアにおける資源・環境行政の発展と国家・社会関係の形成過程
- 3) 対外援助の地政学と日本のODAの在り方

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (B) 東南アジアの資源をめぐる国家・社会関係に関する比較研究（2013～2015年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 国際開発学会（理事）
- ・ 環境社会学会
- ・ アジア政経学会
- ・ 日本タイ学会
- ・ Society of Policy Scientists
- ・ Associations for Asian Studies
- ・ 中東欧環境センター（REC）日本代表理事（2009年度～2013年度）
- ・ Forest Policy and Economics 編集委員（2013年度～）
- ・ British Journal of Interdisciplinary Study 編集委員（2014年9月～）
- ・ Sustainability Science 編集委員（2012年4月～）
- ・ 独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所研究会委員（2011年度～2014年度）
- ・ 総合地球環境学研究所共同研究員（2011, 2012年度）

- ・ 外務省大臣官房総務課 ODA 評価室評価主任 (2011, 2013 年度)

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ 開発研究 (公共政策大学院・新領域創成科学研究科合併)
- ・ Natural Resource Politics and Policy (公共政策大学院)
- ・ 指導学生数

	2012 年	2013 年	2014 年
修士課程	7	7	4
博士課程	4	3	2
博士号取得者数	1	1	2

2. 本学以外での教育活動

- ・ Dilemmas of Development in Asia (Princeton University, 2014 Spring)
- ・ Dilemmas of Environment and Development in Asia (Princeton University, 2015 Spring)
- ・ Development Disasters: Unintended Consequences of Development and Foreign Aid (Princeton University, 2015 Spring)
- ・ お茶ノ水女子大学文教育学部 「地域開発論」 (2014 年冬)
- ・ プリンストン大学東アジア学部 客員准教授 (2014 年度)
- ・ プリンストン大学ウッドロー・ウィルソン公共・国際政策大学院 客員教授 (2015 年度)

VII. 当該 6 年間の研究業績

著書

- ・ 佐藤仁 『「持たざる国」の資源論 — 持続可能な国土をめぐるもう一つの知』 東京大学出版会、2011.6 [\[Link\]](#)

編著

- ・ Sato, Jin, ed. *Governance of Natural Resources: Uncovering the Social Purpose of Materials in Nature*: United Nations University Press, 2013.7.
- ・ Sato, Jin and Yasutami Shimomura, eds. *The Rise of Asian Donors: Japan's Impact on the Evolution of Emerging Donors*: Routledge-GRIPS Development Forum Studies, 2012.9 [\[Link\]](#)
- ・ Sato, Jin, ed. *Transboundary Resources and Environment in Mainland Southeast Asia*: Shokado, 2010.

報告書

- Sato, Jin. *Triangular Cooperation: in East Asia: Challenges and Opportunities for Japanese Official Development Assistance*: UN ESCAP, 2014.
-

学術論文

- 佐藤仁 「大学の「内なる国際化」－東京大学にみる国際化の140年」 羽田正 編 『グローバルヒストリーと東アジア史』 東京大学出版会、2016. 3、295-308.
 - Sato, Jin. "The Benefits of Unification Failure: Re-examining the Evolution of Economic Cooperation in Japan." *Japan's Development Assistance Foreign Aid and the Post-2015 Agenda*. Edited by Hiroshi Kato John Page and Yasutami Shimomura: Palgrave Macmillan, 2015.11 : 88-102. [[Link](#)]
 - Sato, Jin. "Compulsion to Maintain: Water and State Power in Southeast Asia." *8th European Southeast Asian Studies Conference, August 11-14, 2015, Vienna, Austria*. 2015.8.
 - Dina, Thol and Jin Sato. "The Cost of Dividing the Commons: Overlapping Property Systems in Tonle Sap, Cambodia." *International Journal of the Commons* Vol.9, no. 1 2015.8: 261-280. [[Link](#)]
 - 佐藤仁 「比較歴史分析の可能性－東南アジアの天然資源と国家・社会関係の比較分析に向けて」 『経済開発過程における資源環境政策研究会報告書』 アジア経済研究所、2015. 8. [[Link](#)]
 - Sato, Jin. "The Benefits of Unification Failure: Re-examining the Evolution of Economic Cooperation in Japan." *JICA-RI Working Paper*, no. 87 2015. [[Link](#)]
 - 佐藤仁 「カンボジア・トンレサップ湖における漁業と政治—2012年漁区システム完全撤廃の社会科学的評価—」 寺尾忠能 編 『「後発性」のポリティクス－資源・環境政策の形成過程—』 アジア経済研究所、2015. 2、99-120.
 - Sato, Jin. "Tokyo's Vision of Southeast Asia: Private Interests and Economic Cooperation in the 1950s." *Engineering Asia: Post-Colonial Networks of Technologies and the Cold War*. Edited by Mizuno. H. et al: Cambridge University Press, 2015.1 : forthcoming.
 - Sato, Jin. "Benefits of Unification Failure: Re-examining the Evolution of Economic Cooperation in Japan." *60 Years of Japanese ODA*. Edited by Kato. H. et al: Palgrave, 2015.1 : forthcoming.
 - Sato, Jin. "Origins of Area Studies in Japan: From Passive Reaction to Forward Engagement." *Area Studies and the History of East and South East Asian Studies: The Case of Frankfurt University*. Edited by Michael Kinski: Frankfurt East Asian Studies Series, Frankfurt, Germany, 2015.1 : forthcoming.
 - Sato, Jin. "Social Resilience in Post-Tsunami Japan: Diversity and Security after March 11th 2011." *International Encyclopedia of the Social and Behavioral Sciences*. 2nd ed: Oxford: Elsevier, 2015.1 : 570-575.
-

-
- 佐藤仁 「環境統治の時代—アジアにおける天然資源管理と国家・社会関係」 『学術の動向』 第19巻 第10号 (2014.)、74-77.
 - Dina, Thol and Jin Sato. "Is Greater Fishery Access Better for the Poor? Explaining De-Territorialisation of the Tonle Sap, Cambodia." *Journal of Development Studies* Vol.50, no. 7 2014.3: 962-976.
 - 佐藤仁 「自然の支配はいかに人間の支配へと転ずるか—コモンズの政治学序説」 秋道智彌編 『日本のコモンズ思想』 岩波書店、2014. 3、176-194.
 - 佐藤仁 「危機と分業—E. アッカーマンに学ぶ国土資源への総合的接近」 『政策・経営研究』 第1巻 (2014. 2)、1-15. [\[Link\]](#)
 - Sato, Jin. "Resource Politics and State-Society Relations: Why are certain states more inclusive than others?" *Comparative Studies in Society and History*. Vol. 56. no. 3, 2014.1 : 746-777.
 - 佐藤仁 「内なる国際化—東京大学にみる国際化の140年」 『Proceedings of The Third Annual Joint Fudan-Princeton-Tokyo University International Conference on Contested World Histories: Global History in the Eyes of China, Japan, and the U.S., December 16-19, 2013, Princeton, NJ, USA. (英訳、中国語訳あり)』 (2013. 12).
 - 佐藤仁 「近代化と統治の文化—明治日本とシヤムの天然資源管理—」 平野健一郎 土田哲夫 川村陶子 古田和子 編 『国際文化関係史研究』 東京大学出版会、2013. 4、171-192.
 - 近藤久洋 小林蒼明 志賀裕朗 佐藤仁 「「新興ドナー」の多様性と起源」 『国際開発研究』 第21巻 第1・2号 (2012.)、89-102.
 - 佐藤仁 「「自然対人間」の二項対立を超えて—自由を回復するための道具」 『科学』 第82巻 第1号 (2012.)、100-105. [\[Link\]](#)
 - 佐藤仁 「戦後日本の対外経済協力と国内事情—原料確保をめぐる国内政策と対外政策の連続と不連続」 『アジア経済』 第53巻 第4号 (2012.)、94-112.
 - 佐藤仁 「開発研究における個別性と普遍性」 西川潤 下村恭民 高橋基樹 野田真里 編 『開発を問い直す』 日本評論社、2011. 11、179-194. [\[Link\]](#)
 - 佐藤仁 「資源の断片化と国際協力への新視角」 東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系 編 『国際協力学の創る世界』 朝倉書店、2011.、54-69. [\[Link\]](#)
 - Sato, Jin, Hiroaki Shiga, Takaaki Kobayashi, Hisahiro Kondoh. "Emerging Donors' from a Recipient Perspective: Institutional Analysis of Foreign Aid in Cambodia." *World Development* Vol.39, no. 12 2011.: 2091-2104. [\[Link\]](#)
 - Sato, Jin. "State Inaction in Resource Governance: Natural Resource Control and Bureaucratic Oversight in Thailand." *JICA-RI Working Paper*, no. 36 2011. [\[Link\]](#)
 - Sato, Jin. "Social science and knowledge for sustainability." *Sustainability Science: A Multidisciplinary Approach*. Edited by Hirishi Komiyama, Kazuhiko Takeuchi, Hideaki Shiroyama and Takashi Mino: United Nations University Press, 2011.: 327-335. [\[Link\]](#)
-

-
- Sato, Jin. "Resource Policy and Domestic Origins of Foreign Aid." *Economic and Policy Lessons from Japan to Developing Countries*. Edited by Toshihisa Toyoda, Hiroshi Kan Sato and Jun Nishikawa: Palgrave Macmillan, 2011.: 77-97. [\[Link\]](#)
 - 石曾根道子 王智弘 佐藤仁 「発展途上国の開発と環境—資源統治をめぐる近年の研究動向」 『国際開発研究』 第19巻 第2号 (2010.)、3-16. [\[Link\]](#)
 - Sato, Jin. "Matching Goods and People: Aid and Human Security After the 2004 Tsunami." *Development in Practice* Vol.20, no. 1 2010.: 70-84. [\[Link\]](#)
 - Sato, Jin. "Democratic Turn of Resource Governance in Japan: Prewar and Postwar Efforts for Integration in Resource Policy." *Adaptation and Mitigation Strategies for Climate Change*. Edited by A.Sumii, K.Fukushi and A.Hiramatsu: Springer, 2010.: 309-316. [\[Link\]](#)
 - Sato, Jin, Hiroaki Shiga, Takaaki Kobayashi and Hisahiro Kondoh. "How Do “Emerging” Donors Differ from “Traditional” Donors? Institutional Analysis of Foreign Aid in Cambodia." *JICA-RI Working Paper*, no. 2 2010. [\[Link\]](#)
 - Sato, Jin. "Civil society engagement in Japan." *Engaging civil society: Emerging trends in democratic governance*. Edited by S.G Cheema and V.Popovski: United Nations University Press, 2010.: 232-245.[\[Link\]](#)
 - 佐藤仁 「資源とは何か？—日本における資源論の系譜と展望—」 文部科学省科学技術・学芸審査会資源調査分科会 編 『新時代の自然資源論—統合管理の方法論—』 クバプロ、2010.、361-378. [\[Link\]](#)
 - Kondoh, Hisahiro, Takaaki Kobayashi, Hiroaki Shiga and Jin Sato. "Diversity and Transformation of Aid Patterns in Asia's "Emerging Doners"." *JICA-RI Working Paper*, no. 21 2010. [\[Link\]](#)
 - 佐藤仁 「知的亡命者をアトラクトせよ」 国際開発学会 編 『貧困のない世界を目指して』 同友社、2010.、157-160. [\[Link\]](#)
-

書評論文・書誌紹介

- 佐藤仁 「小さき民に学ぶ意味—あとがきに代えて」 『ゾミア—脱国家の世界史』 みすず書房 (2013. 10)、351-363.
 - 佐藤仁 「北原 淳著 『タイ近代土地・森林政策史研究』」 『史学雑誌』 第122編 第8号 (2013. 8)、94-103.
 - 佐藤仁 「地域史の先にある未来—化石資源文明からの卒業シナリオ—」 『東南アジア研究』 第51巻 第1号 (2013. 7)、162-167.
-

一般向け記事

- ジェームズ・C・スコット 聞き手 佐藤 仁 「地域研究のアイデアー新著『ゾミアー脱国家の世界史』に至る着想のプロセス」 『みすず』 (2013.10)、6-19.
-

新聞記事

- 佐藤仁 「日本型の援助理念『受け手』の原点にかえれ」 『朝日新聞 (朝刊) 15面』 2011年9月1日.
-

事典等項目

- 佐藤仁 「可能性としての資源ー日本における「資源観」の形成」「エコポリティクスー変貌する環境政治の当事者」 総合地球環境学研究所 編 『地球環境学辞典』弘文堂、(2010.).
-

VIII. 当該6年間の活動報告

①『Resource Politics and State-Society Relations: Why are certain states more inclusive than others?』 (Comparative Studies in Society and History, 2014年)、②『「持たざる国」の資源論』 (東京大学出版会, 2011年) は、天然資源の社会科学的分析に基づく国際協力研究であり、2013年度の第10回日本学術振興会賞、および第10回日本学士院学術奨励賞を受賞するなど高い評価を受けた。内容は、タイと日本の近代国家形成期における森林と鉱山をめぐる国家・社会関係の分析であり、その成果は日本学術会議学術フォーラム (東京・2014年1月11日) 招待講演でも報告された。①の掲載雑誌は、欧米の歴史学分野ではトップ10に入る著名学術雑誌である。②は資源に基づく地域研究の一環として、2013年度 (第28回) 大同生命地域研究奨励賞も授与された研究である。公文書館での調査と丁寧なインタビューから、忘れられた日本資源論の再発見に貢献し、朝日新聞 (2011年9月1日付朝刊「朝日アジアフェローから」) をはじめとする多くのメディアや学術誌で書評された。③『'Emerging Donors' from a Recipient Perspective: Institutional Analysis of Foreign Aid in Cambodia』 (World Development, 2011年) は2013年度に国際開発学会奨励賞を受賞した論文であり、東南アジアの新興援助国の動向について「受け手」の視点から新たな知見を創出した。World Development 誌は国際開発分野のトップジャーナルとして高い引用度を誇る学術雑誌である。佐藤の研究の卓越性は、米国のトップ大学から客員教員として招聘 (2013~14年度のプリンストン大学) され、有力大学で招待講演を行い、また社会科学分野における標準的な百科事典の一つである Encyclopedia of Social and Behavioral Sciences 第二版 (2015年) へ項目執筆するなどの国際的な実績によって保証されている。

当該研究は、佐藤を主任とする外務省政府開発援助(ODA)の評価事業（2011年度は水産無償、2012年度は三角協力、2013年度はラオス国別援助、2015年度は環境分野のミレニアム開発目標-環境）という実践の場にも生かされ、社会的な還元という面でも卓越している。

園田茂人 SONODA, Shigeto

所属部門 新世代アジア部門

研究テーマ 「動くアジア」の比較社会学

個人ホームページ : <http://shigetosonoda.net/>



I. 略歴・受賞歴

【学歴】

1984年 東京大学文学部社会学科卒業

1986年 東京大学大学院社会学研究科社会学 (A) コース修士課程修了

1987年 中国・南開大学社会学系高級進修生 (中国政府奨学生)

1988年 東京大学大学院社会学研究科社会学 (A) コース博士課程退学

【職歴】

1988年 東京大学文学部社会学科 助手

1990年 中央大学文学部社会学科 専任講師

1992年 中央大学文学部社会学科 助教授

1997年 中央大学文学部社会学科 教授

2005年 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授

2009年～現在 東京大学東洋文化研究所 教授、大学院情報学環 教授 (流動教員)

【受賞歴】

2008年 第20回アジア太平洋賞特別賞 (受賞対象作品『不平等国家 中国』(中公新書))

2010年 科学研究費補助金審査委員表彰者 (日本学術振興会)

2011年 F. Hilary Conroy Award (Association for Asian Studies)

II. 取り組んでいるテーマ

グローバル化のインパクトを受けながら、中国圏の社会がどのように変化しているか。こうした視点から、中国に進出した外資系企業や、中国における階層構造を対象に、一次データをもとに調査研究を進めていきました。その結果、『証言・日中合弁』『中国人の心理と行動』『現代中国の階層変動』『不平等国家 中国』『中国社会はどこへ行くか』といった編著書が生まれることになりました。

しかし、中国を見る際に、いつも他国、とりわけ他のアジアとの異同が気になっていました。比較なしに、中国の「独自性」や「独特さ」を理解することができないからです。『アジアからの視線』『日本企業アジアへ』『東アジアの階層比較』といった研究群は、動くアジアを比較するといった企図によってなされた社会学的研究の成果です。

最近では、中国の変化を平易に読者に伝える作業を行うことが求められることが多く、『日中関係史 1972-2012 III・IV』『中国問題』『初めて出会う中国』などの本も編集・刊行しています。

2015年1月時点で進めている／参加しているプロジェクトには、以下の4つがありますが、これらの作業を通じて、西欧中心の社会学を脱構築・再構築するとともに、アジアにおける相互理解を進めたいと考えています。

「時系列データの蓄積から社会変動モデルの構築へ：中国第三次四都市調査の挑戦」（2013-16年）

「政治的リスクと人の移動：中国大国化をめぐる国際共同研究」（2013-14年、代表：加茂具樹：東洋学研究情報センター共同利用共同研究拠点プロジェクト）

「アジア学生調査第2波調査の実施」（2013-15年、機関推進プロジェクト）

「中国脅威論を超えて：『中国の台頭』をめぐる海外中国研究者との対話」（2014-15年）

III. 班研究

IV. 外部資金による研究

- ・ 基盤研究 (A) 「時系列データの蓄積から社会変動モデルの構築へ：中国第三次四都市調査の挑戦」（2013～2016年度）
- ・ 基盤研究 (B) 「『中国』と向き合って：日韓台対中進出企業の現地化プロセスに関する比較社会学的研究」（2009～2012年度）
- ・ サントリー文化財団「中国脅威論を超えて：『中国の台頭』をめぐる海外中国研究者との対話」（2014～2015年度）

V. 学外活動（学会、委員、社会活動等）

- ・ 日本学術会議（連携会員）
- ・ アジア政経学会（国際活動担当理事）
- ・ 中国社会文化学会（理事）
- ・ アジア調査会アジア研究委員会（委員）

VI. 教育活動

1. 本学での教育活動

- ・ ITASIA 129 “Understanding Asia and Japan through Hong Kong”（2013年～）大学院学際情報学府アジア情報社会コース／サマープログラム：2014年はPEAKプログラムと合同）
- ・ ITASIA147 “Understanding Taiwan in Global Settings”（2012年～）大学院学際情報学府アジア情報社会コース／サマープログラム

- ・ ITASIA301/302 “Introduction to Social Research (Lecture & Workshop)” (2009年～) 大学院学際情報学府アジア情報社会コース
- ・ 社会情報学国際共同演習 I (2012, 13年) 大学院学際情報学府
- ・ 「現代中国の政治と社会」教養学部 (2012年)
- ・ グローバリゼーションの社会学/アジア比較研究のフロンティア／一歩先の調査研究へ／社会学と国際関係論の間／一歩先の調査研究へ／人文社会系研究科社会文化研究専攻社会学専門分野 (2010～2014年)
- ・ ASNET 講座「日中関係の多面的な相貌 アジア経済」経済学研究科 (2010年～)
- ・ 指導学生数

	2012年	2013年	2014年
修士課程	2	2	5
博士課程	4	5	4
博士号取得者数		1	

2. 本学以外での教育活動

- ・ 名古屋大学文学部非常勤講師 (2014年)

VII. 当該6年間の研究業績

著書

- ・ 園田茂人 『日中関係 40 年史 (1972-2012) III 社会・文化巻』 马静 周颖昕 訳 社会科学文献出版社、2014.
- ・ 園田茂人 『日中関係 40 年史 (1972-2012) IV 民間巻』 王禹 周颖昕 訳 社会科学文献出版社、2014.
- ・ Halper, Stefan 『北京コンセンサス』 園田茂人 加茂具樹 訳 岩波書店、2011.
- ・ 園田茂人 新保敦子 『教育は不平等を克服できるか』 叢書中国の問題群 第8巻 岩波書店、2010.

編著

- ・ 園田茂人 蕭新煌 編 『チャイナ・リスクといかに向きあうか：日韓台の企業の挑戦』 東京大学出版会、2016.
- ・ 園田茂人 編 『連携と離反の東アジア：アジア比較社会研究のフロンティアIII』 勁草書房、2015.
- ・ 園田茂人 編 『日中関係史 1972-2012 IV 民間』 東京大学出版会、2014.

-
- 園田茂人 編 『リスクの中の東アジア：アジア比較社会研究のフロンティアⅡ』 勁草書房、2013.
 - 園田茂人 編 『はじめて出会う中国』 有斐閣、2013.
 - 園田茂人 編 『日中関係史 1972-2012 Ⅲ 社会・文化』 東京大学出版会、2012.
 - 園田茂人 編 『勃興する東アジアの中産階級：アジア比較社会研究のフロンティアⅠ』 勁草書房、2012.
 - 毛里和子 園田茂人 編 『中国問題：キーワードで読み解く』 東京大学出版会、2012.
 - 高原明生 大橋英夫 園田茂人 茅原郁生 明日香壽川 柴田明夫 監修『10年後の中国：65のリスクと可能性』 講談社、2011.
 - 園田茂人 編 『NIHU現代中国早稲田研究拠点研究シリーズ3 天津市定点観測調査(1997-2010)：単純集計結果にみる時系列変化とその解釈』 早稲田大学現代中国研究所、2010.
-

報告書

- 園田茂人 『「中国」と向き合って：日韓台対中進出企業の現地化プロセスに関する比較社会学的研究（平成21年度～2012年度科学研究費補助金（基盤研究（B）海外学術調査）成果報告書）』、2013.
 - 園田茂人 『台頭する中産階級とその政治的・社会的インパクト：中印露比較研究（平成21年度～2010年度科学研究費補助金（新学術領域研究）成果報告書）』、2011.
 - 園田茂人 『アジアの多国籍企業における人的資源管理：採用から昇進まで(2010～2011年・特別研究員奨励費)』、2010.
-

学術論文

- 園田茂人 「燕京学堂と百賢亜洲研究院」 『東亜』 8月号（2014.）、2-3.
 - Sonoda, Shigeto, Hong-Keun Jang and Joon-Shik Park. "A Comparative Fieldwork Study on the Korean, Japanese, and Taiwanese Multinational Managers as a Significant Factor of Global Corporate Competition in China." *Korean Regional Sociology* 15, no. 3 2014.: 155-195. [\[Link\]](#)
 - 園田茂人 『中国をどう見るか』という重要な課題 『東亜』 11月号（2014.）、2-3.
 - 園田茂人 「社会の変化：和諧社会実現の理想と現実」 高原明生 丸川知雄 伊藤亜聖 編 『東大塾 社会人のための現代中国講義』 東京大学出版会、2014.、237-261.
 - 園田茂人 「台頭する中国市場への異なる対応？：派遣駐在員の「関係」構築にみる日韓比較」 『ポスト世界金融危機の北東アジアと日韓関係』（2014.）. [\[Link\]](#)
 - 園田茂人 「中国の台頭はアジアに何をもたらしたかーアジア学生調査第2波調査・概要報告」 『アジア時報』 4月号（2014.）、36-57.
-

-
- 園田茂人 「中国の台頭をめぐる内外の温度差」 『東亜』 5月号 (2014.)、2-3.
 - Sonoda, Shigeto. "Can Singapore Model be a Model for China? Some Insights from the Data Analysis of the AsiaBarometer Survey." *Society Building: A China Model of Social Development*. Edited by Xiangqun Chang: Cambridge Scholars Publishing, 2014.: 81-90.
 - 園田茂人 「アジアの『アジア認識図』」 『アジア研究』 第59巻 1・2 (2014.)、23-27.
 - 園田茂人 「『社会爆発仮説』をめぐる」 『東亜』 2月号 (2014.)、2-3.
 - 園田茂人 「ニュースの本棚：中国の今後」 『朝日新聞』 (2013.).
 - Sonoda, Shigeto. "The Emergence of Middle Classes in Today's Urban China: Will They Contribute to Democratization in China?" *Chinese Middle Classes: China, Taiwan, Macao and Hong Kong*. Edited by Michael Hsiao Hsin-Huang: Routledge, 2013.: 234-248.
 - 園田茂人 「佐々木先生、中国研究、そして社会学——ある共同研究者による追憶」 『社会学雑誌』 第30巻 (2013.)、22-36.
 - 園田茂人 「常識を抉る方法としての比較：現代中国を眺めながら」 山本泰 佐藤健二 佐藤俊樹 編 『社会学ワンダーランド』 新世社、2013.、147-170.
 - 園田茂人 岸保行 「アジア日系企業における現地従業員の『まなざし』：時系列分析による知見から」 『組織科学』 第46巻 第4号 (2013.)、19-28.
 - 園田茂人 「グローバリゼーションからアジア社会学へ」 宮島喬 船橋晴俊 友枝敏雄 遠藤薫 編 『グローバリゼーションと社会学—モダニティ・グローバリティ・社会的公正』 ミネルヴァ書房、2013.、77-90.
 - 園田茂人 「まだ来ぬ政治の時代と中国理解」 『書齋の窓』 10月号 (2013.)、75-79.
 - 園田茂人 「新しいアジア像構築の試み—アジア・バロメーターの再分析プロジェクト」 『明日の東洋学』 30号 (2013.)、8-10.
 - 園田茂人 「対中ビジネス人材の戦略を問う(2)：日本人駐在員育成の理想と現実」 『日中経協ジャーナル』 1月号 (2013.)、24-27.
 - 園田茂人 「対中ビジネス人材の戦略を問う(1)：現地人管理職の力を引き出すために」 『日中経協ジャーナル』 12月号 (2012.)、24-27.
 - 園田茂人 「海図なき日中関係の時代にあって」 『パブリッシャーズ・レビュー』 10号 (2012.)、6面.
 - 園田茂人 「『文化イベント』にみる日中関係四〇年」 『UP』 11月号 (2012.)、28-34.
 - 園田茂人 「中華、華僑、文化大革命」 大澤真幸 編 『現代社会学大事典』 弘文堂、2012.
 - 園田茂人 「社会——調和社会建設の試みとその帰結」 『国際問題』 2月号 (2012.)、27-37.
 - 末廣昭 園田茂人 「日本社会のガラパゴス化を考える」 『学術の動向』 第17巻 第2号 (2012.)、60-65.
 - 園田茂人 「世論調査にみる日中相互イメージ」 『外交』 第10巻 (2011.)、50-53.
-

-
- 園田茂人 「中国城市“中産階級意識”社会的出現：基於天津市跨時分析（1997～2008）」『中国研究』 第11巻（2011.）、143-151.
 - 園田茂人 「『アジア比較研究のフロンティア』事始め」『明日の東洋学』 第26号 東京大学出版会（2011.）、2-4.
 - 園田茂人 「『アジア比較社会研究』事始め」 第26巻 『明日の東洋学』 東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター、2011.、1-4.
 - 園田茂人 「『不平等国家 中国』、その後」『アジア時報』 9月 アジア調査会（2011.）、36-71.
 - 園田茂人 「人の移動と社会の安定性：天津市におけるサーヴェイ調査からのアプローチ」渡辺利夫 21世紀政策研究所 朱炎 編 21世紀政策研究所叢書 『中国経済の成長持続性：促進要因と抑制要因の分析』 勁草書房、2011.、29-49.
 - 園田茂人 「アンケート 東大教師が新入生にすすめる本」『UP』 4月号 東京大学出版会（2011.）、18.
 - 園田茂人 「全球(グローバル)化という中国的(ローカルな)経験」『学術の動向』 第16巻 第4号（2011.）、19-27.
 - 園田茂人 「アジア・バロメーター：その意欲的な調査がめざしたもの」『社会と調査』 第6（2011.）、96.
 - 園田茂人 「日本とアジアを繋ぐ：アジア駐在経験をもつ日本人ビジネスマンのライフヒストリー I」、2011.、1-117.
 - Sonoda, Shigeto. "Emergence of Middle Classes in Today's Urban China: Will They Contribute to Democratization in China?" *International Journal of China Studies Special Issue: China in Transition: Social Change in the Age of Reform* 1, no. 2 2010.: 351-369.
 - 園田茂人 「現代中国における格差の位相」『中国—社会と文化』 第25号（2010.）、5-17.
 - 園田茂人 「階層化する中国のゆくえ」『無限大』 第127号（2010.）、74-80. [\[Link\]](#)
 - 園田茂人 「アジアの頭脳を獲得するために何をすべきか：2008年アジア学生調査からの戦略的知見」竹内宏 末廣昭 藤村博之 編 『人材獲得競争：世界の頭脳をどう生かすか！』 学生社、2010.、97-110.
 - 園田茂人 「『階級政治』なき格差拡大という逆説」『毛里和子編『NIHU現代中国早稲田大学拠点WICCS研究シリーズ1 日中学術討論会：中国ポスト改革開放30年を考える』』（2010.）、59-70.
-

書評論文・書誌紹介

- Sonoda, Shigeto. Review of *Tiger Girls: Women and Enterprises in the People's Republic of China*, by Chen Minglu. *The China Journal*, no. 72 (2014.: 164-165.
-

-
- 園田茂人 「書評：毛里和子・松戸庸子編 陳情：中国社会の底辺から」 『週刊読書人』 (2012.)、8 面.
 - 園田茂人 「書評：加藤隆則 中国社会の见えない掟：潜規則とは何か」 『東方』 370 号 東方書店 (2011.)、28-31.
 - 園田茂人 「書評：大橋史恵 現代中国の移住家事労働者」 『日本労働研究雑誌』 第 616 号 (2011.)、96-99.
-

口頭発表

- Sonoda, Shigeto 「因應中國風險：日韓台企業的挑戰」 中央研究院社会学研究所 2016 年 3 月 31 日.
 - Sonoda, Shigeto. "Why Chinese Citizens are so Positive toward Party and Government?: Chronological Analysis of Four-city Survey, 1998-2014.", Asian Center, University of Philippines, February 24 2016.
 - Sonoda, Shigeto 「How do people in Asia perceive cancer-related issues?」 名古屋国際会議場 2015 年 10 月 1 日. (英語)
 - Sonoda, Shigeto. "East Asian Views on China and Japan: Some Research Findings of AsiaBarometer 2003-2008.", Academia Sinica, June 23 2015.
 - Sonoda, Shigeto 「Explanation of the Project」 立教大学池袋キャンパス 2015 年 6 月 14 日. (英語)
 - Sonoda, Shigeto 「Why Chinese Citizens are so Positive toward Party and Government?: Chronological Analysis of Four-city Survey, 1998-2014」 東京大学東洋文化研究所 2015 年 6 月 12 日. (英語)
 - Sonoda, Shigeto. "Asian Student Survey Project: Its Aims, Accomplishments, and Challenges.", B110, Korea University, June 12 2015.
 - Sonoda, Shigeto. "Asian Youth and China's Rise: A Threat or an Opportunity? – Commenting the Results of the «Asian Student Survey 2013».", February 19 2015.
 - 園田茂人 「中国の台頭は脅威か、チャンスか：アジア学生調査第 2 波調査の結果を読み解く」 関西大学 2015 年 1 月 10 日.
 - Sonoda, Shigeto. "GUANXI Politics and Its Management: A Comparison of Japanese, Korean, and Taiwanese Companies in China.", Institute of Sociology, Academia Sinica, December 22 2014.
 - Sonoda, Shigeto. "The Rise of China and Importance of Perception: Missions of Our Collaborative Research.", Institute of Sociology, Academia Sinica, December 22 2014.
 - 園田茂人 「アジア的価値観・再訪」 青山学院大学アジアセンター 2014 年 12 月 20 日.
-

-
- Sonoda, Shigeto. "Analyzing Japan-China Relations from Socio-cultural Perspectives : My experience of editing A History of Japan-China Relations, 1972-2012 III&IV.", Center for China Studies, University of Sydney, December 3 2014.
 - 園田茂人 「中国・社会爆発仮説再訪」 京都大学経済研究所 2014年11月21日.
 - Sonoda, Shigeto. "Is Rise of China a Threat or a Chance?: Analysis of 2nd Wave Asian Student Survey.", University of Freiburg, August 10 2014.
 - Sonoda, Shigeto. "Is Rise of China a Threat or a Chance?: A Comparative Analysis of Determinant of Perception on China in Korea, Japan, and Taiwan.", Yokohama Minato Mirai, July 16 2014.
 - Sonoda, Shigeto 「Political Risk and Human Mobility: Chronology of 30-years of Japanese Multinationals in China」 慶応大学 SFC 2014年6月1日. (英語)
 - Sonoda, Shigeto. "IASA as a Geisha House: How we deal with Interdisciplinary Studies.", Asia Center, Seoul National University, March 20 2014.
 - Sonoda, Shigeto 「Cancer Care as a Regional Issue: Insights from AsiaBarometer」 Yonsei University 2014年2月22日. (英語)
 - 園田茂人 「中国人の心理と行動：『関係』の作り方」 キャナルシティ博多 2014年2月14日.
 - Sonoda, Shigeto 「Reexamining Myth of the Social Volcano: Challenges and Attainments of Chinese Four-city Survey, 1997-2006」 東洋文化研究所 2014年1月24日. (英語)
 - 園田茂人 「中国における階層変動と社会意識：ベトナムにおける社会意識研究への含意」 アジア経済研究所 2013年10月28日.
 - Sonoda, Shigeto 「Comparing Citizen's Evaluation toward Environment Issues in Asian 13 Mega Cities: Some Research Findings of AsiaBarometer 2003-08」 清華大学社会科学学院 2013年9月29日. (英語)
 - 園田茂人 「中国・アジア市場の特徴と拠点としての香港」 2013年9月17日.
 - 園田茂人 「アジアのアジア認識図」 アジア政経学会設立60周年記念シンポジウム：アジア研究における「ボーダー」の意味とその変化 2013年6月15日.
 - Sonoda, Shigeto. "Is Asian Sociology Possible? : Challenges and Attainment of Three-year Project 'Frontier of Comparative Studies of Asian Societies'(FY2010-2012).", Seoul National University, Asia Center, May 7 2013.
 - Sonoda, Shigeto 「Comparing East Asian Multinationals in China」 東洋文化研究所 2013年3月1日. (英語)
 - Sonoda, Shigeto 「Contrasting Attitude toward Emerging Chinese Market?: A Comparative Analysis of Expatriate Management of Korean and Japanese Multinationals」 ソウル市中央郵便局 23階会議室 2012年11月24日. (英語)
 - Sonoda, Shigeto 「Globalization and Social Inequality in Sociological Textbooks: Views from East Asia」 札幌学院大学 2012年11月3日. (英語)
-

-
- 園田茂人 「アジア・エリート大学生の意識調査を通じた留学事情」 青山学院大学アジアセンター 2012年10月25日.
 - 園田茂人 「現地化戦略の異なるタイプ? : 中国進出企業の日韓比較が示唆する現実」 新潟大学経済学部 2012年10月15日.
 - 園田茂人 「中国人の心理と行動: 広東ビジネスに深く入り込むために」 ホテルオークラ曙の間 2012年9月5日.
 - Sonoda, Shigeto. "Utilizing Different Social Capital in Different Social Settings: Comparative Analysis of Localization Process of Japanese, Korean, and Taiwanese Multinationals in mainland China, 2001-2010.", Asia Center, Seoul National University, April 17 2012.
 - 園田茂人 「国際社会学の観点からみたアジアビジネス展開の課題とその対応」 リーガロイヤルNBC 2012年3月23日.
 - Sonoda, Shigeto. "Is Grassroots Election A School for Democracy?: Chronological Analysis of Tianjin City Survey 2001-2010.", March 19 2012.
 - 園田茂人 「アジア・エリート大学生の『夢』 : グローバル時代の留学と就労」 スルガ銀行d-labo 2012年3月13日.
 - 園田茂人 「アジア13メガ都市を比較する: アジア・バロメーター2003-08の知見」 東京大学生産研究所 2012年2月4日.
 - Sonoda, Shigeto. "Emerging Socio-cultural Approaches to Asian Regional Integration Research.", December 12 2011.
 - 園田茂人 「比較の視点から見た対中企業進出: 日系・韓国系・台湾系企業における駐在員の特性変化にみる諸特徴」 2011年12月10日.
 - 園田茂人 「中国の都市中間層: その台頭がもたらす変化を読み解く」 2011年12月4日.
 - Sonoda, Shigeto. "Local Worker's Evaluation toward Japanese, Korean, and Taiwanese Companies: A Chronological Comparison.", October 14 2011.
 - Sonoda, Shigeto. "Utilizing Different Social Capital in Different Social Settings: Comparative Analysis of Localization Process of Japanese, Korean, and Taiwanese Multinationals in mainland China, 2001-2010.", October 13 2011.
 - 園田茂人 「市民社会の台頭は何をもたらしたか?」 2011年6月11日.
 - 園田茂人 「台日企業大陸投資聯盟之心理基礎—以江蘇、上海台日企業於2001-2011之 歴時分析」 2011年5月1日.
 - Sonoda, Shigeto. "Chair: Panel 251 "Understanding Asian Societies through AsiaBarometer: Challenges of Comparative Quantitative Analyses".", April 1 2011.
 - Sonoda, Shigeto. "Increasing Social Fluidity and Social Stability in Contemporary China.", 2011.
 - 園田茂人 「だから日本企業は苦戦する?」 2011年2月19日.
 - Sonoda, Shigeto. "Development of Japanese Sociology and Its Asian Connection.", December 18 2010.
-

-
- 園田茂人 「『全球化』という中国的経験」 2010年11月7日.
 - Sonoda, Shigeto. "Emerging Socio-cultural Approaches to Asian Regional Integration Research.", October 21 2010.
 - Sonoda, Shigeto. "Korean and Japanese Views on East Asian Community Building: Some Research Findings of Asia Student Survey, 2008.", October 15 2010.
 - Sonoda, Shigeto. "Different Perceptions of Social Inequality in China, India, and Russia: A Comparative Analysis of AsiaBarometer 2008.", July 25 2010.
 - Sonoda, Shigeto. "Emergence of Middle Classes in Today's Urban China: Will They Contribute to Democratization in China?", July 21 2010.
 - 園田茂人 「東アジアにおける結婚と幸福の比較社会学」 2010年6月21日.
 - 園田茂人 「アジア日系企業における現地従業員の『まなざし』：時系列分析による知見から」 2010年5月22日.
 - 園田茂人 「新中間層はどのような特徴をもっているか「アジア・バロメーター」」 2010年5月15日.
-

一般向け記事

- 園田茂人 「INTERVIEW 面子が立つか立たないか：それが付き合い方の基本」 『週刊東洋経済：中国語特集』 (2011.)、70-71.
-

新聞記事

- 園田茂人 「注目される『動く中国人』の役割」 『毎日新聞』 2014年2月10日.
 - 園田茂人 「日本人学生、留学生との競争 萎縮」 『日本経済新聞』 2011年2月28日.
 - 園田茂人 「<オピニオン>中国とどう付き合うか：基本原則貫くべきだった」 『産経新聞』 2011年1月7日.
-

VIII. 当該6年間の活動報告

1. 研究活動の評価

この6年の間に、共著書1点、編著9点（うち中文2点）、共編著3点（うち韓国語1点）、論文37点（うち共著3点、中文2点、英文7点）、共訳書1点、報告書4点、書評5点、随筆・事典項目など26点を公開し、国際学会などでの研究報告は76回を数える。東洋学研究情報センターでは6つのプロジェクトのマネジメントを行ったが、特筆すべきは、2010年度から12年度にかけて、日本学術振興会のアジア・アフリカ学術基盤形成事業の支援を受け、「アジア比較社会研究のフロンティア」と題するプロジェクトを実施し

たことである。これ以外にも、科研費 5 件（うち申請者 3 件）、民間財団での研究助成 2 件、合計 4,990 万円の研究費を獲得した。この間、本研究所で受入れた訪問研究員は 10 名に達する。

2. 教育活動の評価

2010 年度から 2014 年度まで学際情報学府アジア情報社会コースのコース長を務めた。また 2010 年度から 3 年間、「『アジア・グローバリゼーション・スタディーズ』若手研究者育成プログラム」の運営に関与し、多くの学生を海外に送り込んだ。それ以外にも、リーディング大学院プログラム「多文化共生統合人間学（IHS）」プログラムや、全学学部プログラム GLP(Global Leadership Program)も立ち上げから関与し、GEfIL 実践研究で「ダイバシティ」を運営する主幹メンターとなっている。

3. 所内、学内各種委員会などにおける活動

2012 年度にグローバルキャンパス構想推進室の室員となってからというもの、本学の全学規模で研究教育の国際化に貢献し、2015 年度からは国際本部副本部長（総長特任補佐）となっている。学外では、日本学術振興会では多くの審査業務に関わり、2010 年度に「科学研究費補助金審査委員・2010 年度表彰者」となった。また松下国際財団、国際交流基金、科学技術振興機構などでも審査業務に関わった。2011 年度から日本学術会議の連携会員、2012 年度からは人事院国家公務員採用試験・審査・調整担当試験専門委員となり、現在に至っている。

